岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第448集

平倉観音遺跡発掘調査報告書

ひらくらかんのん

県営ほ場整備猫川左岸地区工事関連遺跡発掘調査

岩手県遠野地方振興局農政部農村整備室

㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第448集

平倉観音遺跡発掘調査報告書　正誤表

頁	行(位置)	誤	正
4	地形図名(右下)	5万分の1地形図	5万分の1地形図　遠野
8	土層図の名前	調査区北南側	調査区北・南側
14	19	一行が抜けている	また、▽は断面の位置を示している。

平倉観音遺跡発掘調査報告書

ひら くら かん のん

県営ほ場整備猫川左岸地区工事関連遺跡発掘調査

序

四国四県に匹敵する広大な面積を有する岩手県は、埋蔵文化財の宝庫として知られており、その包蔵地の数は１万箇所を超えるとも言われております。これら先人達が遺した貴重な文化遺産を保護し、後世に伝えていくことは我々に課せられた責務でもあります。

一方、農業基盤整理や幹線道路網の整備など、社会資本の充実を図ることもまた行政上の大事な施策であり、そのため埋蔵文化財の保存・保護のもとに調整・調和のとれた地域開発を推し進めることが今日的な課題でもあります。

このような視点から、財団法人岩手県文化振興事業団では埋蔵文化財センターの創設以来、埋蔵文化財保護の立場にたって、県教育委員会生涯学習文化課による調整と指導のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅していく遺跡について発掘調査を行い、その記録を保存する措置をとってまいりました。

本書は、県営ほ場整備猫川左岸地区整備事業に関連して、平成14年度に行われた遠野市に所在する平倉遺跡の調査結果について収録したものであります。

調査の結果、弥生時代の遺物を主体とした遺跡包含層等が検出され、そこから弥生土器等の遺物が出土しております。

この報告書が広く活用され、斯学の研究に寄与するとともに埋蔵文化財に対する関心と理解をいっそう深めることに役立つことを切に希望いたします。

最後になりましたが、これまでの発掘調査及び報告書作成に協力とご支援を賜りました岩手県遠野地方振興局農政部農村整備室、遠野市教育委員会をはじめとする関係各位に衷心より感謝申しあげます。

平成 15 年 11 月

財団法人　岩手県文化振興事業団
理事長　合　田　　武

例　言

1．本報告書は、岩手県遠野市上郷町平倉第47地割字観音21番地ほかに所在する平倉観音遺跡発掘調査結果を収録したものである。

2．本遺跡の発掘調査は、県営ほ場整備猫川左岸地区工事関連事業に伴い、岩手県教育委員会生涯学習文化課・岩手県遠野地方振興局農政部農村整備室の協議を経て、㈶岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（以下埋文センターと略称）が記録保存を目的として実施した緊急発掘調査である。

3．今回の発掘調査による成果は平成14年度の岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第423集「岩手県埋蔵文化財発掘調査略報」にて公表してきたが、本書が公式な報告書であるので、上記の刊行物との違いがある場合は、現時点では本書が正しいものとする。

4．岩手県遺跡登録台帳番号と調査時の遺跡各次略号は、以下のとおりである。。

遺跡登録台帳番号……ＭＦ66－1099

遺跡略号……ＨＫＮ－02

5．野外の調査期間・調査面積と調査担当者は、以下のとおりである。

調査期間　　平成14年４月８日～５月31日

調査面積　　2,600㎡

担 当 者　　島原弘征・太田代一彦

6．調査の室内整理期間と整理担当者は、以下のとおりである。

整理期間　　平成14年11月１日～平成15年３月31日

担 当 者　　島原弘征・太田代一彦

7．本報告書の原稿執筆は、Ⅰ章の調査に至る経過を岩手県遠野地方振興局農政部農村整備室、他を担当者が分担して行い、島原以外の担当者が執筆した部分の文末には執筆者名を記している。編集は島原が行った。

8．座標原点の測量および空中写真撮影は、次の機関に依頼した。

座標原点の測量……㈱菊池技研コンサルタント

9．自然科学関連の分析は、次の機関に依頼した。（敬称略）

石質鑑定……花崗岩研究会

10．本報告書の作成にあたり、次の方々ならびに機関からご指導とご協力をいただいた。（敬称略）

遠野市教育委員会、小向裕明、佐藤浩彦、日下和寿、高瀬克範

11．野外調査にあたっては、遠野市内の方々に多大なるご協力をいただいた。

12．土層観察の土色は、『新版標準土色帳』（小山正忠・竹原秀雄：1992）によった。

13．本報告書で使用した地形図は、国土地理院発行のものであり、図中に図幅名と縮尺を記している。

14．本遺跡から出土の遺物および調査に関わる資料は、岩手県立埋蔵文化財センターに保管・管理している。

目　次

序
例言

〔本　文〕

第Ⅰ章　調査に至る経緯……1
第Ⅱ章　遺跡の位置と周辺の環境……2
　第１節　遺跡の位置と周辺の地形……2
　第２節　遺跡の概観……2
　第３節　基本層序……7
　第４節　周辺の遺跡……7
第Ⅲ章　調査の概要と整理方法……12
　第１節　調査経過……12
　第２節　野外調査の方法……12
　第３節　室内整理の方法……14
第Ⅳ章　検出遺構と出土遺物……16
　第１節　検出された遺構……16
　　（１）　土坑……16
　　（２）　遺物包含層……19
　　（３）　柱穴状土坑……19
　第２節　出土遺物……29
第Ⅴ章　まとめ……62
　報告書抄録
　職員一覧

〔図　版〕

第１図　岩手県全図……３
第２図　遺跡の位置図……４
第３図　周辺地形図……５
第４図　周辺の地形と調査範囲……６
第５図　基本土層柱状図……８
第６図　周辺の遺跡分布図……10
第７図　グリッド配置図……12
第８図　遺構配置図……15
第９図　ＳＫ01・02・06土坑……17
第10図　ＳＫ05・07・08・09土坑……18
第11図　遺物包含層平面図・分布図……20
第12図　遺物包含層南北ベルト断面……21
第13図　遺物包含層東西ベルト断面……22
第14図　柱穴状土坑（１）……23
第15図　柱穴状土坑（２）……24
第16図　柱穴状土坑（３）……25
第17図　柱穴状土坑（４）……26
第18図　遺構内・外出土遺物（土器１）……31
第19図　遺構外出土遺物（土器２）……32
第20図　遺構外出土遺物（土器３）……33
第21図　遺構外出土遺物（土器４）……34
第22図　遺構外出土遺物（土器５）……35
第23図　遺構外出土遺物（土器６）……36
第24図　遺構外出土遺物（土器７）……37
第25図　遺構外出土遺物（土器８）……38
第26図　遺構外出土遺物（土器９）……39
第27図　遺構外出土遺物（土器10）……40
第28図　遺構外出土遺物（土器11）……41
第29図　遺構外出土遺物（土器12）……42
第30図　遺構外出土遺物（土器13）……43
第31図　遺構外出土遺物（土器14）……44
第32図　遺構外出土遺物（土器15）……45
第33図　遺構外出土遺物（土器16）……46
第34図　遺構外出土遺物（陶磁器）……47
第35図　遺構外出土遺物（石器類１）……48
第36図　遺構外出土遺物（石器類２）……49

〔　表　〕

第１表　周辺の遺跡一覧表……11
第２表　柱穴状土坑観察表（１）……27
第３表　柱穴状土坑観察表（２）……28
第４表　柱穴状土坑観察表（３）……29
第５表　土器観察表……50
第６表　円盤状土製品観察表……60
第７表　土偶観察表……60
第８表　陶磁器観察表……60
第９表　石器観察表……61
第10表　土坑一覧表……62

〔写真図版〕

写真図版１　調査前風景・調査終了全景……65
写真図版２　土坑（１）……66
写真図版３　土坑（２）・遺物包含層……67
写真図版４　遺物包含層南北ベルト断面（１）……68
写真図版５　遺物包含層南北ベルト断面（２）……69
写真図版６　遺物包含層東西ベルト断面……70
写真図版７　柱穴状土坑……71
写真図版８　旧河道……72
写真図版９　遺構内外出土遺物（土器１）……73
写真図版10　遺構外出土遺物（土器２）……74
写真図版11　遺構外出土遺物（土器３）……75
写真図版12　遺構外出土遺物（土器４）……76
写真図版13　遺構外出土遺物（土器５）……77
写真図版14　遺構外出土遺物（土器６）……78
写真図版15　遺構外出土遺物（土器７）……79
写真図版16　遺構外出土遺物（土器８）……80
写真図版17　遺構外出土遺物（土器９）……81
写真図版18　遺構外出土遺物（土器10・陶磁器・石器）……82
写真図版19　遺構外出土遺物（石器２）……83

第Ⅰ章　調査に至る経緯

平倉観音遺跡は、「ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）猫川左岸地区」の施行に伴って、その事業区域に位置することから発掘調査することとなったものである。

当事業は、遠野市上郷町地内の受益面積91 ha の地区で、水田は昭和30年代に一部10 a 区画に整理されたが、区画状況が小さく農道の幅員も狭い状況であった。

又小用水路は土水路で濡水し、用水不足を補うために小排水路は用排兼用で浅く、排水不良となって湿田化しているなど、営農の機械化、耕地の汎用化、さらには農地の流動化、生活環境の向上など、高生産性農業を阻害していた。

これらの阻害要因を除去し、効率的で安定的な経営体に農地を集積し、高生産性農業の確立を図り、併せて農村環境水準の向上を資するために、大区画ほ場整備を実施するものとして、平成10年度新規採択された地区で、平成14年度で５年目である。

当事業の施行に係る埋蔵文化財の取扱いについては、岩手県遠野地方振興局農政部農村整備室から平成11年３月９日付け遠農整第539号「県営ほ場整備事業実施に伴う遺跡分布調査について（依頼）」の文章によって岩手県教育委員会に対して分布調査をしたのが最初である。

依頼を受けた岩手県教育委員会では、平成11年５月17日～19・24日調査を実施したが、その結果は平成11年６月８日付け教文第261号「県営ほ場整備事業実施に伴う遺跡分布調査について（回答）」で岩手県遠野地方振興局農政部農村整備室へ回答し、その際工事施工範囲内が平倉観音遺跡の範囲内であることが付記された。

回答を受けた岩手県遠野地方振興局農政部農村整備室では、平倉観音遺跡を平成13年10月12日付け遠農整第606号「ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）猫川左岸地区における埋蔵文化財の試掘調査について（依頼）」の文章によって岩手県教育委員会に対して、試掘調査を依頼した。

依頼を受けた岩手教育委員会では平成13年11月５日～７日に試掘調査を実施したが、その結果は平成13年12月５日付け教生第1254号「ほ場整備事業（担い手育成区画整理型）猫川左岸地区における試掘調査について（回答）」で岩手県遠野地方振興局農政部農村整備室へ回答し、その際平倉観音遺跡の発掘調査が必要である旨が付記された。

（岩手県遠野地方振興局農政部農村整備室）

第Ⅱ章　遺跡の位置と周辺の環境

第１節　遺跡の位置と周辺の地形

平倉観音遺跡は、岩手県遠野市上郷町平倉74地割ほかに所在する。遺跡は北緯39度16分46秒、東経141度35分00秒付近に位置する。本遺跡はＪＲ釜石線岩手上郷駅から南南西約0.5km、仙人峠から西流する早瀬川右岸の谷底平野に面した河岸段丘上に位置する。遠野市は北側に川井村・大迫町、東側に釜石市・大槌町、南側に住田町・江刺市、西側に宮守村・東和町が隣接している。人口は約27,000人で、市街地は中起伏山地に囲まれた遠野盆地と呼ばれる谷底平野に位置する。

北上山地のほぼ中央に位置する遠野盆地は、南北30km、東西20kmにも及ぶ北上山地最大の盆地であり、猿ヶ石川流域の谷底平野と開析扇状地が主なものである。北方には北上山地最高峰の早池峰山を望み、盆地周囲の六角牛山（1,294m）・石上山（1,038m）・薬師岳（1,644m）・高清水山（797m）・物見山（917m）・貞任山（886m）等の山々や、市内を流れる猿ヶ石川・小鳥瀬川・早瀬川等の河川により盆地が形成されている。盆地の縁辺部は標高1,000m前後の山地が囲んでおり、盆地底の沖積面は標高250～300mを測る。山地を除くと、この盆地は、大別して四つの地形面からなり、上位の地形面から見てみていくと、最初に盆地を囲む山麓緩傾斜面上に展開する標高300～400mの高位の緩斜面、次に250～300mの低位の緩斜面、さらに盆地底の沖積面より約５m程高い遠野段丘と呼ばれる河岸段丘が盆地内の河川沿いに形成され、最後に現河川沿いに、河床面との比高１～５mを測る沖積面とに区分される。本遺跡南を流れる早瀬川は上郷町の平野原・宇南林一帯で扇状地を発達させ、周囲の谷底平野との間に若干の比高差をもつ。

遠野盆地は花崗岩の分布域で、遠野花崗岩が主に盆地に分布している。この花崗岩は深層風化が進み砂質化している。盆地東縁及び西縁においては、古・中生界の粘板岩・石灰岩・輝緑凝灰岩等も分布している。盆地北部・東部の一部の更新世層には橙色～赤褐色の風化火山灰が分布するが、噴出源については不明である。早瀬川両岸の沖積地には広く砂礫層が堆積している。

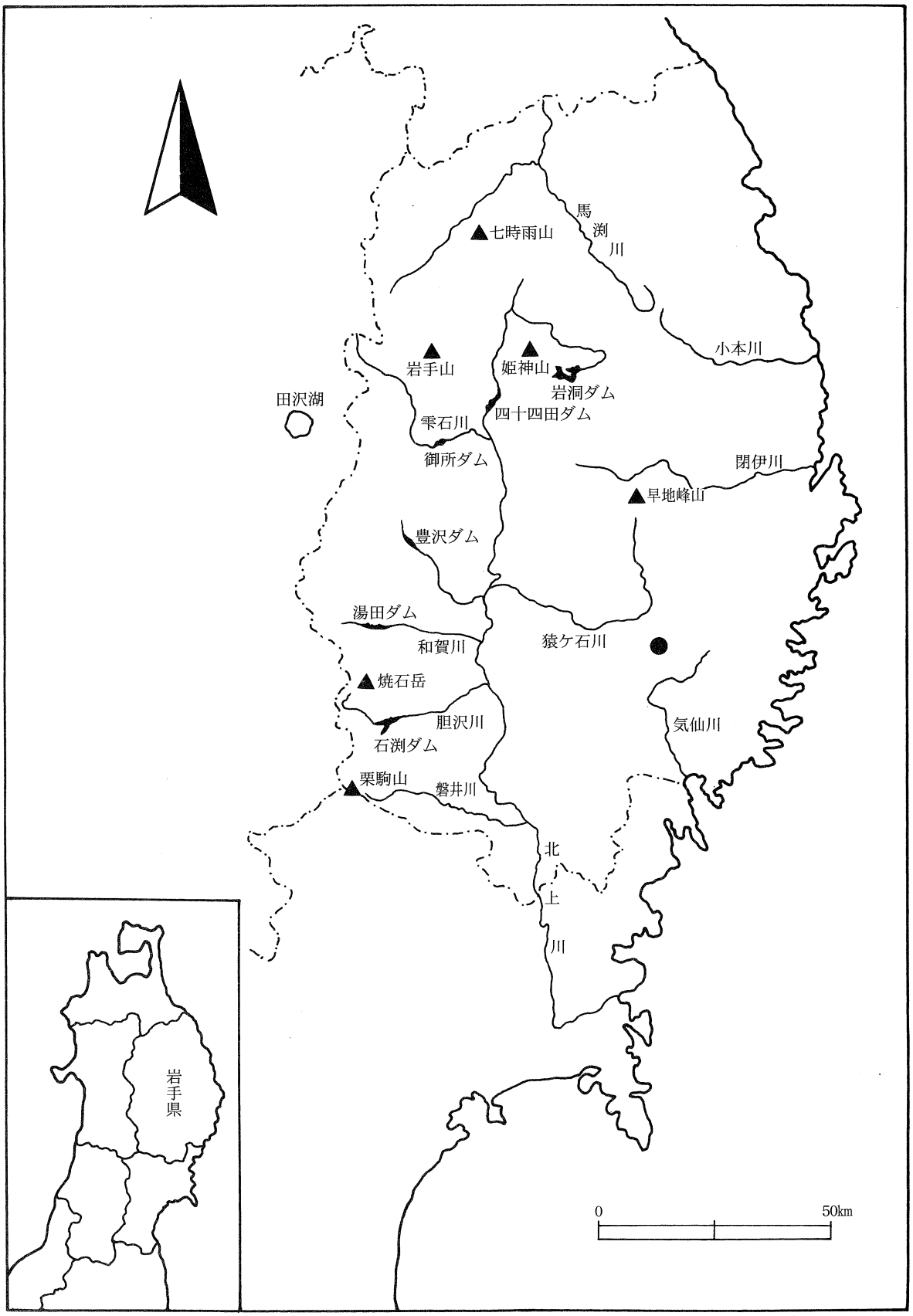
（太田代）

第２節　遺跡の概観

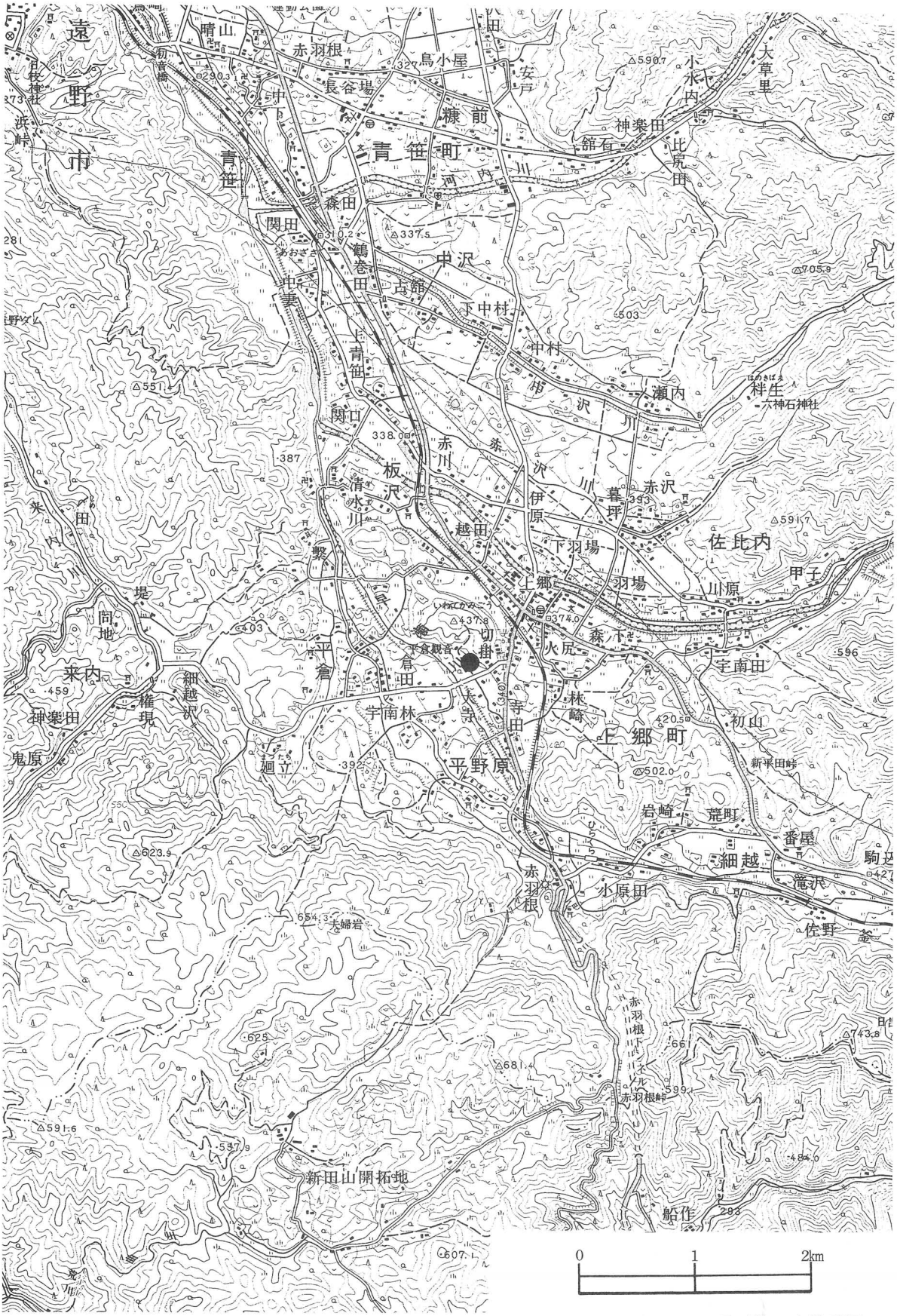
平倉観音遺跡は北上山地最大の盆地である遠野盆地の南東側に位置している。早瀬川とその支流である猫川との間に、これらの河川の開析によって形成された標高約440mの独立丘陵がある。この丘陵の南から少し張り出した、谷底平野に面する早瀬川右岸の河岸段丘上に遺跡は立地している。周辺の谷底平野・河岸段丘は、仙人峠の若木沢付近を水源として東から西に流れる早瀬川によって形成されたものである。

本遺跡の南には早瀬川が流れ、川の両岸には水田が広がっている。遺跡の北西には、慈覚大師が創建したものと伝えられる遠野七観音の一つである平倉観音が安置されているお堂が丘陵中腹に隣接している。また、この丘陵山付近には中世城館跡の刃金館が位置する。遺跡北側の丘陵は中生代層の花崗岩質岩石を主体としており、軟質部が露出している。

遺跡の位置する河岸段丘は早瀬川・中沢川・猫川・河内川などによって形成された扇状地が段丘化したもので、この段丘は遠野段丘と呼ばれる。面的には小規模なもので、花崗岩質砂と古生層のスレート・チャート等の礫が混じった、全体的に砂がちな沖積層が主に堆積し、段丘の縁辺部は河成堆積物と河川傍の山腹斜

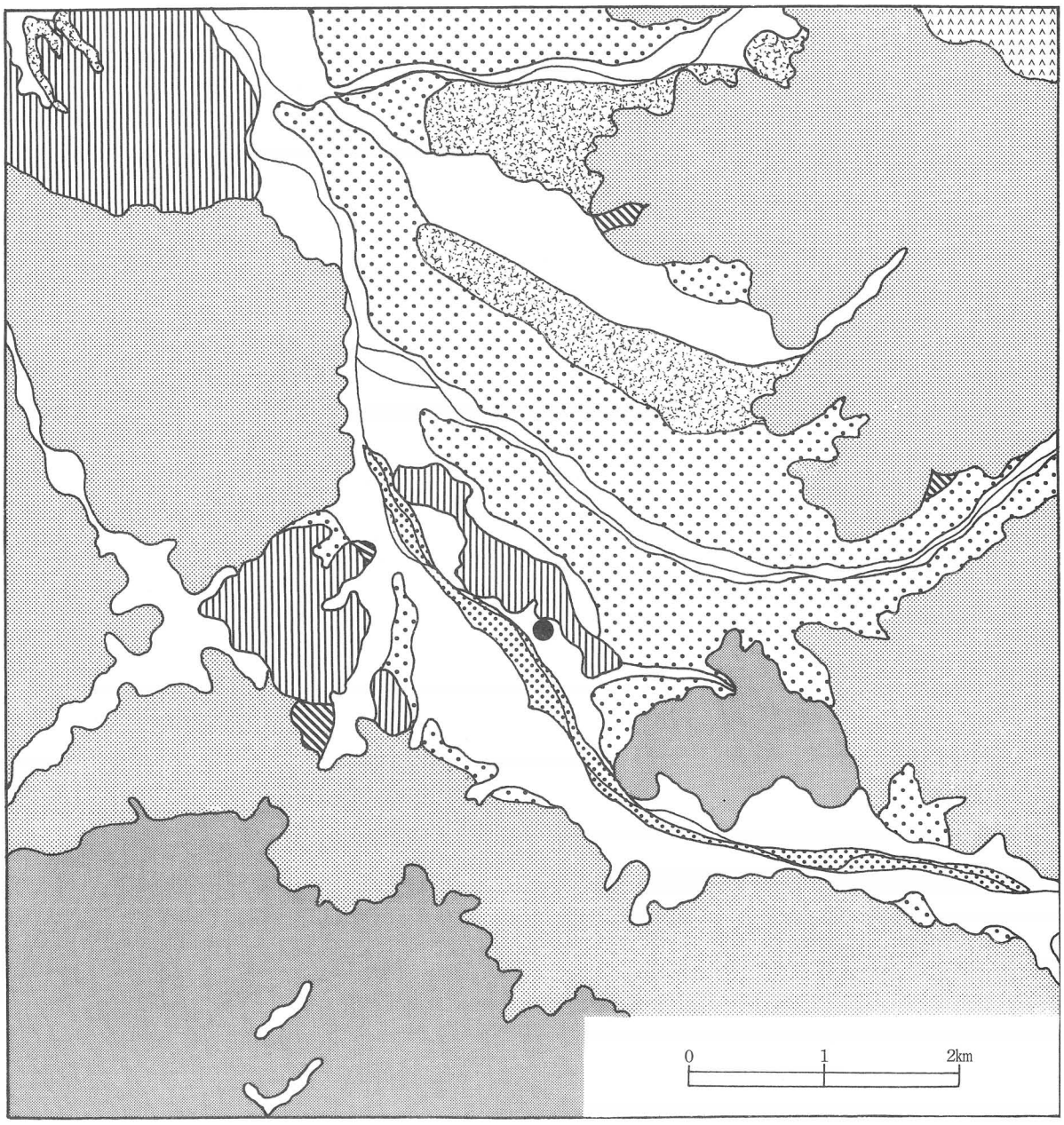

七時雨山
馬
渕
川
小本川
岩手山
姫神山
岩洞ダム
田沢湖
四十四田ダム
雫石川
御所ダム
閉伊川
早地峰山
豊沢ダム
湯田ダム
和賀川
猿ケ石川
焼石岳
胆沢川
気仙川
石渕ダム
栗駒山
磐井川
北
上
川
岩手県
0
50km

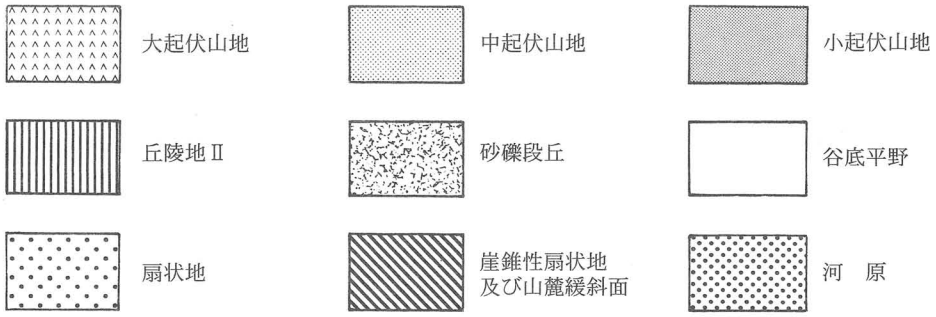
第１図　岩手県全図



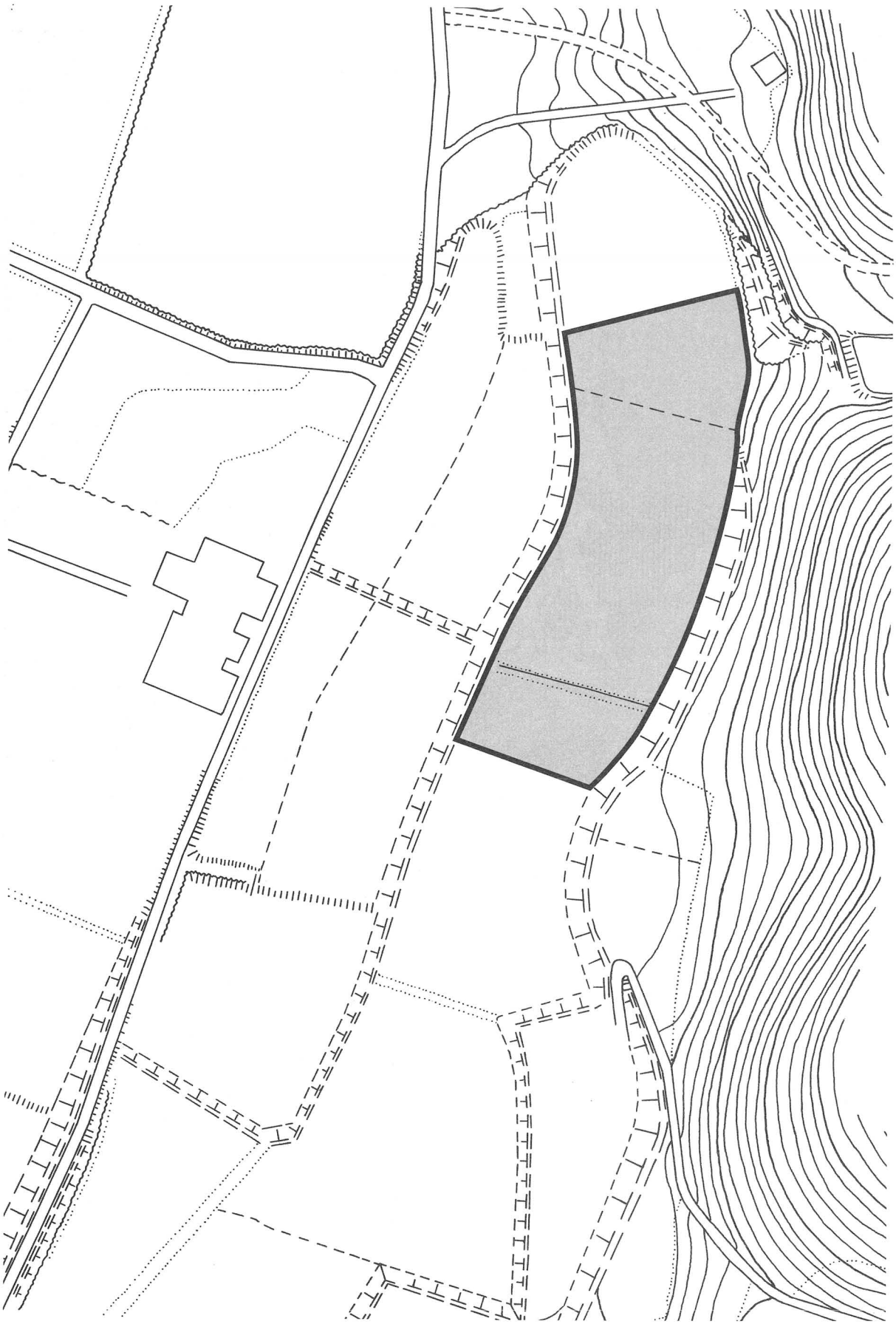
5万分の1地形図

第2図　遺跡の位置図


0
1
2km


大起伏山地
中起伏山地
小起伏山地
丘陵地Ⅱ
砂礫段丘
谷底平野
扇状地
崖錐性扇状地
及び山麓緩斜面
河　原

第３図　周辺地形図



第４図　周辺の地形と調査範囲

面などから供給された風化砂礫層が交互に入り混じって構成されている。

平倉観音遺跡は北側の丘陵に沿うように立地し、若干南側へ傾斜している。遺物包含層（面積約400㎡）が調査区東側に広がり、縄文時代後・晩期から弥生時代初頭の遺物が主に出土している。本遺跡の標高は約355～358m程で、現沖積面との比高は約５～６m程を測る。発掘調査前は水田として土地利用されており、昭和30年代に行われたほ場整備により遺跡中央付近の若干低い部分以外は削平を受けている。

（太田代・島原）

第３節　基本層序

今回の調査区では昭和30年代に行われた、前回のほ場整備やそれ以前の開田時の削平等によって後世の撹乱が著しい。基本的には耕作土であるⅠ層と遺構検出面であるⅤ層は共通しているものの、地区によって様々であるために分けて述べることとする。

北部は盛土層（Ⅱａ層）の下に旧耕作土（Ⅱｂ層）が薄く層状に堆積し、Ⅲ・Ⅳ層は確認されず検出面（Ⅴ層）に至る状況が見られる。

中央部は耕作土下にⅡａ層が堆積するが、その下は緩斜面部と急斜面部で様相が異なり、緩斜面部は一部窪んだ部分で開田時の削平を免れたⅣ層が確認される。基本的にはⅢ・Ⅳ層は削平され残存していないためⅡ層下はⅤ層に至る状況を呈するが、急斜面部は開田時に削平した土を盛っているためⅡａ層が厚く堆積している。旧表土層であるⅢ層も残存しているが、Ⅳ層は形成されなかったのか流出したのか不明だが確認されず、Ⅴ層に至っている。

南部は開田時の削平でⅡ・Ⅲ・Ⅳ層は消失し、Ⅰ層下がⅤ層に至る状況を呈している。

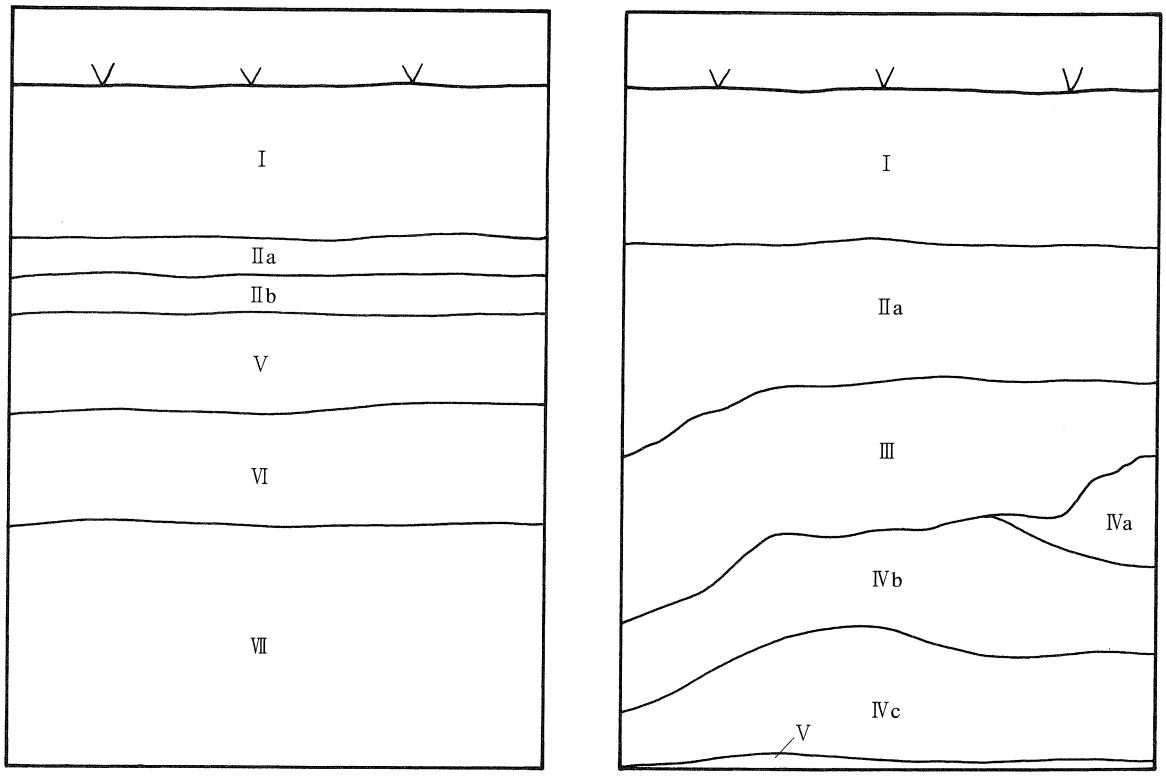
第４節　周辺の遺跡

岩手県教育委員会の遺跡台帳によると、遠野市内には309箇所の遺跡が確認されている。平倉観音遺跡は遠野市の南東部に位置し、遠野市と住田町との境が近いため、住田町の新田山開拓地付近と気仙川の支流である坂本川上流域に分布している遺跡も含め、遠野市48遺跡、住田町５遺跡を図示した。

図中の周辺遺跡は、縄文時代の遺跡が43遺跡あり、そのうち集落跡が５遺跡を数え、他は散布地となっている。中世の遺跡は城館跡で６遺跡、平安時代の遺跡は２遺跡を数え、中世城館跡と縄文時代、平安時代と縄文時代が複合しているのがそれぞれ１遺跡づつある。江戸時代の遺跡では一里塚が２遺跡ある。詳細な発掘調査をされている遺跡は少ない。

平倉観音遺跡の北西側には、慈覚大師円仁の布教巡行中に創建されたと伝えられる遠野七観音の一つ、平倉観音が安置されている御堂が丘陵中腹に隣接している。

縄文時代の遺跡は、本遺跡より北西方向の早瀬川右岸に縄文後期集落の清水川Ⅰ遺跡（23）が、南東方向には縄文前期から中期初頭の集落跡である林崎遺跡（37）がある。早瀬川を挟んだ対岸の平野上には縄文晩期集落の地崎遺跡（34）が位置し、同じく対岸の河岸段丘上には縄文時代の散布地である平倉遺跡（42）・平野原遺跡（43）がある。青笹付近の早瀬川と河内川の合流地点付近から早瀬川右岸の河岸段丘上及び谷底平野上には、晴山Ⅳ遺跡（２）・赤羽Ⅱ遺跡（４）・中下遺跡（８）・八幡Ⅱ遺跡（11）などの縄文時代の遺



調査区北南側　　調査区中央

平倉観音遺跡基本土層

Ⅰ層　10YR2/1　黒　しまり無　粘性有（耕作土）層厚20～30cm

Ⅱa層　10YR4/2　灰黄褐　しまり有　粘性少し有（前回のほ場整備時の盛土）層厚５～15cm

Ⅱb層　10YR2/2　黒褐　しまり有　粘性少し有（前回のほ場整備以前の耕作土）調査区中央付近に堆積

Ⅲ層　10YR3/1　黒褐　しまりやや有　粘性少し有（旧表土）調査区中央

Ⅳa層　10YR2/1　黒　しまり非常に有　粘性少し有（遺物包含層１）層厚５～10cm

Ⅳb層　10YR1.7/1　黒　しまり有　粘性少し有（遺物包含層２）層厚15～30cm

Ⅳc層　10YR2/1　黒　しまり有　粘性少し有（遺物包含層３）層厚５～15cm

Ⅴ層　10YR4/6　褐　しまり有　粘性有　遺構検出面

Ⅵ層　10YR6/1　褐灰　しまり有　粘性無　砂質シルト

Ⅶ層　10YR4/4　褐　しまり有　粘性有　５～10cm礫含む

第５図　基本土層柱状図

跡が集中して分布している。遺跡の分布は、早瀬川とその支流流域の谷底平野及び河岸段丘に多くみられ、平倉観音遺跡も早瀬川流域の谷底平野に面した河岸段丘上に立地している。また、河川による開析で形成された丘陵地形や山麓地形の緩斜面上にも遺跡が集中する。縄文時代の遺跡は多く、時期は全般にわたっているが、早期・前期が主体を占める傾向が見受けられる。

中世の遺跡は主に城館跡で、これらの中世城館跡の立地している地形は主に平野に張り出している尾根の先端部、あるいは台地上である。本遺跡の北側にある丘陵の西側緩斜面上には刃金館（35）が位置している。早瀬川沿いには、篠館（46）・板沢館（22）・臼館（18）など、釜石や住田への街道筋をみおろす場所に城館跡が確認されており、中でも篠館（46）は平成10・11年に発掘調査が行われ、15～16世紀にかけての曲輪32箇所、武者走り状遺構２箇所、堀跡９条、土塁９箇所等の遺構が確認され、境目ないし詰めの城的な性格を持つ山城ではないかと報告されている。（太田代）

引用・参考文献

１．北上山系開発地域　土地分類基本調査　遠野　５万分の１　1970年

２．(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　『高瀬Ⅰ遺跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第155集　1991年

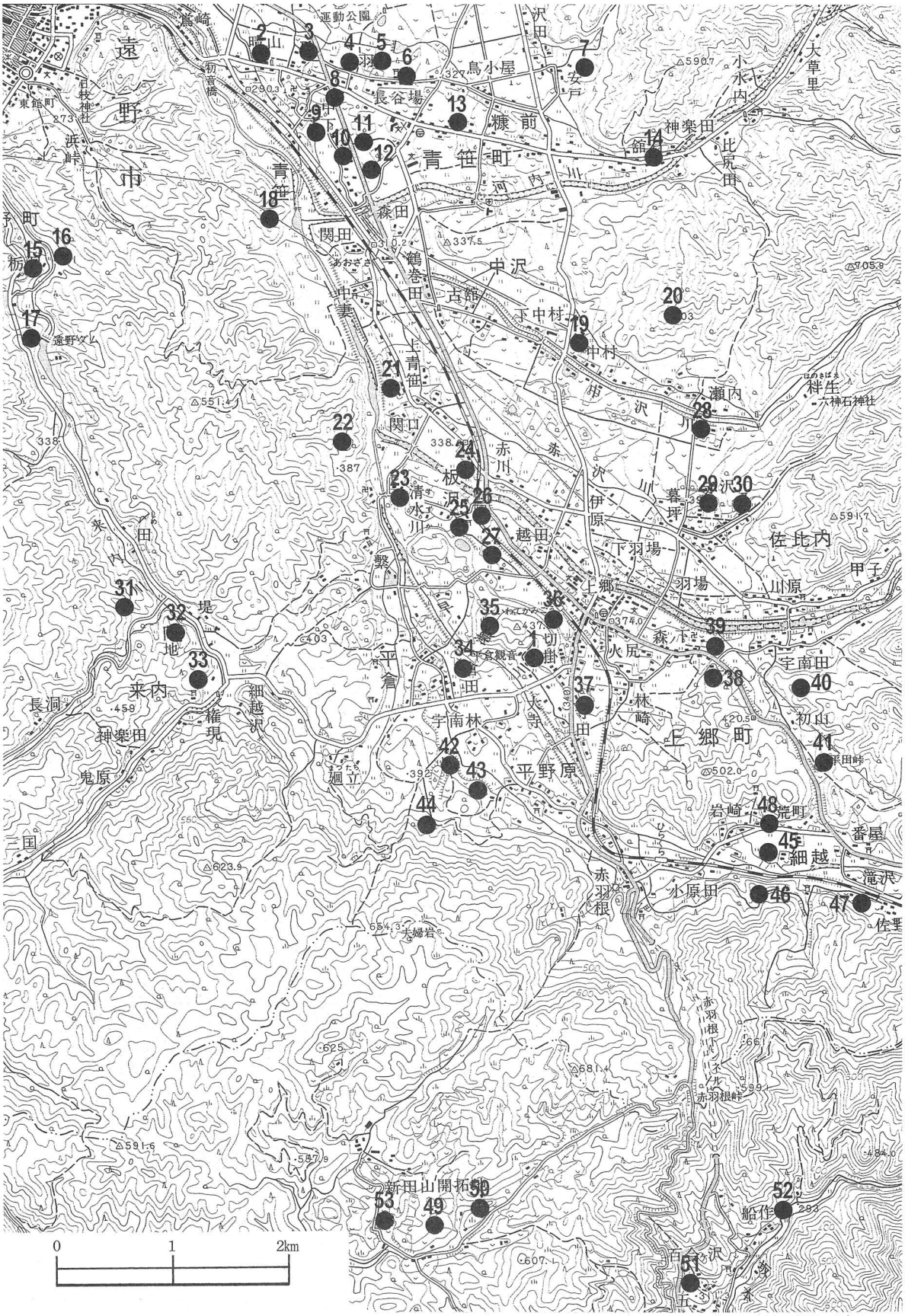
３．(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター　『篠館跡発掘調査報告書』
岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第353集　2000年

４．岩手県遠野市教育委員会　『甲子遺跡』　遠野市埋蔵文化財調査報告書第11集　1998年

５．岩手県遠野市教育委員会　『新田Ⅱ遺跡』　遠野市埋蔵文化財町紗報告書第13集　2002年

６．菅原啓・高橋節子　「遠野盆地の緩斜面と段丘の成因について」　『東北地理』第26巻第１号　1974年

７．『遠野市史』



5万分の1地形図　遠野

第6図　周辺の遺跡分布図

第１表　周辺の遺跡一覧表

No.	遺跡名	種　別	時　代	遺構・遺物
1	平倉観音	散布地	縄文・弥	縄文土器（後末期）・注口土器・弥生土器・遺物包含層
2	晴山Ⅳ	散布地	縄文	縄文土器
3		散布地	縄文	縄文土器
4	赤羽Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器
5	長谷場	散布地		
6	天王	散布地	平安	須恵器
7	安戸	散布地		
8	中下	散布地	縄文	縄文土器
9	合田	散布地		土器
10	八幡Ⅰ	散布地	土器	
11	八幡Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器
12	下関	散布地	縄文	縄文土器
13	善応寺	散布地		土師器
14	館石	散布地		土器
15	夫婦石袖高野	集落跡	縄文	青竜刀形石器・炉跡
16	栃洞	散布地	縄文	縄文土器・土師器
17	〆田	散布地	縄文	縄文土器
18	臼館（丑館）	城館跡	中世	堀・平場
19	館山麓	散布地	縄文	石皿・石鏃
20	中沢Ⅱ	城館跡	中世	平場・土塁・空堀
21	太田	散布地	縄文・平	石皿・石弾・土師器
22	板沢（大洞）館	城館跡	中世	堀・平場・帯郭
23	清水川Ⅰ	集落跡	縄文	縄文土器（後期）・石棒・石斧
24	赤川	散布地	縄文	縄文土器・石斧・石鏃
25	清水川Ⅱ	散布地		土器
26	赤川一里塚	一里塚	江戸	
27	越田	散布地		土器
28	瀬内	集落跡	縄文	縄文土器（前末～中初期）・石斧
29	暮坪前	散布地		土器
30	赤沢	散布地		土器
31	長洞	散布地	縄文	縄文土器（後期）
32	同地	散布地	縄文	縄文土器（晩期）
33	権現	散布地	縄文	縄文土器・石斧・石鏃
34	地崎	集落跡	縄文	縄文土器（晩期）・石斧・石篦
35	刃金館	城館跡	中世	堀・平場・帯郭・土塁
36	切掛	散布地	縄文	縄文土器・石鏃
37	林崎	集落跡	縄文	縄文土器（前末～中初期）・磨製石斧・土偶・石錐・石匙・石鏃
38	森ノ下Ⅰ	散布地・城館跡		
39	森ノ下Ⅱ	散布地	縄文	縄文壷
40	太田館	城館跡	中世	堀・土塁・平場・帯郭
41	滑田一里塚	一里塚	江戸	
42	平倉	散布地	縄文	縄文土器・磨製石斧
43	平野原	散布地	縄文	縄文土器（中期）・石器
44	宇南林	城館跡		
45	岩崎	散布地	縄文	縄文土器
46	篠館（関口館）	散布地・城館	縄文・中	縄文土器・石鏃・石錐・土塁・空堀・平場・帯郭
47	滝ノ沢	散布地		
48	寺屋敷	散布地	縄文	縄文壷
49	新田山Ⅱ	散布地	縄文	縄文土器（後期）
50	新田山Ⅰ	散布地	縄文	縄文土器（後期）
51	上の平	散布地	縄文	縄文土器（後・晩期）
52	船作	散布地		土師器・土器
53	新田Ⅲ	散布地	縄文	縄文土器（後期）

第Ⅲ章　調査の概要と整理方法

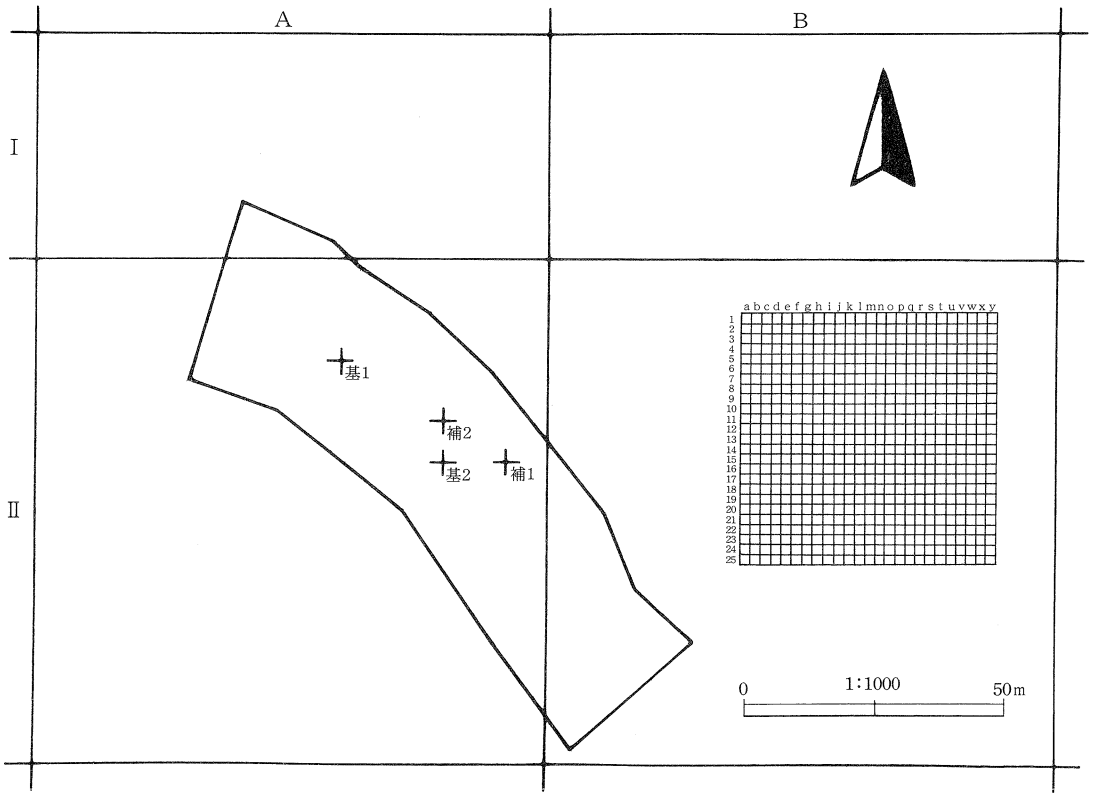
第１節　調査経過

野外調査は４月８日から５月31日まで行った。４月８日午後作業開始、現場設営を行う。４月９日より調査を開始する。前年度生涯学習文化課が試掘したトレンチを順次再掘して、検出面、基本層序を確認する。同16日より重機を投入して表土除去ならびに遺構検出を行う。25日基準点設置。遺構数も概ねこの段階には確定したので遺物包含層ならびにそれを切っている溝を中心に精査を開始する。５月に入ると、遺物包含層を切っていた溝が断面観察の結果、旧河道であることが判明したので、遺物が出土する部分のみ精査を行うことに方針変更、他の遺構の精査を開始。中旬までは順次遺構精査を進める。22日生涯学習文化課による終了確認が行われる。終了確認前後には実測ならびに旧河道のうち遺物が出土する部分のみの精査が作業の中心となる。同31日には器材を撤収し、埋め戻しを行い調査を終了した。

第２節　野外調査の方法

１．グリッドの設定（第７図）

今回の調査区域全体をカバーできるよう世界座標に合わせて座標設定及びグリッド設定を行うこととした。調査区外の北西隅を始点とし100m間隔で北から南に向かってⅠ、Ⅱ、Ⅲとローマ数字を、西から東に向かってA、B、Cとアルファベットの大文字を当てて大グリッドを設定した。各大グリッド内に４m間隔で25等分して、大グリッドと同様に北から南に１～25とアラビア数字を、西から東にａ～ｙとアルファベッ



第７図　グリッド配置図

ト小文字を当てて、それらの組み合わせで小グリッドを表すこととした。作業を行う際にはグリッドの北西隅の杭にグリッド名を記入し、ＩＡ１ａグリッドというような呼称をした。また、調査区が世界座標軸に対して西へ傾いているため、調査区全体をカバーするような区割りを行った際に原点が調査区外に位置してしまった。原点の座標値（世界測地系）は以下の通りである。

Ｘ＝－79,500.00　Ｙ＝64,600.000

また、実際にグリッド設定を行う際には、基準点を業者に委託して打設することとした。調査時にはその基準点を使用して調査区の区割り・グリッド設定を行った。各地区で使用した基準点の座標値は以下の通りである。

基準点名	Ｘ座標	Ｙ座標	基準点名	Ｘ座標	Ｙ座標
基１	－79,620.000	64,660.000	補１	－79,640.000	64,692.000
基２	－79,640.000	64,680.000	補２	－79,632.000	64,680.000

２．粗掘と精査

粗掘は平成13年度に行われた試掘結果をもとに試掘トレンチを再掘し、土層断面を観察した。遺物がほとんど見られないⅠ・Ⅱ層に関しては重機を使用して除去することとしたが、遺物包含層周辺はⅡ層中からも遺物が一定量出土していたため、遺物出土量が少ない表土は重機でⅡ層より下は人力で除去している。

精査は基本的に土杭は２分法による埋土の観察を行った。遺物包含層に関してはグリッド軸に合わせたベルトを設定し堆積状況を観察し、その断面観察をもとに上の層から１層ずつ掘り下げて遺物を取り上げた。旧河道は適時ベルトを設定し埋土の観察を行った。

遺物の取り上げは遺構外に関してはグリッド名と層位、遺構内に関しては遺構名と埋土層位を、遺物包含層はグリッド名と層位を記入し、出土地点を実測した遺物に関しては取り上げ番号も記入した。

３．遺構の記録

遺構の記録は実測図と写真撮影により、図面で表現できない所はフィールドカードに記録している。図面は遺構の平面形、遺物出土状況を記録した平面図、ならびに遺構の断面形・埋土の堆積状況を記録した断面図を作成し、適時エレベーション図も作成した。作図は簡易遺り方測量を準用し、精査途中で随時作図記録した。縮尺は基本的には１/20を原則とし、規模が長大な旧河道に関しては平板測量で１/50で作図した。

写真は遺構検出状況。埋土堆積状況、遺物出土状況、完掘状況というように精査の各段階毎に必要に応じて撮影を行っている。フィルムは35㎜判のモノクロとリバーサルを使用している。また、状況に応じてデジタルカメラ・ポラロイドを使用してメモ的写真を撮影している。

第３節　室内整理の方法

図面点検・遺物の洗浄・写真整理は原則的に現場で行うこととしたが、期間の後半は調査に追われ、一部は野外調査終了後に行っている。

１．遺構図面

遺構図面は点検後、第二原図を作成した。挿図中の縮尺は土杭は１/40、柱穴状土坑の平面図は１/100を原則として、任意縮尺に関してはスケールをつけている。また、使用したスクリーントーンに関しては図中に凡例を示した。

２．遺物

遺物は洗浄後、出土遺物の全てを点検し、遺構内外の種別毎に仕分けを行い、注記・接合・復元と作業をすすめ、実測・採択が必要なものを選んで登録した。実際には登録した遺物からさらに絞り込んで実測・トレース・写真撮影・図版作成を作業を進め、報告書に掲載する形を取っている。実際の作業に関しては調査員が仕事の計画と指示・点検を、作業員が実際の仕事を行うという具合に分担している。

報告書に掲載した遺物の掲載基準は、土器は完形品と接合復元したものの中で器形がおおよそ把握できるものは掲載している。遺構内から出土した遺物は点数が少ないため口縁部・底部破片を、遺物包含層・旧河道から出土した遺物に関しては口縁部・底部破片を中心に選択している。

石器・石製品に関しては点数が少ないこともあり登録した全点を掲載したが、一部写真のみ掲載の遺物もある。

縮尺は土器は原則として1/3だが器高25cm以上の土器に関しては1/4、剥片石器に関しては1/2である。これらの原則と異なる縮尺の図面には脇に縮尺を表記することとし、任意の縮尺に関しては脇にスケールをつけている。

３．写真

野外調査中に撮影した写真は、撮影順に対応するようにフィルムの種類毎にモノクロはネガアルバムにリバーサルはスライドファイルに整理して台帳に記入した。

遺物は当センターの写真技師が登録した遺物を35mm判フィルムで撮影し、現像終了後、種別毎に整理を行っている。

旧河道 1
SK06
基1
SK05
SK07
SK08
補2
旧
河
道
2
SK01
SK02
基2
補1
SK09
遺物包含層
0
20m

第８図　遺構配置図

第Ⅳ章　検出遺構と出土遺物

今回の発掘調査で検出された遺構は土坑７基（ＳＫ01・02・05～09)、遺物包含層１箇所、柱穴状土坑154基である。土坑は検出当初に遺構番号を連番で振り分けたため、没遺構の番号はそのまま抹消し、番号を詰めることをしなかったため、連番にはなっていない。また、時期不明遺構が多いことから遺構の種別毎に記述を進めていくこととする。

第１節　検出された遺構

（１）土坑

ＳＫ01土坑（第９図、写真図版２）

調査区中央、ⅡＡ10ｔグリッドに位置し、Ⅴ層上面で検出した。平面形・規模は楕円形を呈し、開口部径239×157㎝、底部径191×116㎝を測る。断面形は皿状を呈し、深さ16㎝を測る。埋土は上位は黒褐色土、下位はにぶい黄褐色土を主体とした自然堆積で２層に細分された。底面は概ね平坦である。遺物は埋土中から弥生土器片が２点が出土した。このうち掲載した遺物は、埋土中より出土した弥生土器（１）である。

ＳＫ02土坑（第９図、写真図版２）

調査区中央、ⅡＡ10ｕ・ｖグリッドに位置し、Ⅴ層上面で検出した。平面形・規模は円形を呈し、開口部径168×139㎝、底部径147×127㎝を測る。壁は鋭角的に立ち上がり、深さは25～33㎝である。埋土は黒色土を主体とした単層で人為堆積を呈する。底面は概ね平坦である。遺物は弥生土器が小袋１袋分出土した。このうち掲載した遺物は、埋土中より出土した縄文土器（２）と不定形石器（404）である。

ＳＫ05土坑（第10図、写真図版２）

調査区北部、ⅡＡ６ｏ・ｐグリッドに位置し、Ⅴ層上面で検出された。平面形・規模は楕円形を呈し、開口部径140×87㎝、底部径112×63㎝を測る。断面形は皿状を呈し、深さ13～19㎝を測る。埋土は褐灰色土を主体とした自然堆積の単層である。底面は概ね平坦である。遺物は出土しなかった。

ＳＫ06土坑（第９図、写真図版２）

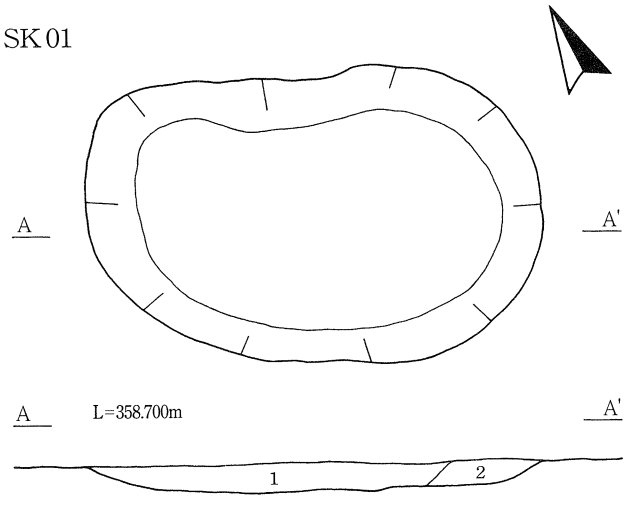
調査区北部、ⅡＡ４ｑ・ｒグリッドに位置し、Ⅴ層上面で検出された。平面形・規模は楕円形を呈し、開口部径360×280㎝、底部径269×151㎝を測る。壁は下半部は外傾して、上半部は鋭角的に立ち上がる。深さは62～65㎝を測る。埋土は上・中位が黒色土、下位は褐色土を主体とした自然堆積で16層に細分された。底面は概ね平坦である。遺物は弥生土器片が９号袋半分程出土している。

ＳＫ07土坑（第10図、写真図版３）

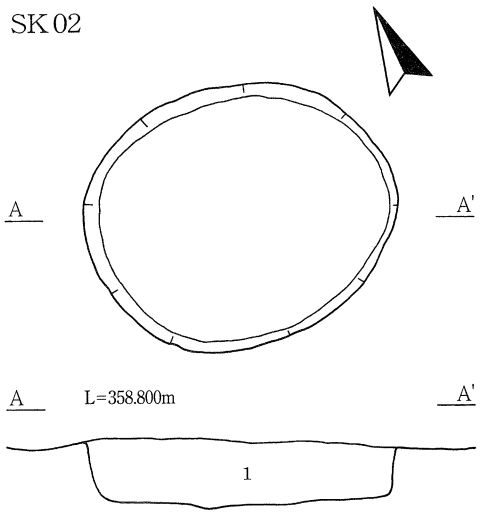
調査区北部、ⅡＡ６ｓグリッドに位置し、Ⅴ層上面で検出された。平面形・規模は楕円形を呈し、開口部径137×87㎝、底部径69×41㎝を測る。断面形は逆台形状を呈し、深さ約40㎝である。埋土は上位がにぶい黄褐色土、下位は灰黄褐色土を主体とした自然堆積で２層に細分された。底面は概ね平坦である。遺物は出土しなかった。

ＳＫ08土坑（第10図、写真図版３）

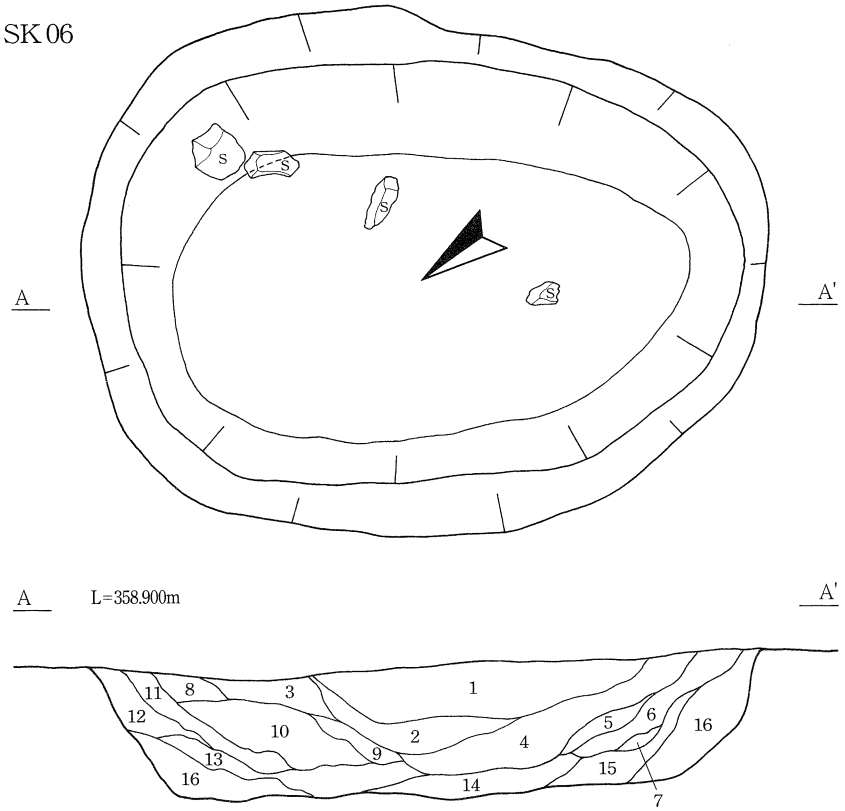
調査区北部、ⅡＡ６ｓグリッドに位置し、Ⅴ層上面で検出された。平面形・規模は楕円形状を呈し、開口部径203×131㎝、底部径107×75㎝を測る。断面形は逆台形状を呈し、深さ33～39㎝を測る。埋土にぶい黄



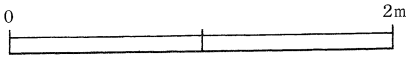
SK01
1．10YR3/2　黒褐　しまりやや有　粘性有　黒色土ブロック含む
2．10YR4/3　にぶい黄褐　しまりやや有　粘性有　黒褐色土を含む



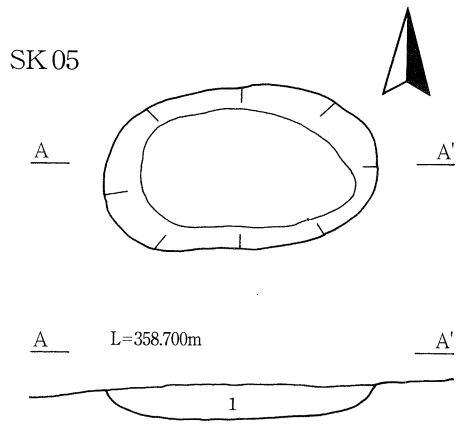
SK02
1．10YR1.7/1　黒色　しまり有　粘性有　褐色ブロックと炭を含む



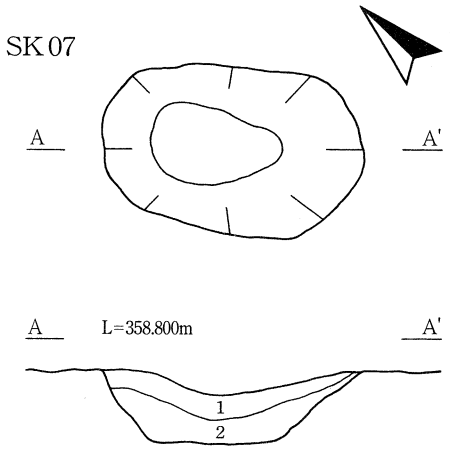
SK06
1．10YR1.7/1　黒　しまりやや有　粘性非常に有　灰白色土を含む
2．10YR2/1　黒　しまりやや有　粘性非常に有　灰白色土を含む
3．10YR3/3　暗褐　しまりやや有　粘性やや有　黒褐色・灰白色土を含む
4．10YR2/2　黒褐　しまりやや有　粘性非常に有　灰白色土を粒状に含む
5．10YR3/1　黒褐　しまりやや有　粘性有　暗褐色土ブロックを含む
6．10YR4/4　褐　しまり有　粘性有　暗褐色土・褐色ブロックを含む
7．10YR5/4　にぶい黄褐　しまり有　粘性少し有　暗褐色土を含む
8．10YR3/2　黒褐　しまり有　粘性やや有　黒褐色・灰白色土を含む
9．10YR3/1　黒褐　しまりやや有　粘性有　暗褐色ブロックを含む
10．10YR4/2　灰黄褐　しまり有　粘性少し有　浅黄色・灰白色土と炭を含む
11．10YR2/1　黒　しまり有　粘性有　暗褐色・灰白色土を含む
12．10YR1.7/1　黒　しまり有　粘性有　褐色・暗褐色土を含む
13．10YR1.7/1　黒　褐色土を混入
14．10YR3/3　暗褐．しまり有　粘性有　褐色土と炭を含む
15．2.5Y4/3　オリーブ褐　しまり有　粘性無　灰白色土を粒状に含む
16．10YR4/4　褐　しまりやや有　粘性有　浅黄色土を混入



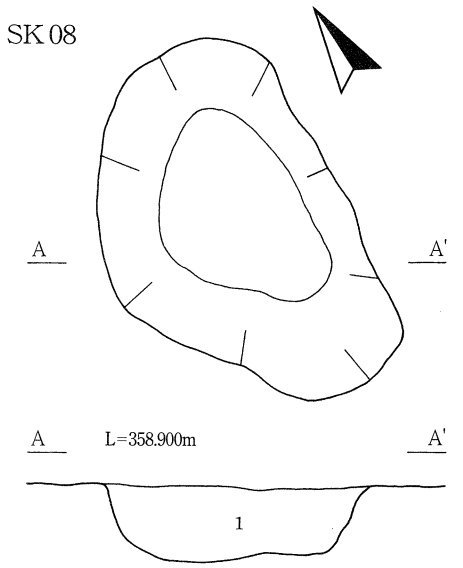
第９図　ＳＫ01・02・06土坑



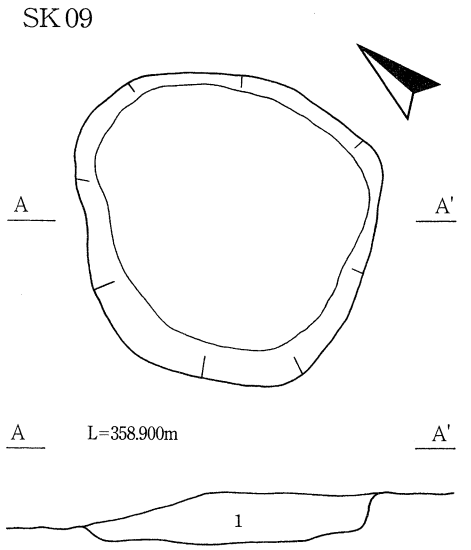
SK05
1．10YR4/1　褐灰　しまり有　粘性やや有
　褐色土をやや含み水酸化鉄・炭・焼土ブロックを少量含む



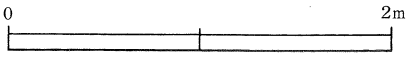
SK07
1．10YR4/3　にぶい黄褐　しまり有　粘性有　上位で褐灰色を含む
2．10YR4/2　灰黄褐　しまり有　粘性有　灰白色土を微量含む



SK08
1．10YR4/3　にぶい黄褐　しまり有　粘性有　上位で褐灰色土を含む



SK09
1．10YR1.7/1　黒　しまり有　粘性少し有　黒褐色土・灰白色土を含む



第10図　ＳＫ05・07・08・09土坑

褐色土を主体とした自然堆積の単層である。底面は概ね平坦である。遺物は出土しなかった。

ＳＫ09土坑（第10図、写真図版３）

調査区中央、ⅡＢ12ａ・ｂグリッドに位置し、Ⅴ層上面で検出された。開田時の削平により西半部の上半部を消失している。平面形・規模は円形状を呈し、開口部径163×160cm、底部径141×137cmを測る。断面形は逆台形状を呈し、深さは11～19cmである。埋土は黒色土を主体とした単層で人為堆積を呈する。底面は概ね平坦である。遺物は出土しなかった。

（２）遺物包含層

遺物包含層（第11～13図、写真図版３～６）

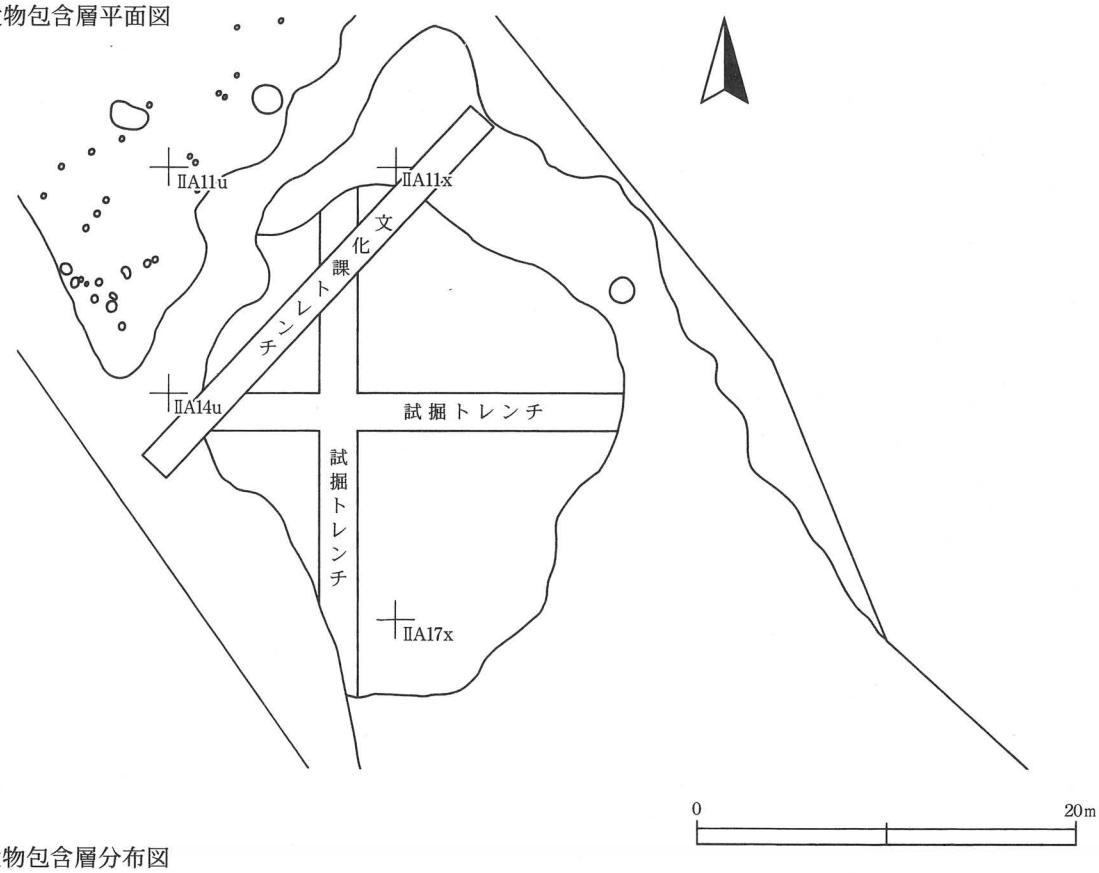
調査区中央部ⅡＡ12ｖ～ⅡＡ16ｙグリッドに位置し、Ⅴ層上面で検出された。遺物包含層内には生涯学習文化課の試掘トレンチ（Ｔ13）が入っており、その試掘トレンチは基盤層まで掘り込まれていたことから、トレンチの再掘から開始し断面観察を行った。その結果、包含層は大きくⅣａ～Ⅳｃ層の３層に細分され、最大厚50cmを測ることが確認された。これを踏まえて、ⅡＡ11ｕ－16ｕグリッドの西半部（南北トレンチ）と、ⅡＡ14ｕ－ⅡＢ14ａグリッド北半部（東西トレンチ）を基盤層まで10cm単位で掘り下げ、層序の確認と遺物の出土状況を確認した。その結果、ⅡＡ14ｕ・ｖグリッドからはある程度の出土量があったものの、それ以外の部分からの出土量は多くない上に、拳大以上の破片がまとまって出土することもなく、全体的に小破片が散在するかのような出土状況を呈していた。これらの出土状況と残りの調査期間が限られていたことから、ジョレンを用いて上から１層ずつ掘り下げていくこととし、掘り下げた段階でクリーニングを行い遺構の有無を確認し、遺物に関してはグリッド毎に器形が分かる破片ないし拳大の破片は残し、フィールドカードと写真に記録してから取り上げるという方針を立て、南北トレンチの西壁際と東西トレンチの北壁際をベルトとして残して順次北側から掘り下げていった。精査の結果、遺物は拳大以上の破片が出土すること自体がまれで、小破片ばかり出土する上に、面的にまとまって出土することもなく、上下に厚みをもって堆積する状況も確認されず、まさに散在して出土している様相を呈し、また焼土や掘削廃土等も包含層中からは確認されていない。状況からみて本来洞状の緩斜面に斜面上位から遺物が流入・堆積したものの底部付近が、開田時の削平を免れ、残存していたものではないかと思われる。包含層からは縄文晩期末～弥生時代前期（青木畑～山王Ⅲ層式期）の時が出土しており、弥生時代前期の土器が主体を占めている。

（３）柱穴状土坑

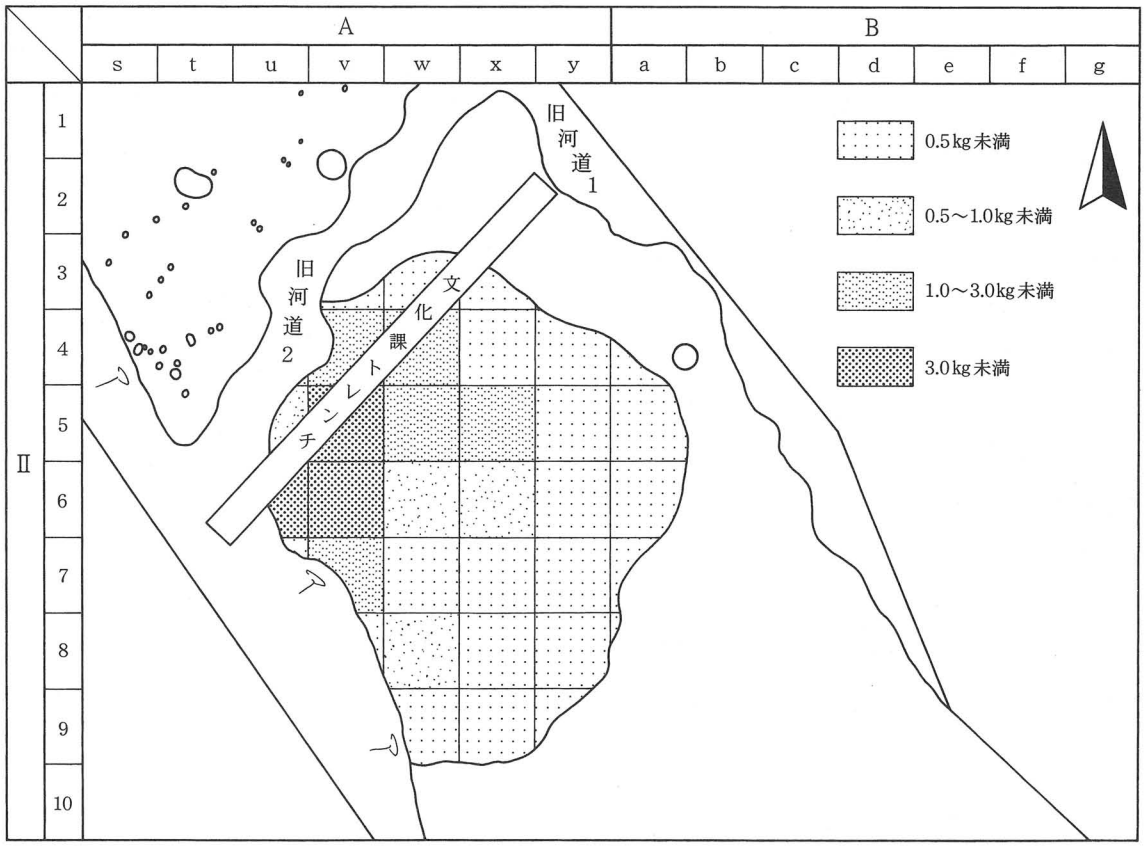
柱穴状土坑（第14～17図、第２～４表、写真図版７）

調査区北側から中央付近にかけて柱穴状土坑が多数検出されている。柱穴は154基を数えるが、掘立柱建物跡を構成する柱穴は確認されなかった。平面形は円形・楕円形・方形などがあるが、円形・楕円形が主体を占める。深さは3.5～56.5cmを測るが、規則性は認められず、また掘り方を持った柱穴は確認されていない。埋土は黒色～黒褐色土系の自然堆積を呈する。遺物は出土しなかった。　（太田代）

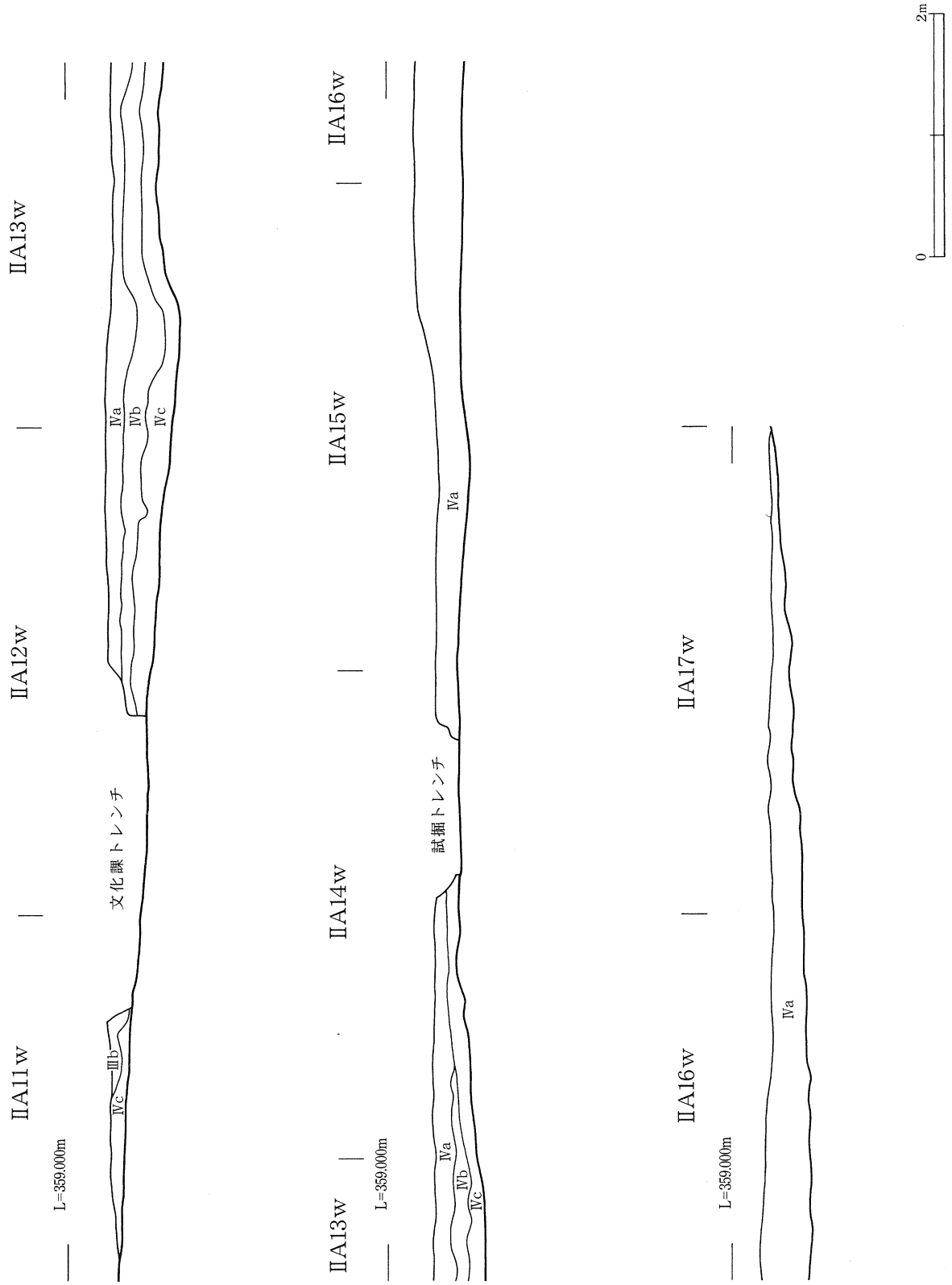
遺物包含層平面図



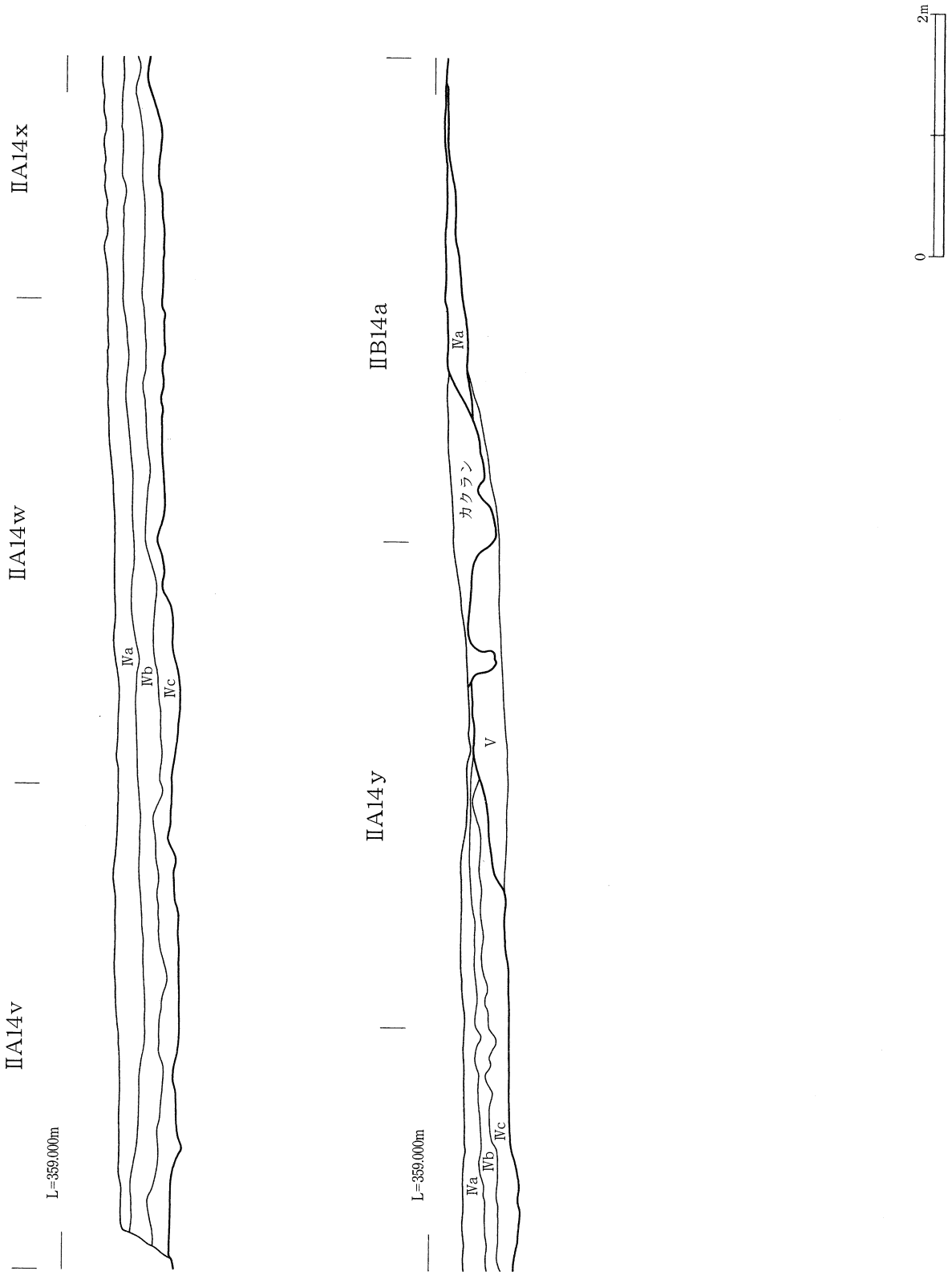
遺物包含層分布図



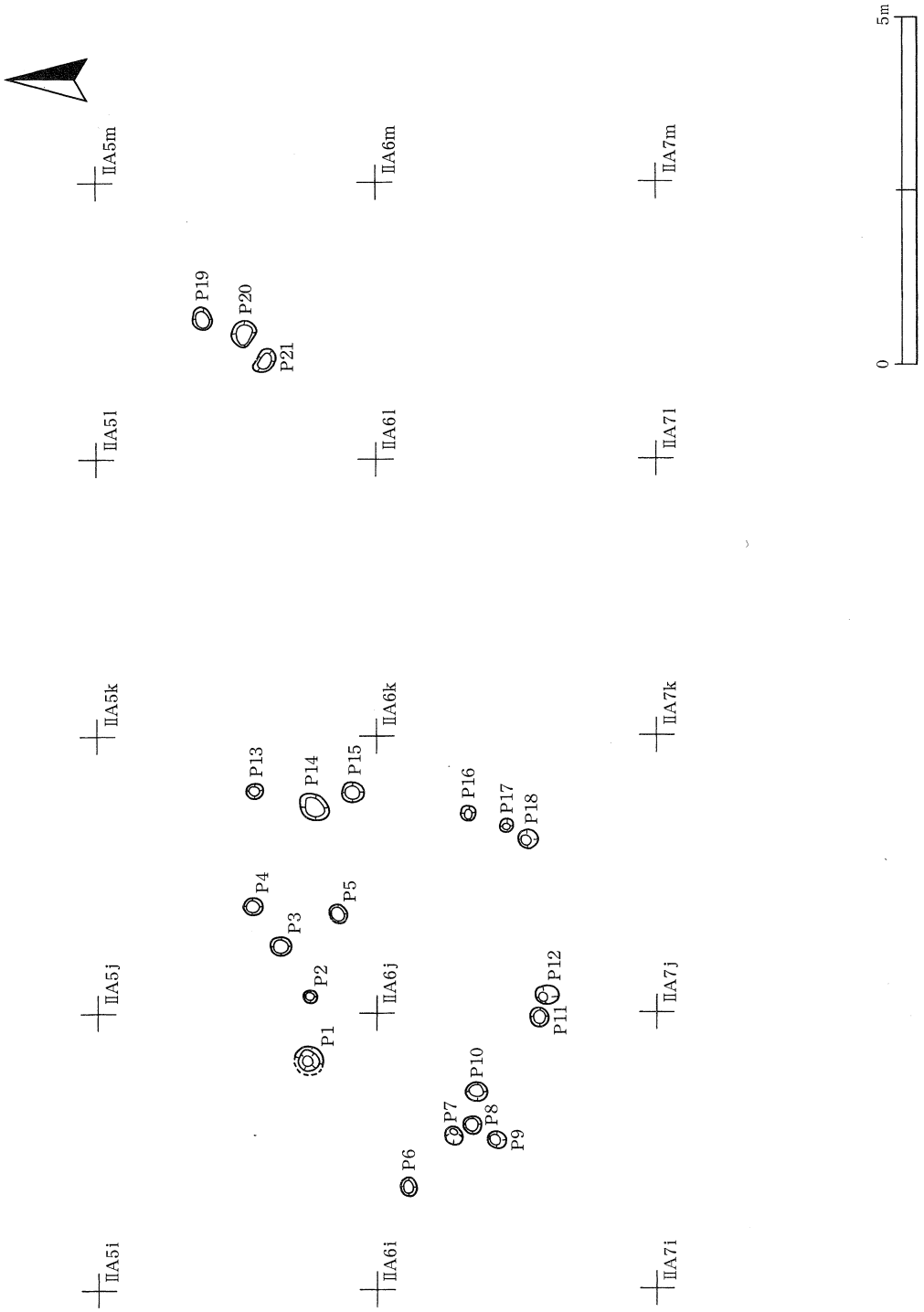
第11図　遺物包含層平面図・分布図



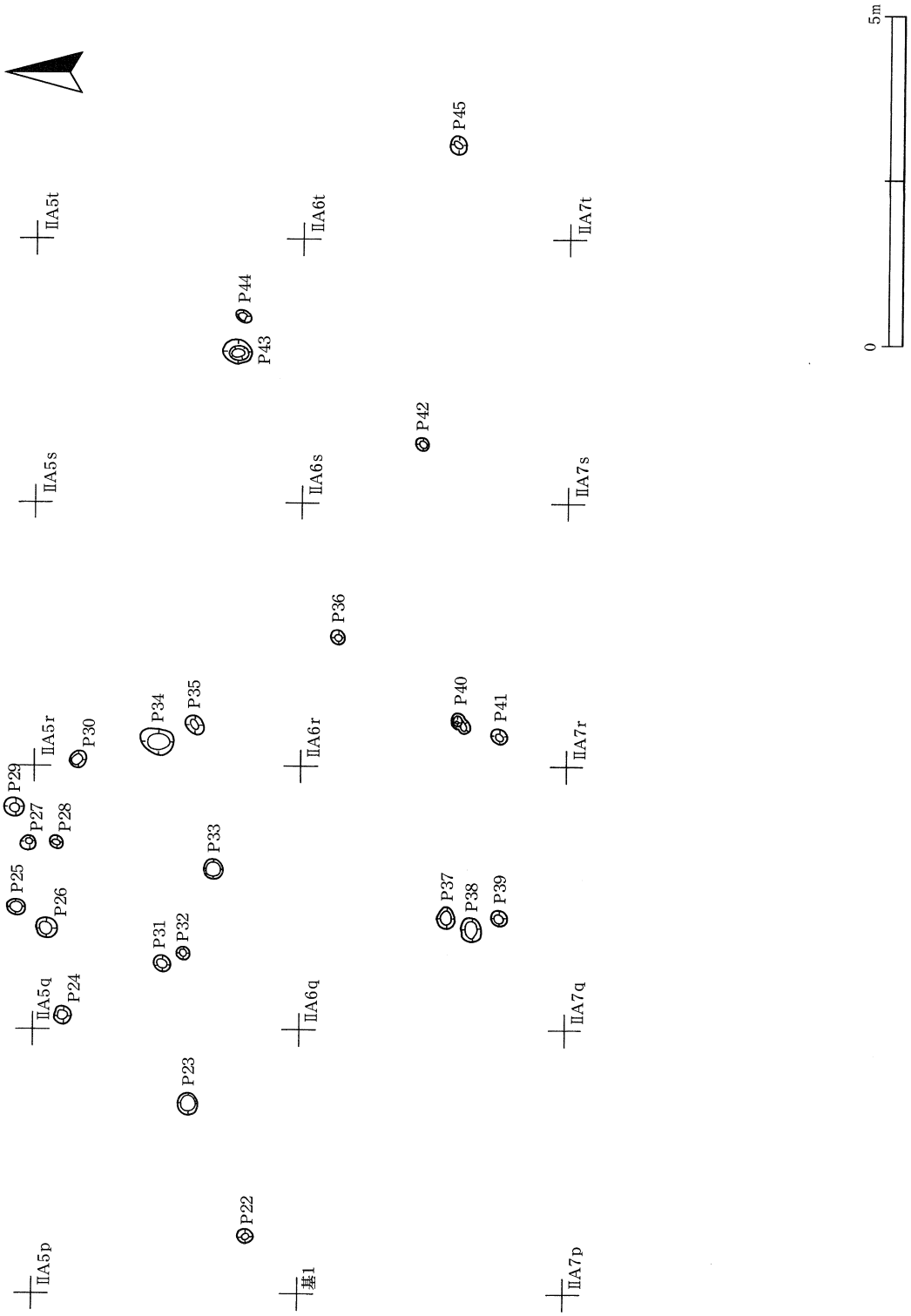
第12図　遺物包含層南北ベルト断面



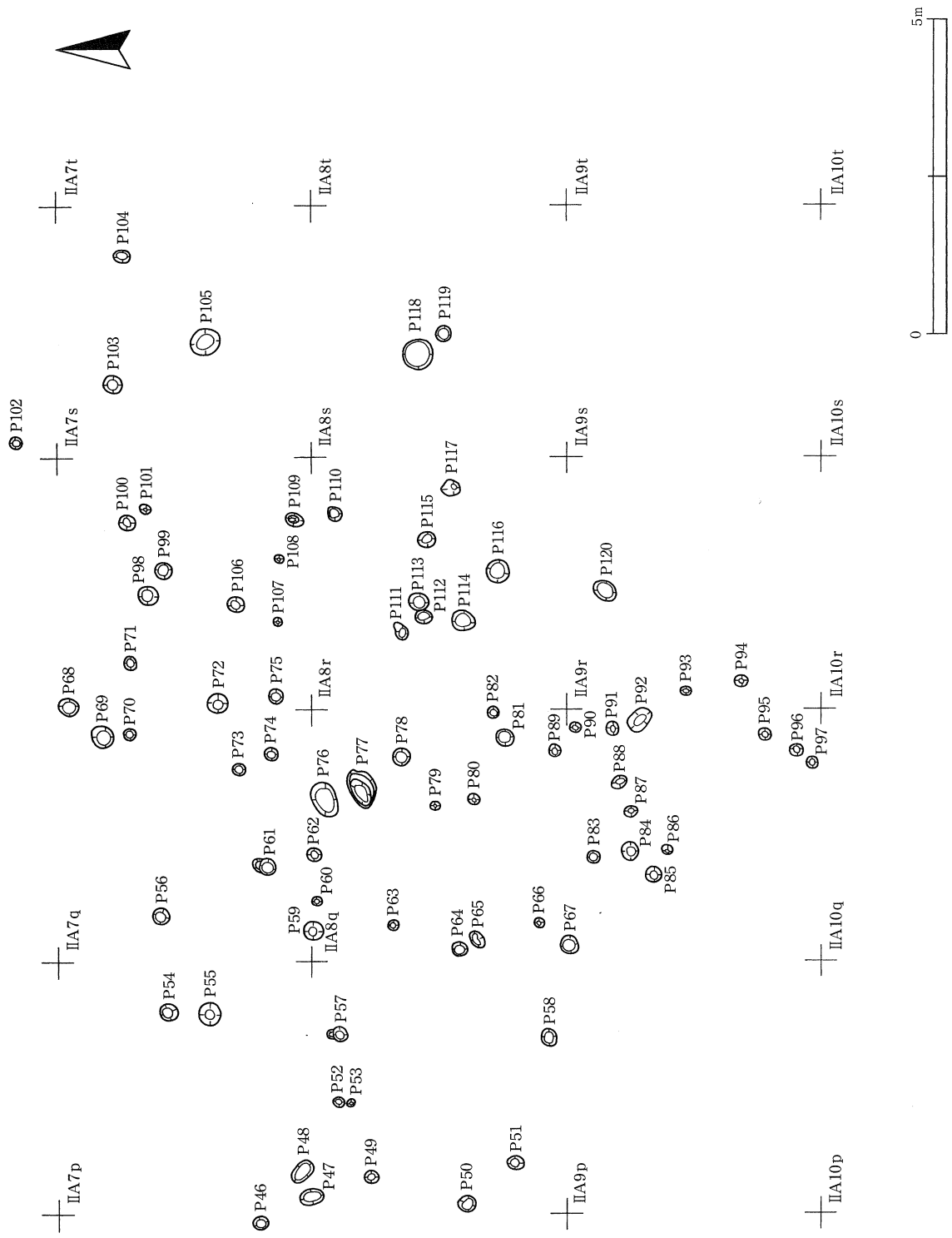
第13図　遺物包含層東西ベルト断面


ⅡA5m
ⅡA6m
ⅡA7m
ⅡA5l
ⅡA6l
ⅡA7l
ⅡA5k
ⅡA6k
ⅡA7k
ⅡA5j
ⅡA6j
ⅡA7j
ⅡA5i
ⅡA6i
ⅡA7i
P1
P2
P3
P4
P5
P6
P7
P8
P9
P10
P11
P12
P13
P14
P15
P16
P17
P18
P19
P20
P21
0
5m

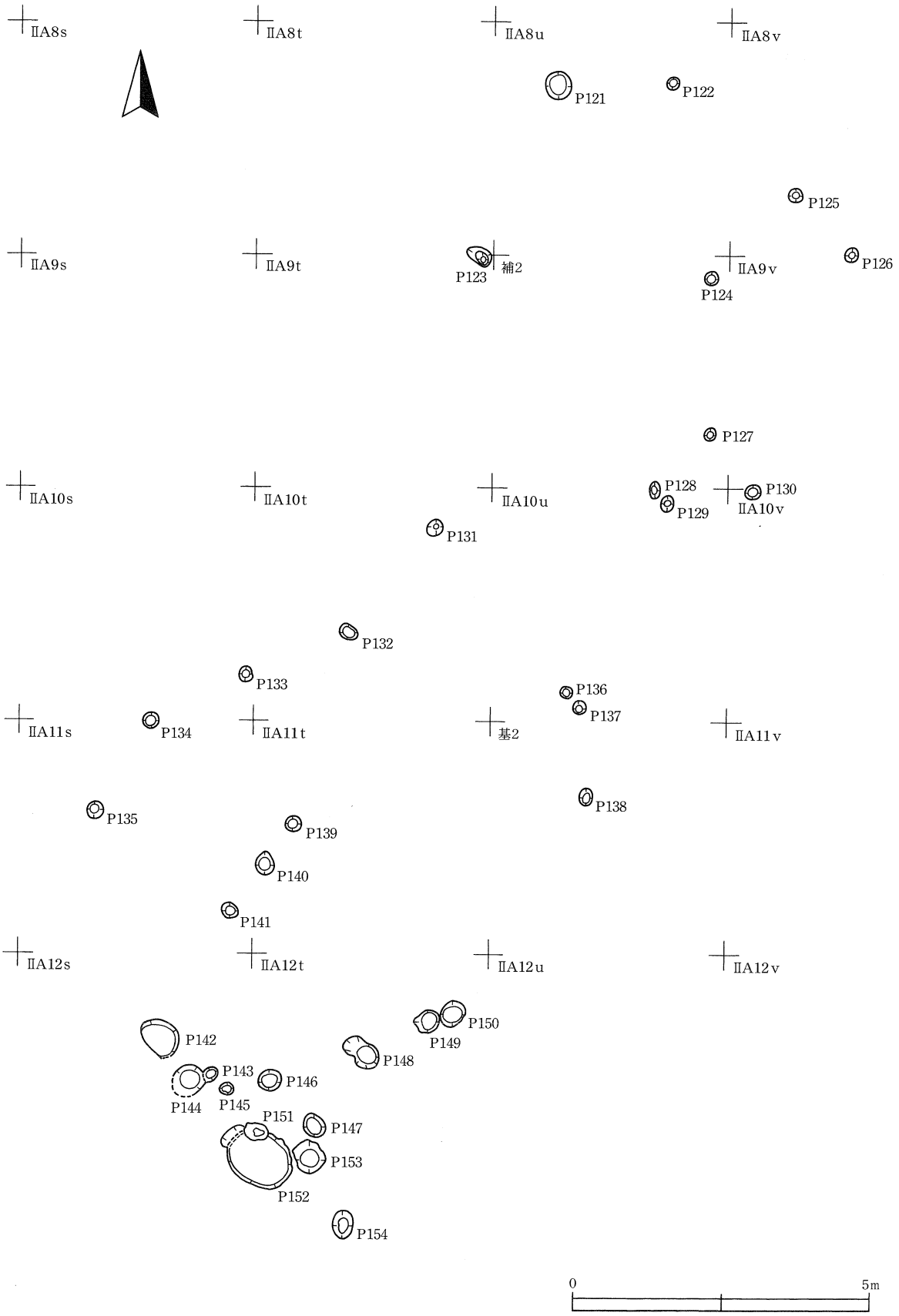
第14図　柱穴状土坑（１）


ⅡA5p
ⅡA5q
ⅡA5r
ⅡA5s
ⅡA5t
ⅡA6q
ⅡA6r
ⅡA6s
ⅡA6t
ⅡA7p
ⅡA7q
ⅡA7r
ⅡA7s
ⅡA7t
基1
P22
P23
P24
P25
P26
P27
P28
P29
P30
P31
P32
P33
P34
P35
P36
P37
P38
P39
P40
P41
P42
P43
P44
P45
0
5m

第15図　柱穴状土坑（２）


ⅡA7t
ⅡA8t
ⅡA9t
ⅡA10t
ⅡA7s
ⅡA8s
ⅡA9s
ⅡA10s
ⅡA8r
ⅡA9r
ⅡA10r
ⅡA7q
ⅡA8q
ⅡA10q
ⅡA7p
ⅡA9p
ⅡA10p
P102
P104
P105
P103
P118
P119
P100
P101
P99
P98
P106
P108
P109
P110
P117
P115
P116
P113
P112
P114
P111
P120
P71
P107
P68
P69
P70
P72
P75
P74
P73
P76
P77
P78
P79
P80
P82
P81
P89
P90
P91
P92
P88
P87
P84
P86
P85
P83
P93
P94
P95
P96
P97
P61
P62
P60
P63
P64
P65
P66
P67
P59
P56
P54
P55
P57
P58
P52
P53
P49
P48
P47
P46
P50
P51
0
5m

第16図　柱穴状土坑（３）


ⅡA8s
ⅡA8t
ⅡA8u
ⅡA8v
P121
P122
P125
ⅡA9s
ⅡA9t
P123
補2
ⅡA9v
P124
P126
P127
ⅡA10s
ⅡA10t
ⅡA10u
P128
P129
P130
ⅡA10v
P131
P132
P133
P136
P137
ⅡA11s
P134
ⅡA11t
基2
ⅡA11v
P138
P135
P139
P140
P141
ⅡA12s
ⅡA12t
ⅡA12u
ⅡA12v
P150
P149
P142
P148
P143
P146
P144
P145
P151
P147
P153
P152
P154
0
5m

第17図　柱穴状土坑（４）

第２表　柱穴状土坑観察表（１）

No.	径(cm)	深さ(cm)	平面形	備考
1	41×(40)	33.1	円形	
2	18×18	6.9	円形	
3	28×27	13.0	円形	
4	27×22	22.5	楕円形	
5	28×22	8.8	楕円形	
6	27×20	11.8	楕円形	
7	26×24	14.0	楕円形	
8	24×24	20.6	円形	
9	25×22	13.9	楕円形	
10	30×26	23.6	楕円形	
11	26×26	17.4	円形	
12	34×12	26.0	楕円形	
13	22×22	13.5	円形	
14	44×33	6.0	楕円形	
15	29×28	25.7	円形	
16	20×18	10.5	楕円形	
17	19×17	10.0	楕円形	
18	29×28	20.1	楕円形	
19	32×25	7.2	楕円形	
20	37×30	6.5	方形状	
21	38×27	7.3	楕円形	
22	22×22	9.5	円形	
23	33×30	23.2	楕円形	
24	25×22	19.7	楕円形	
25	26×21	12.1	楕円形	
26	32×30	18.6	楕円形	
27	22×18	27.8	楕円形	
28	18×18	22.1	円形	
29	30×29	23.2	円形	
30	24×19	10.6	楕円形	
31	26×23	13.5	楕円形	
32	17×17	21.7	円形	
33	26×26	26.7	円形	
34	50×38	29.1	楕円形	
35	30×25	8.4	楕円形	
36	20×18	10.2	円形	

No.	径(cm)	深さ(cm)	平面形	備考
37	33×29	17.3	楕円形	
38	37×29	25.0	楕円形	
39	23×21	38.4	楕円形	
40	32×20	24.6	不整形	
41	24×20	20.1	楕円形	
42	20×20	11.8	円形	
43	42×34	26.6	楕円形	
44	20×16	17.4	楕円形	
45	27×26	11.8	円形	
46	22×20	12.5	楕円形	
47	38×25	38.8	楕円形	
48	39×23	25.2	楕円形	
49	20×20	9.5	円形	
50	28×24	20.7	楕円形	
51	23×23	11.7	円形	
52	16×14	11.4	楕円形	
53	10×10	16.4	円形	
54	27×27	35.9	円形	
55	39×32	46.0	楕円形	
56	25×23	7.8	楕円形	
57	30×20	13.5	不整形	
58	28×23	30.3	楕円形	
59	31×29	29.7	楕円形	
60	17×14	12.4	楕円形	
61	36×25	30.0	不整形	
62	22×20	45.6	楕円形	
63	15×15	18.2	円形	
64	23×21	19.9	楕円形	
65	30×18	13.3	楕円形	
66	14×14	12.1	円形	
67	30×27	21.2	楕円形	
68	27×24	15.7	楕円形	
69	37×32	51.2	楕円形	
70	16×15	10.4	円形	
71	23×18	29.3	楕円形	
72	32×31	37.0	楕円形	

第３表　柱穴状土坑観察表（２）

No.	径(cm)	深さ(cm)	平面形	備考
73	18×18	12.4	円形	
74	20×20	14.7	円形	
75	20×20	28.6	円形	
76	57×36	36.6	楕円形	
77	64×40	36.3	不整形	
78	28×27	28.3	円形	
79	14×12	37.4	楕円形	
80	16×14	29.3	楕円形	
81	27×26	28.4	楕円形	
82	16×16	12.7	円形	
83	18×15	17.7	楕円形	
84	31×24	30.3	楕円形	
85	24×23	6.7	方形状	
86	14×14	27.7	円形	
87	20×14	15.0	楕円形	
88	25×16	14.6	楕円形	
89	19×16	24.6	楕円形	
90	16×14	25.8	楕円形	
91	20×16	28.6	楕円形	
92	39×30	16.6	楕円形	
93	14×14	12.8	円形	
94	18×18	26.8	円形	
95	19×18	28.0	円形	
96	20×19	8.3	円形	
97	18×16	16.2	楕円形	
98	29×29	44.3	円形	
99	27×23	23.1	楕円形	
100	26×24	12.2	不整形	
101	15×15	17.2	円形	
102	17×16	56.5	楕円形	
103	28×27	41.0	方形状	
104	24×16	4.8	楕円形	
105	46×41	7.4	楕円形	
106	25×22	17.4	楕円形	
107	14×12	4.9	楕円形	
108	13×13	9.3	円形	

No.	径(cm)	深さ(cm)	平面形	備考
109	30×20	20.1	楕円形	
110	23×20	8.6	方形状	
111	37×18	13.9	楕円形	
112	24×20	23.2	楕円形	
113	29×28	4.8	楕円形	
114	36×33	11.4	楕円形	
115	28×24	11.1	楕円形	
116	35×32	57.4	楕円形	
117	28×25	15.1	不整形	
118	50×45	7.6	楕円形	
119	25×22	50.2	楕円形	
120	38×27	3.5	楕円形	
121	50×42	14.8	楕円形	
122	20×20	26.4	円形	
123	40×23	26.4	楕円形	
124	22×22	21.5	円形	
125	27×23	13.8	楕円形	
126	24×23	—	円形	
127	22×20	12.5	楕円形	
128	27×17	12.5	楕円形	
129	25×19	15.7	楕円形	
130	26×23	21.6	楕円形	
131	30×24	28.4	楕円形	
132	32×20	18.2	楕円形	
133	24×20	14.1	楕円形	
134	28×26	19.7	楕円形	
135	28×28	7.4	円形	
136	19×19	9.7	円形	
137	22×20	13.4	楕円形	
138	29×22	13.4	楕円形	
139	26×25	26.9	円形	
140	38×30	21.5	楕円形	
141	30×24	19.1	楕円形	
142	72×［51］	12.8	楕円形	
143	(26)　×21	9.2	楕円形	
144	(58)　×51	52.7	楕円形	

第４表　柱穴状土坑観察表（３）

No.	径(cm)	深さ(cm)	平面形	備考
145	22×20	12.5	楕円形	
146	39×34	20.1	楕円形	
147	42×35	27.4	楕円形	
148	62×30	25.4	不整形	
149	42×35	16.4	不整形	

No.	径(cm)	深さ(cm)	平面形	備考
150	42×37	28.3	楕円形	
151	40×27	24.0	不整形	
152	(114) ×89	11.4	楕円形	
153	53×50	42.8	不整形	
154	46×32	22.1	楕円形	

第２節　出土遺物

今回の調査で出土した遺物は弥生土器が大コンテナ11箱、石器類が小コンテナ１箱出土し、主に遺物包含層と旧河道から出土している。そのほかに、土製品と陶磁器が数点、不明鉄製品２点が表土・旧河道より出土している。出土状況としては大半が遺物包含層と旧河道から出土しているが、旧河道から土器が大コンテナ７箱と石器の大半が出土しているのに対し、遺物包含層からは土器が大コンテナ４箱分出土したのを数えるのみで、旧河道からの出土量が圧倒的に多い。旧河道は堆積土が上位は黒褐色シルト、中・下位は灰白色の粗砂であったので、黒褐色土と砂で分けて層位的に遺物を取り上げては見たが、16世紀の唐津産陶器等が弥生土器と一緒に出土している状況から見ても分かるように、現位置を保った出土状況を呈しているとは言い難い。状況から見て、旧河道が調査区内を流れ、堆積していく過程で、斜面上位もしくは上流部からこれらの遺物が流れ込んできたものと思われる。

遺物の掲載基準は前述の通りで、遺構内出土遺物、遺物包含層、遺構外出土遺物の順に、土器は深鉢・高坏・浅鉢・蓋・その他（ミニチュア土器）の順で、石器は石鏃・石匙・不定形石器・耳飾りの順に掲載し、遺物の個々の記述は実測図と観察表で行うこととした。また、遺構外出土遺物に関しては上記の通り大半が旧河道から出土しているが、必ずしも現位置を保った出土状況をしていない為、大きく時期別に分けてから前述の器種毎に掲載する方針を立てたものの、報告者の力量不足が原因で必ずしも時期別の流れで区分できたとは言い難い。ここでは包含層と旧河道を中心とした遺構外出土遺物の概要を述べた上で、本遺跡出土遺物の分類を行うこととする。

遺物包含層出土土器（第18～22図、写真図版９～11、第５表）

当初は縄文時代晩期末～弥生時代前期の包含層と考えていたが、ⅡA12ｖグリッドⅣｃ層中より蓋が出土していることと、高坏・浅鉢の形状や文様からみて、時期的に晩期末というよりは弥生時代前期の土器が主体であると思われる。また、ⅡA13ｖ～ⅡA14ｖグリッドのⅣｂ・Ⅳｃ層より中～後期にかけての土器が出土している。形のわかるものは小破片でも掲載するようにした為、掲載遺物だけをみると中～後期の土器が多くみられるような印象を持ってしまうが、これら中～後期の土器が最も多く出土しているのはⅡA14ｖグリッドⅣｂ層で、その下位Ⅳｃ層の出土遺物の主体が弥生土器であることと、ⅡA14ｖグリッドⅣｂ層自体が弥生土器の出土量が遺物包含層中では一番多い地点であるので、弥生時代の遺物が主体であるのは間違いないと思われる。前述のようなイレギュラーはあるものの、弥生時代前期の遺物が圧倒的に多く、主体を占めていることは確かで、基本的には弥生時代前期の包含層であると思われる。また、出土量が少ないこともあり層序から言えることはほとんど無いと思われる。

遺構外出土遺物（第23～33図、写真図版11～18、第５表）

旧河道１と旧河道２のいずれからも出土しているが、旧河道１からの出土が圧倒的に多く、今回の調査で出土した遺物全体の約７割を占めている。調査区内で検出した旧河道１内の出土傾向を見てみると旧河道中央より東側、特に北東側の調査区境での出土量が極めて多く、逆に北西境からは出土遺物はあまり多くは無いという出土傾向が認められる。旧河道からは中・後・晩期末～弥生時代前期土器の出土が確認されているが、同一層より16世紀の唐津産陶磁器等が弥生時代前期の土器と一緒に出土している状況から見ても分かるように、層位的には取り上げたもののプライマリーな出土とは言い難い出土状況である。ただその中でも弥生時代前期の土器の出土量は圧倒的に多い。

前述の通り遺構内出土遺物が少ない上に主要な出土遺物が少ないことから必ずしも層位的な出土状況を呈しているとは言えないが、以下おおきくⅠ～Ⅳ群に分類してみることにする。

Ⅰ群土器：縄文時代中期の土器で点数は少なく大半が遺構外であるが、ＳＫ02の埋土中より１点（２）だけ出土している。

Ⅱ群土器：縄文時代後期の土器である。今回の調査で出土した土器の中では弥生時代前期の土器の次に多く出土している。基本的には後期初頭の、(123)・(156) は中期末～後期初頭、(159)・(342) は後期後葉、(59) は後期末～晩期初頭の土器であると思われる。

Ⅲ群土器：縄文時代晩期の土器をⅢ群土器としたが、若干量のみの出土である。今回の調査では大洞Ｃ２～Ａ式期の土器が出土している。掲載遺物では (343) の１点のみである。

Ⅳ群土器：今回の調査で最も出土量が多い。晩期末葉～弥生時代前期に比定される土器をⅣ群土器に該当させたが、弥生時代前期の青木畑式の土器が多数を占め、確実に大洞Ａ’式 (242？・244) や弥生時代前期の山王Ⅲ層式の土器が若干量含まれている。

Ⅴ群土器：地文のみで所属時期が不明な土器を一括した。

Ⅵ群土器：ミニチュア土器を一括した。

陶磁器（第34図、写真図版18、第８表）

今回の調査で５点程出土しており旧河道もしくは表土中より出土している。このうち３点を図示した。いずれも旧河道からの出土遺物で、(1001) は唐津産の胎土目碗である。体部下半から底部にかけてはほぼ残存し、口縁部付近が約2/3残存している個体で16世紀代の遺物ではないかと思われる。(1002) は肥前産の碗の高台部付近の破片で、復元実測したものである。時期は18世紀代と思われる。(1003) は肥前産の染付碗の高台部付近の破片で近世以降の遺物と思われる。

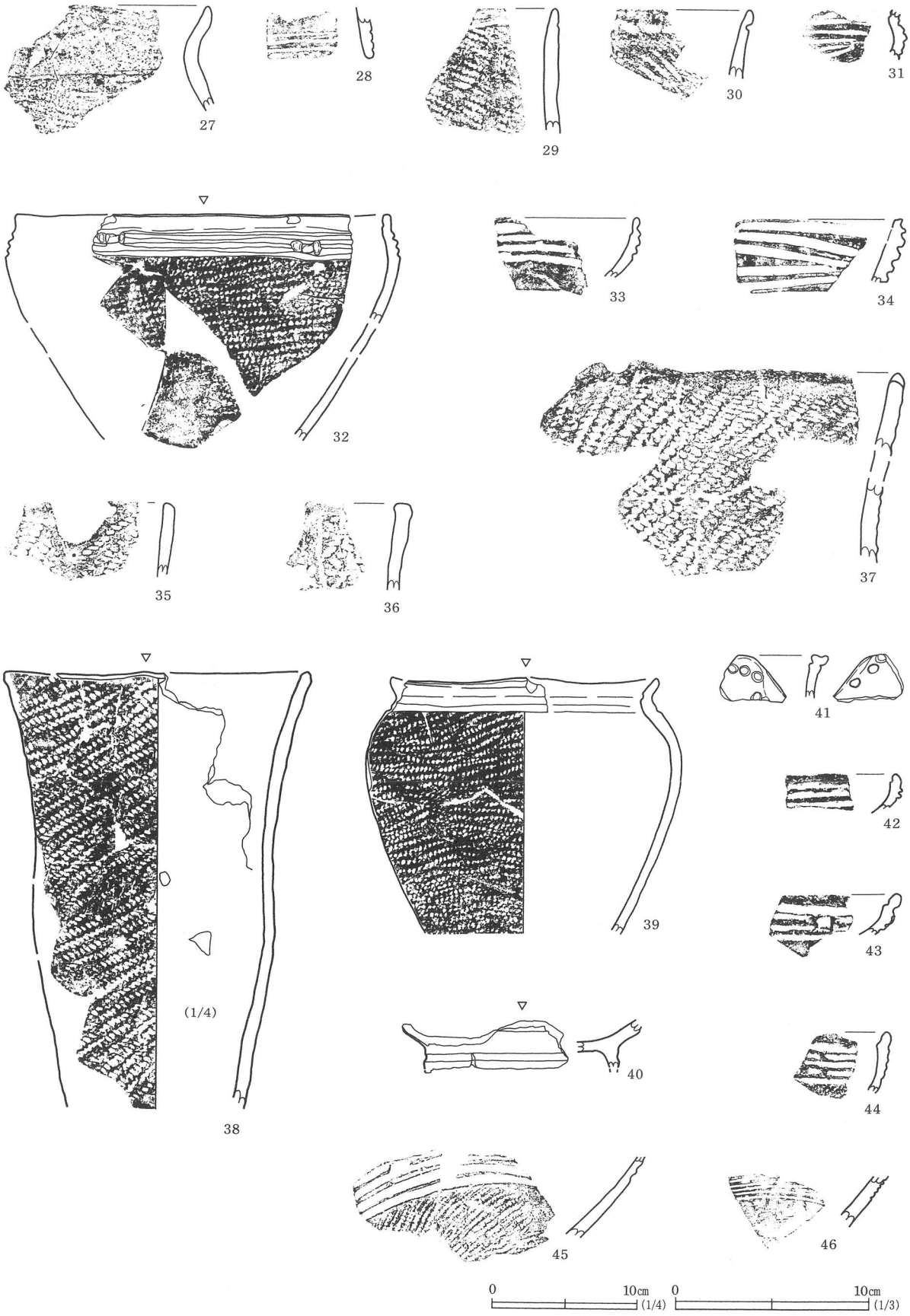
石器類（第35図、写真図版18・19、第９表）

今回の調査では小コンテナ１箱程出土しておりほとんどが旧河道と表土中よりの出土である。石鏃は４点、石錐は１点、石匙は６点、耳飾り１点に関しては全点を掲載することとし、不定形石器に関しては代表的なものを掲載する方針を立てたが、整理期間の都合上一部写真掲載のみのものもある。ここでは製品にならない石器全てを一括して、不定形石器としている。

土製品（第23・24・33図、写真図版12・18、第６・７表）

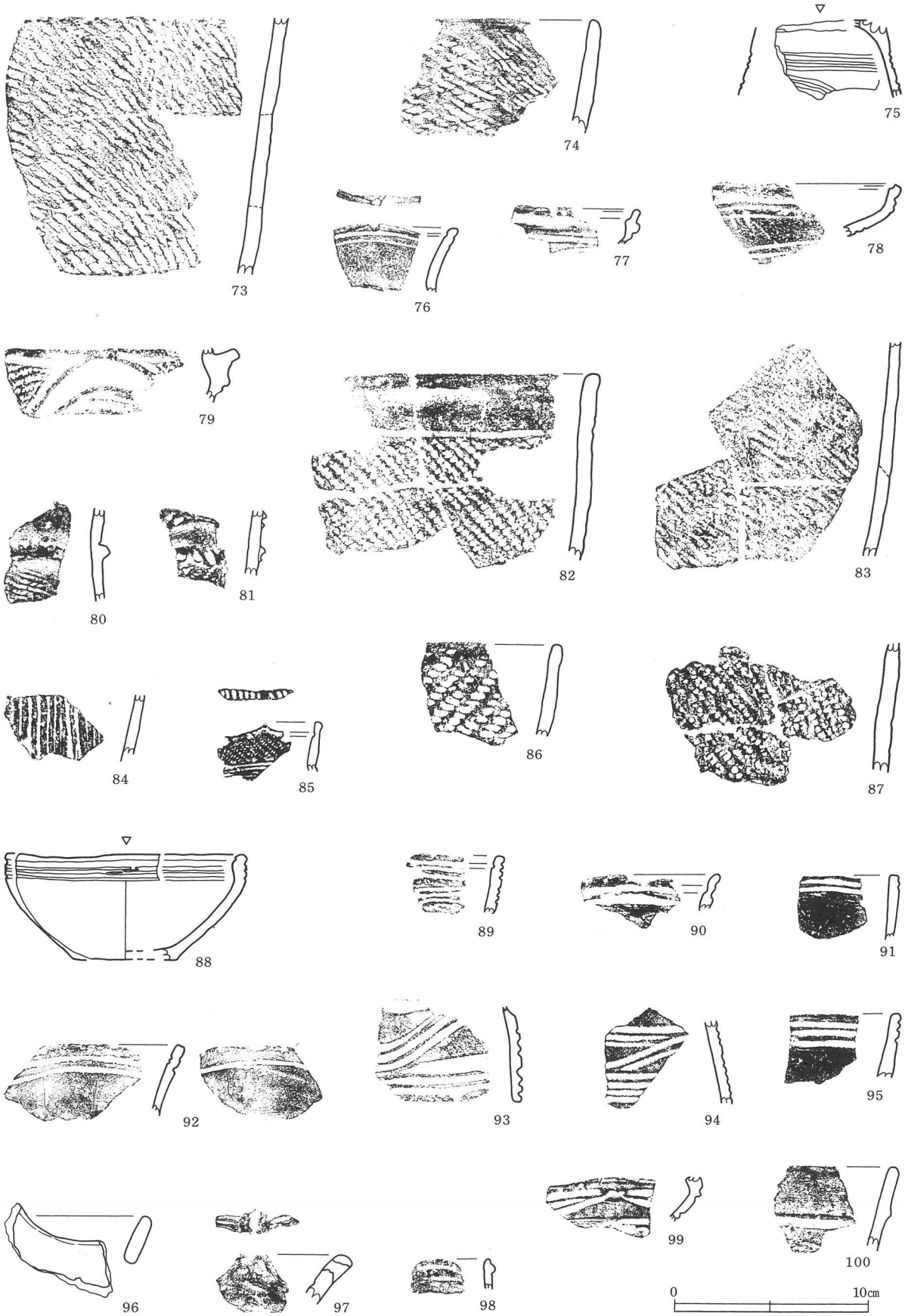
円盤状土製品と土偶合わせて８点出土している。円盤状土製品は遺物包含層と旧河道より各１点の計２点出土し２点とも掲載した。周辺加工は打ち欠きで、穿孔はなく、体部破片の地文のみである。形状は略円形を呈している。土偶は遺物包含層より１点、旧河道より５点の計６点出土し、その全点を掲載した。

第18図　遺構内・外出土遺物(土器１)

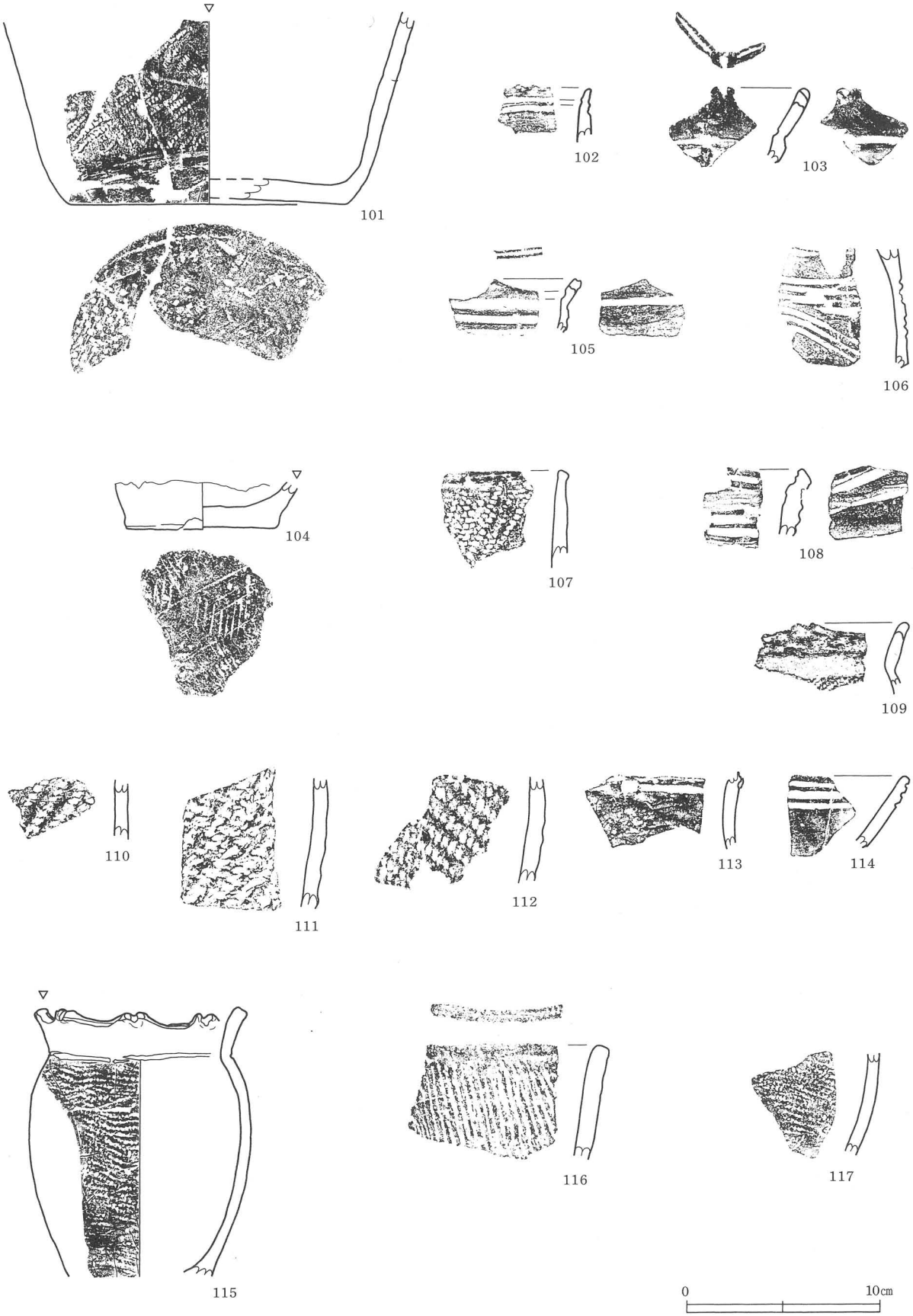


第19図　遺構外出土遺物（土器２）

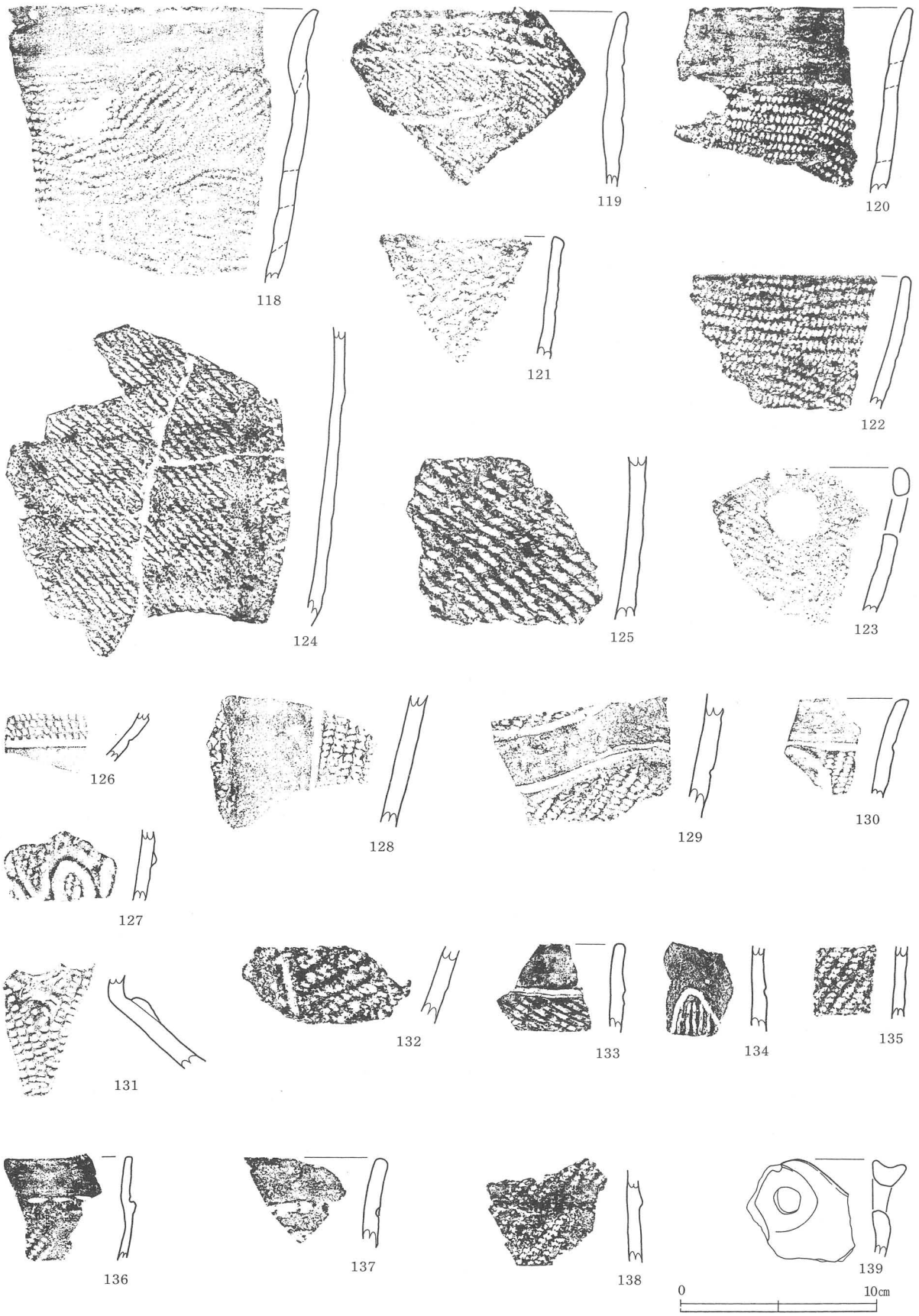
第20図　遺構外出土遺物（土器３）



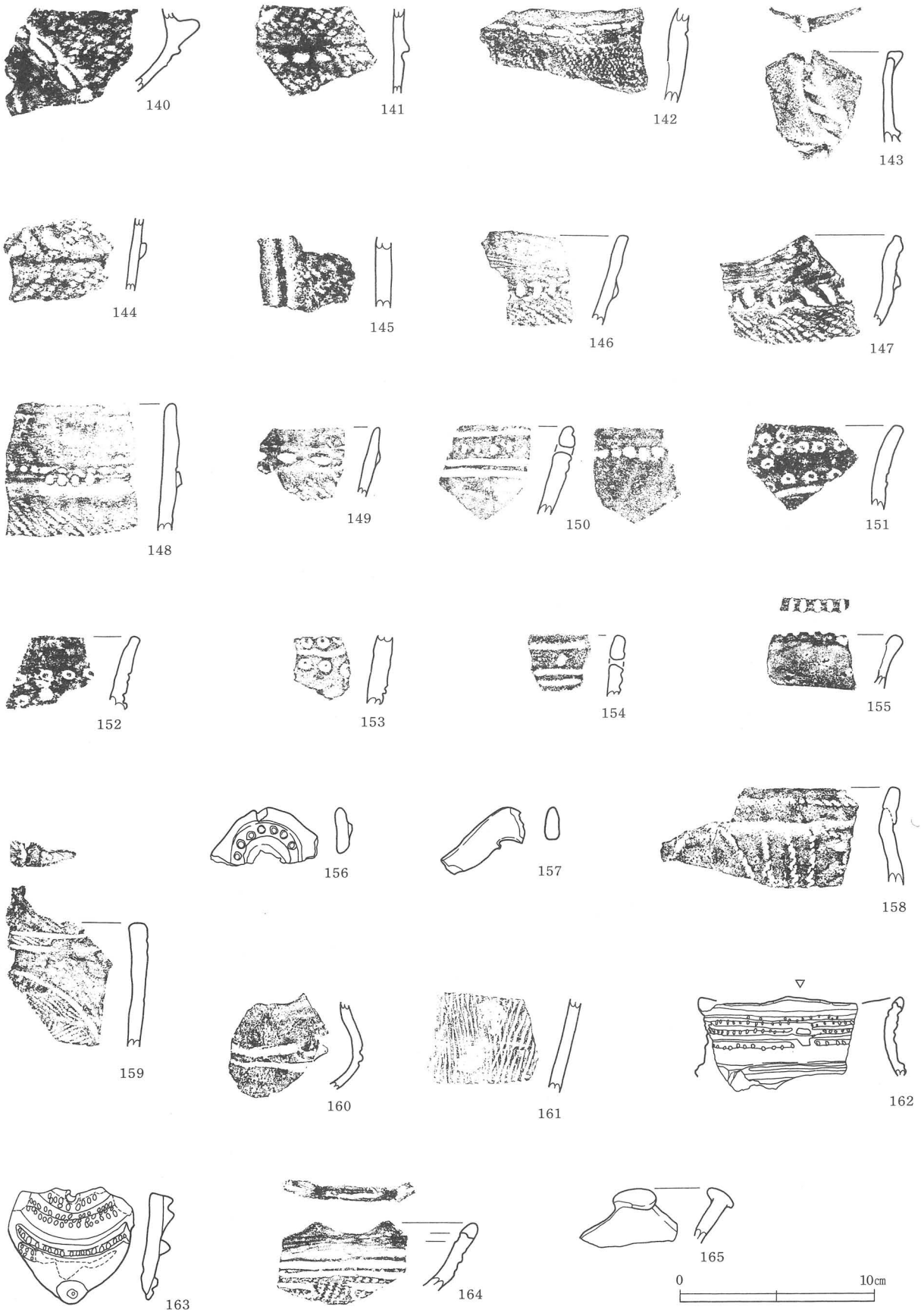
第21図　遺構外出土遺物（土器４）



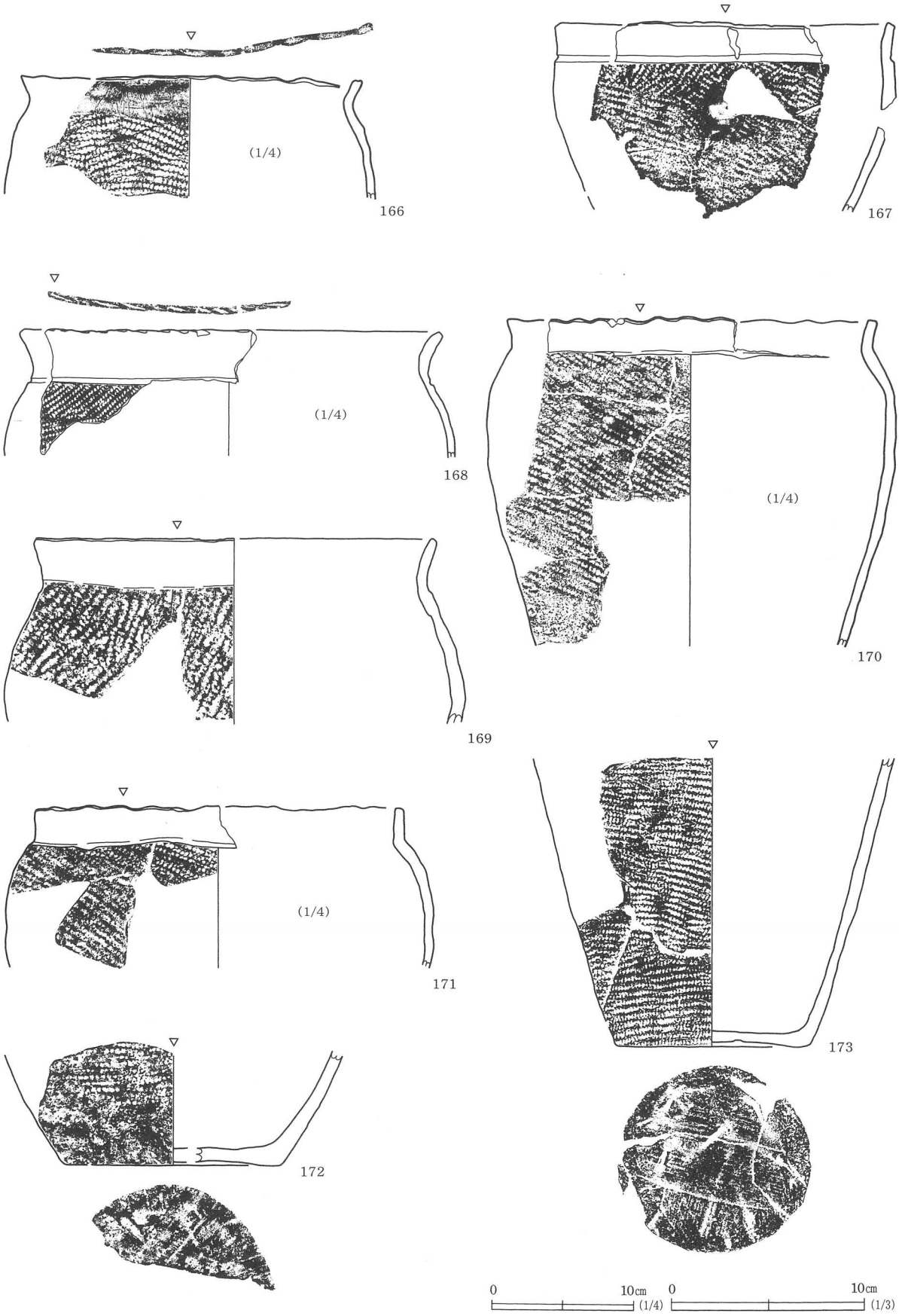
第22図　遺構外出土遺物（土器５）



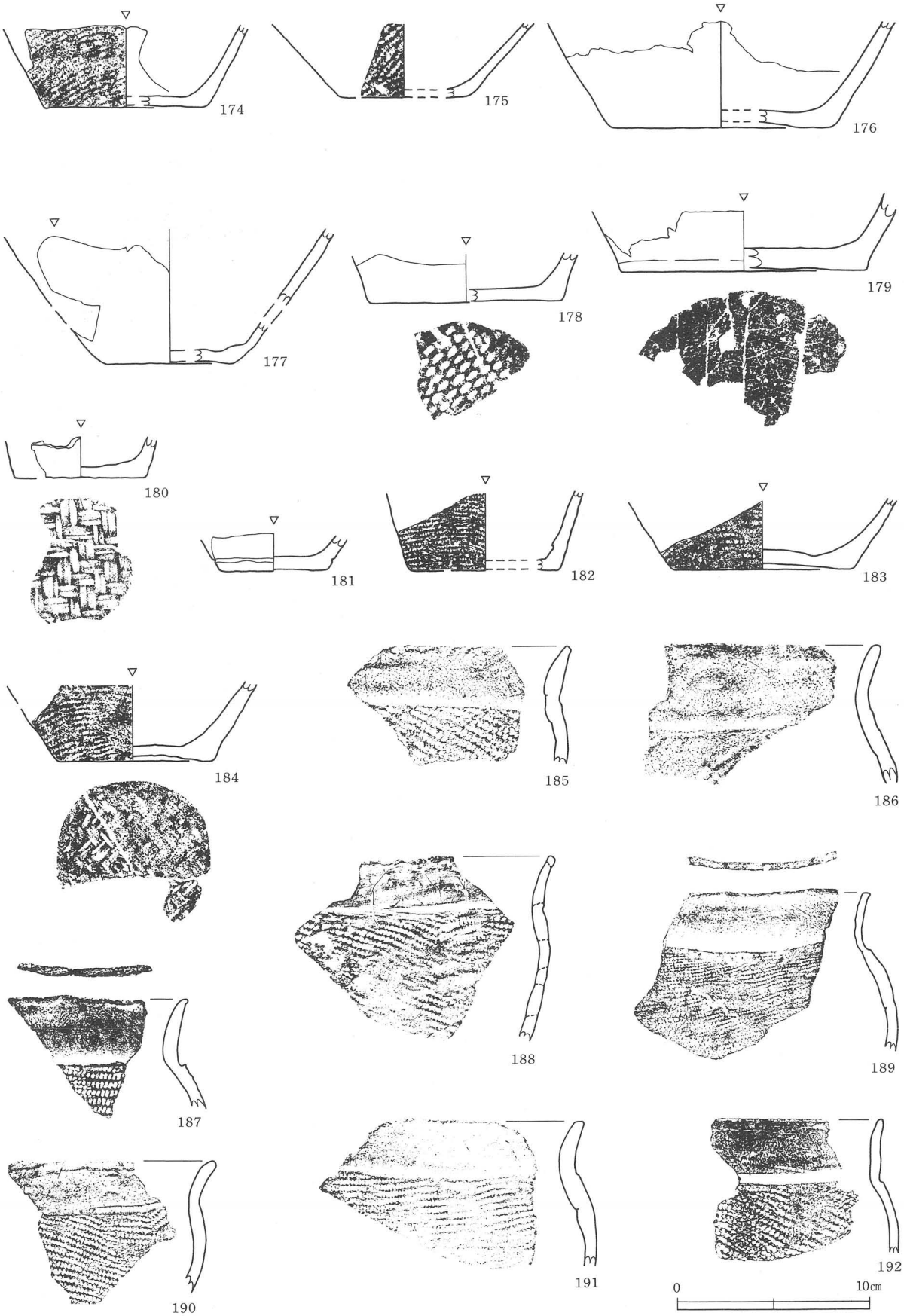
第23図　遺構外出土遺物(土器６)



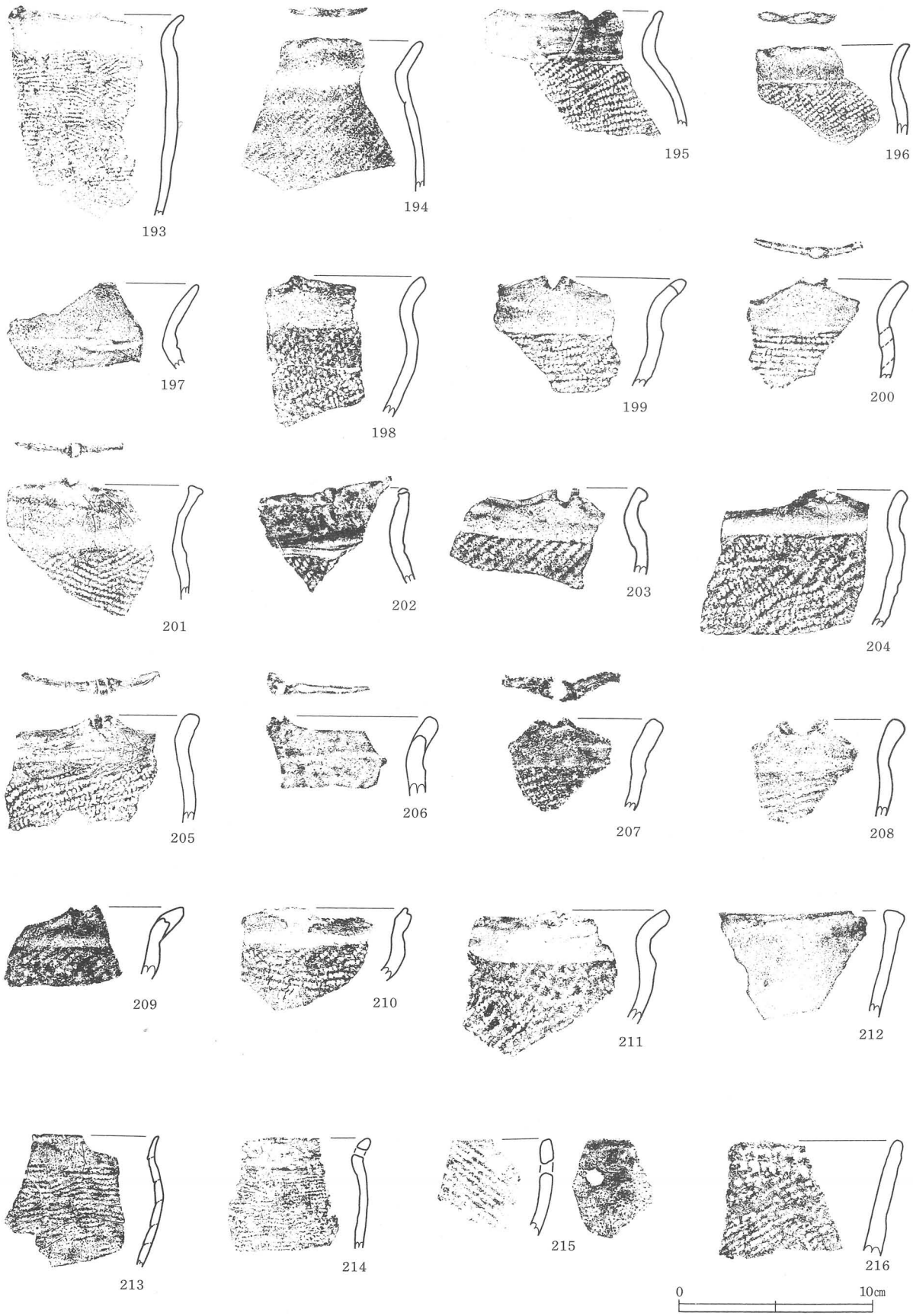
第24図　遺構外出土遺物（土器７）



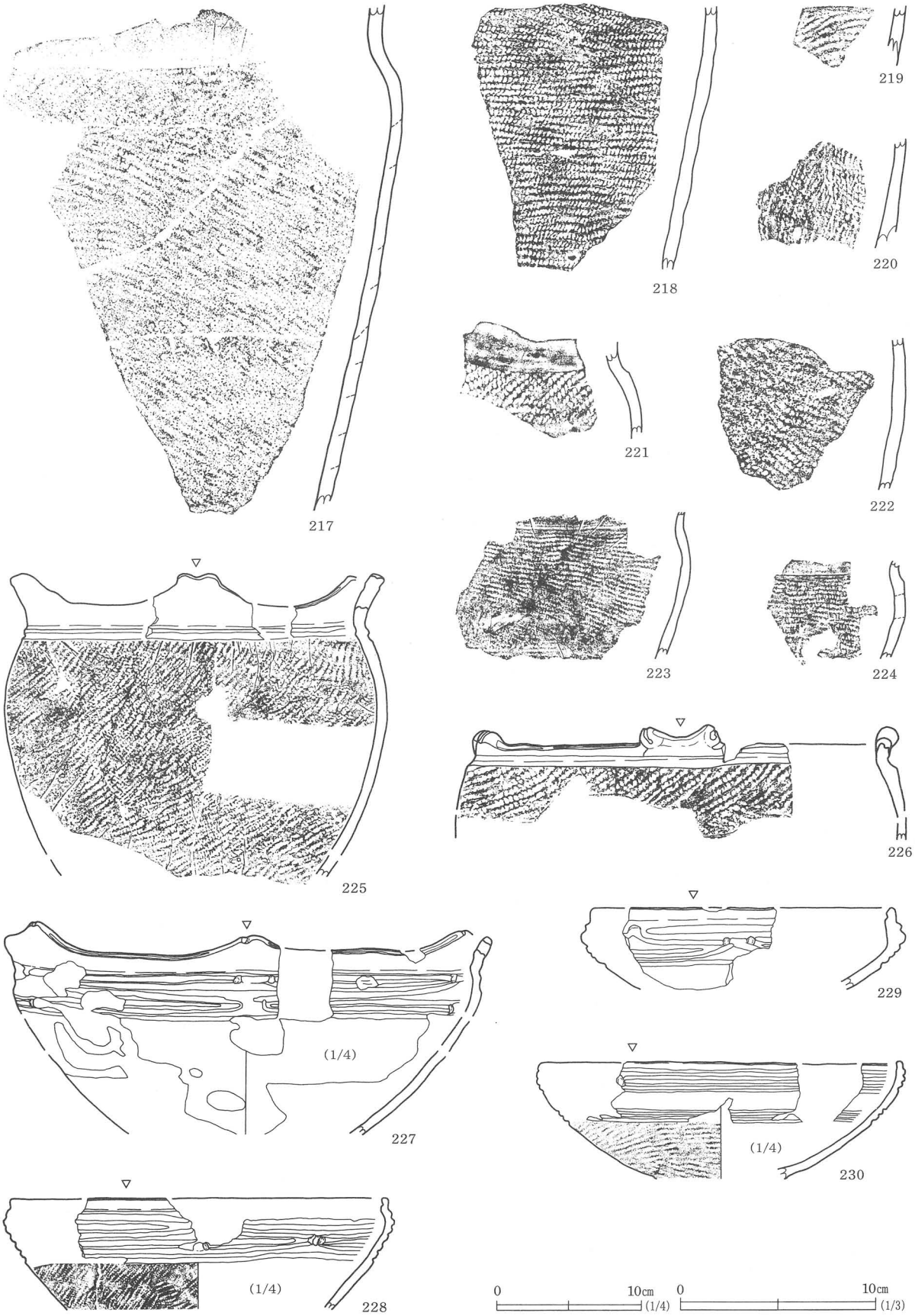
第25図　遺構外出土遺物（土器８）



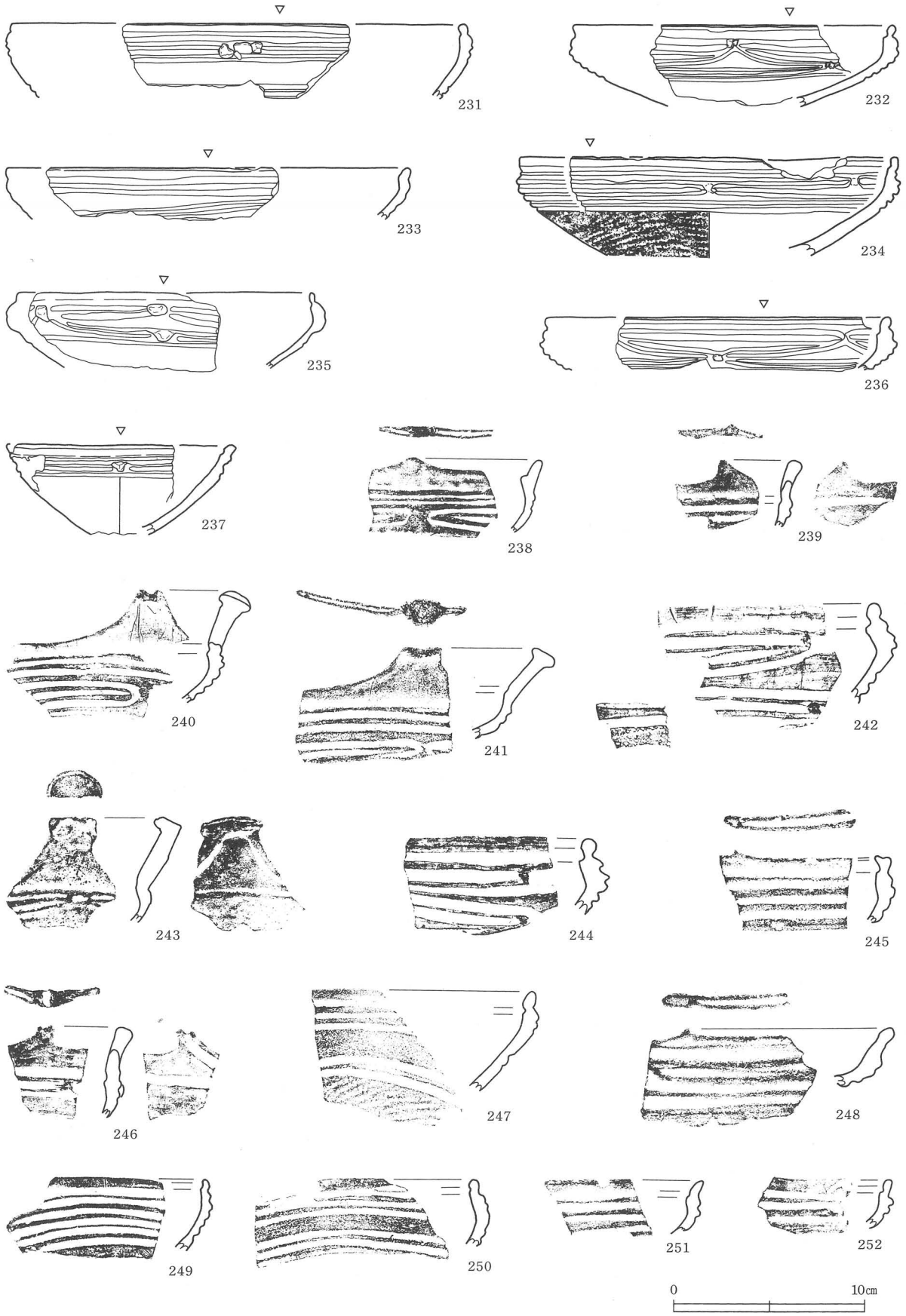
第26図　遺構外出土遺物（土器９）



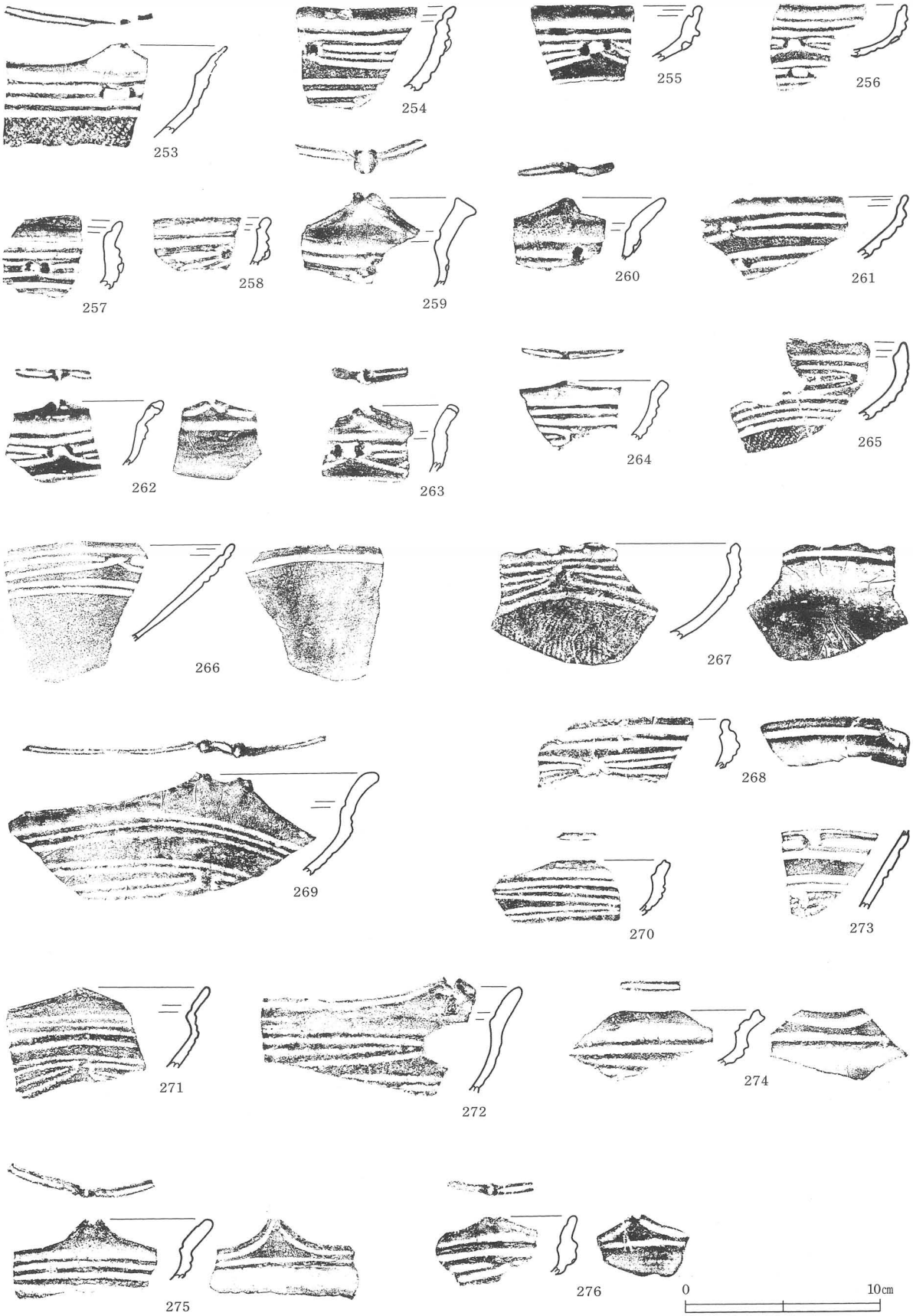
第27図　遺構外出土遺物(土器10)



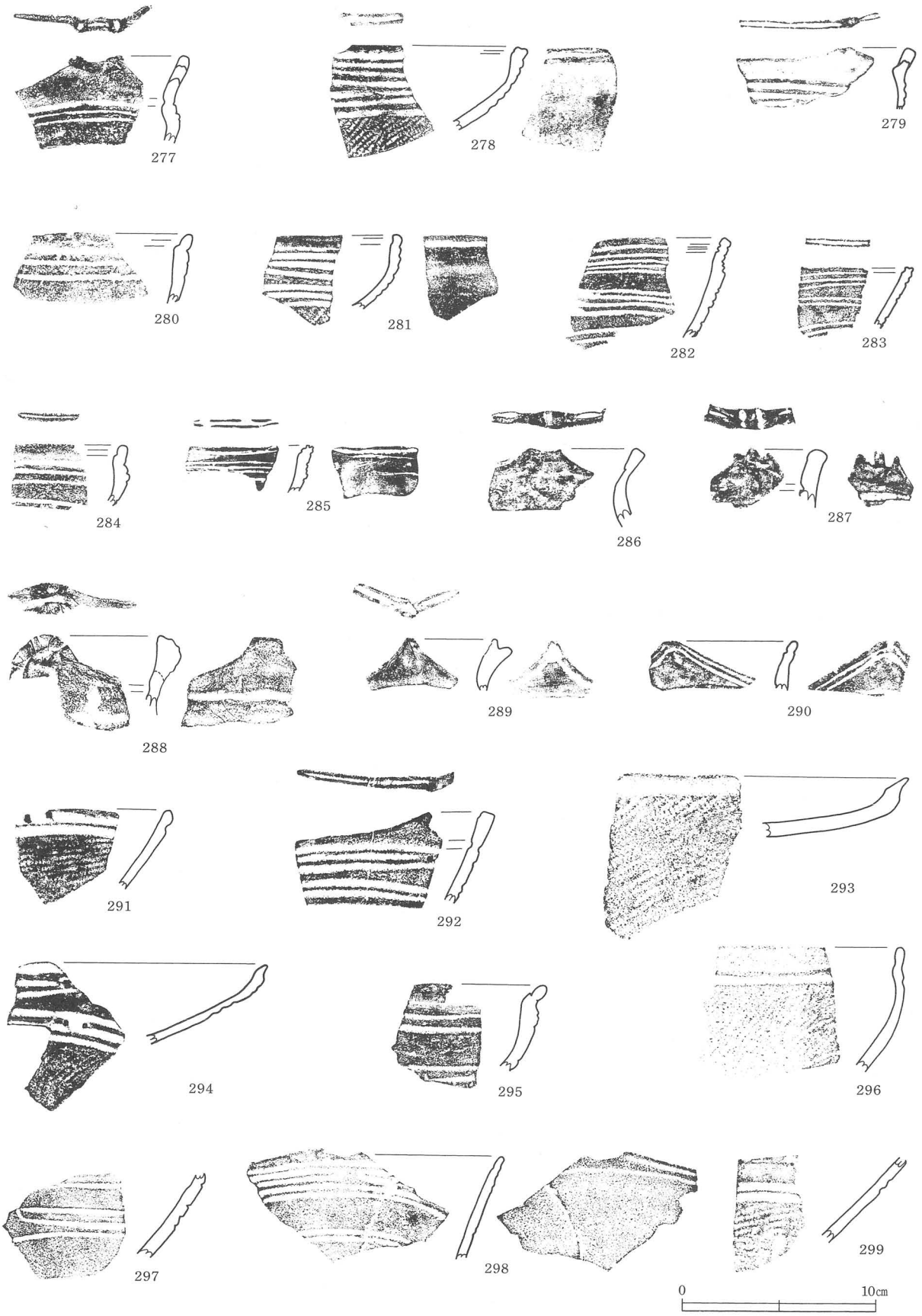
第28図　遺構外出土遺物(土器11)



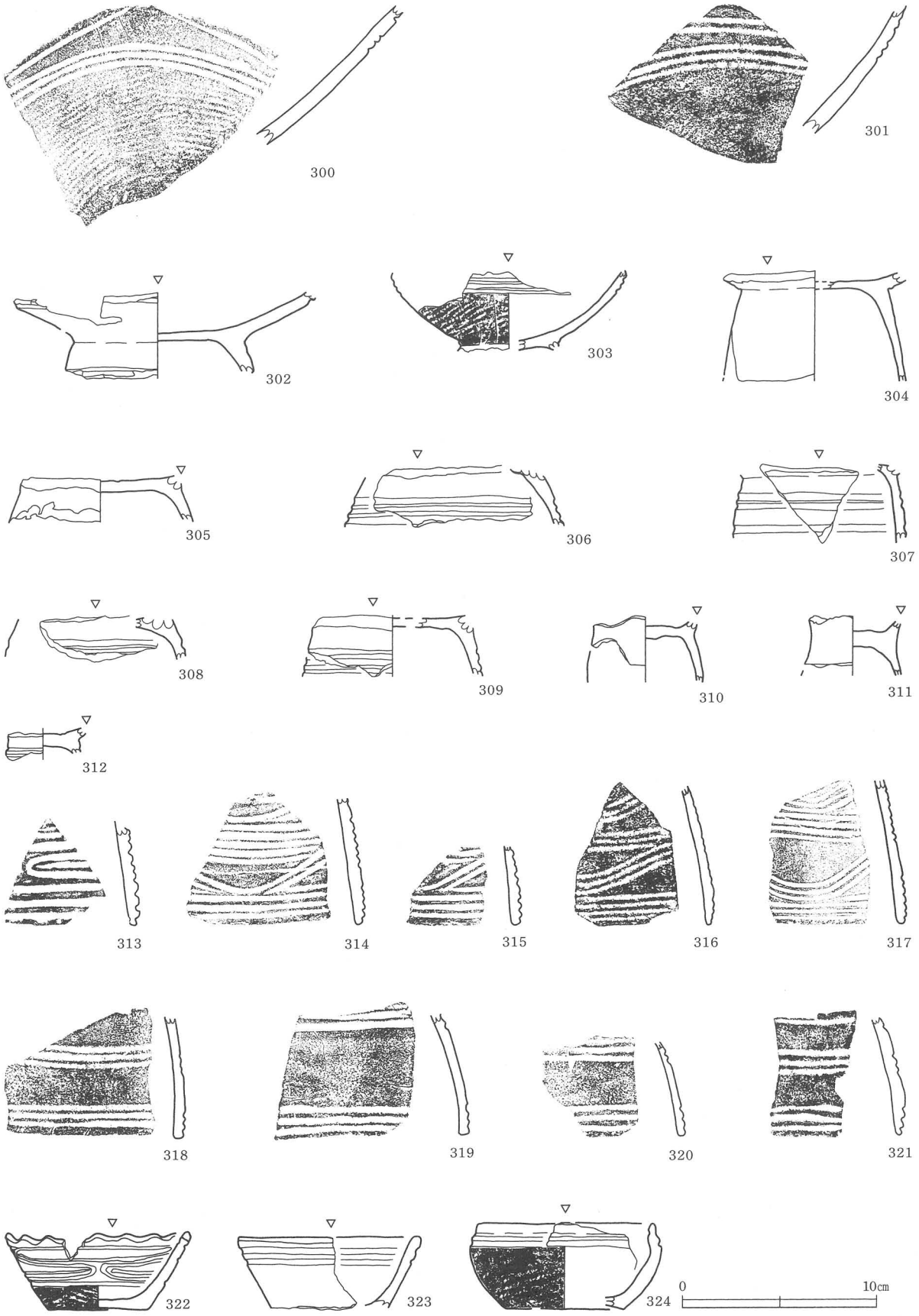
第29図　遺構外出土遺物(土器12)



第30図　遺構外出土遺物(土器13)

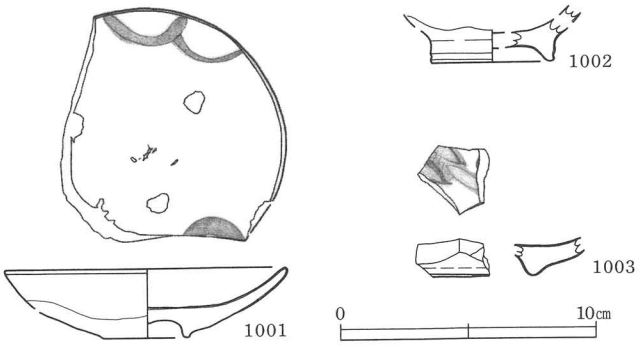


第31図　遺構外出土遺物(土器14)

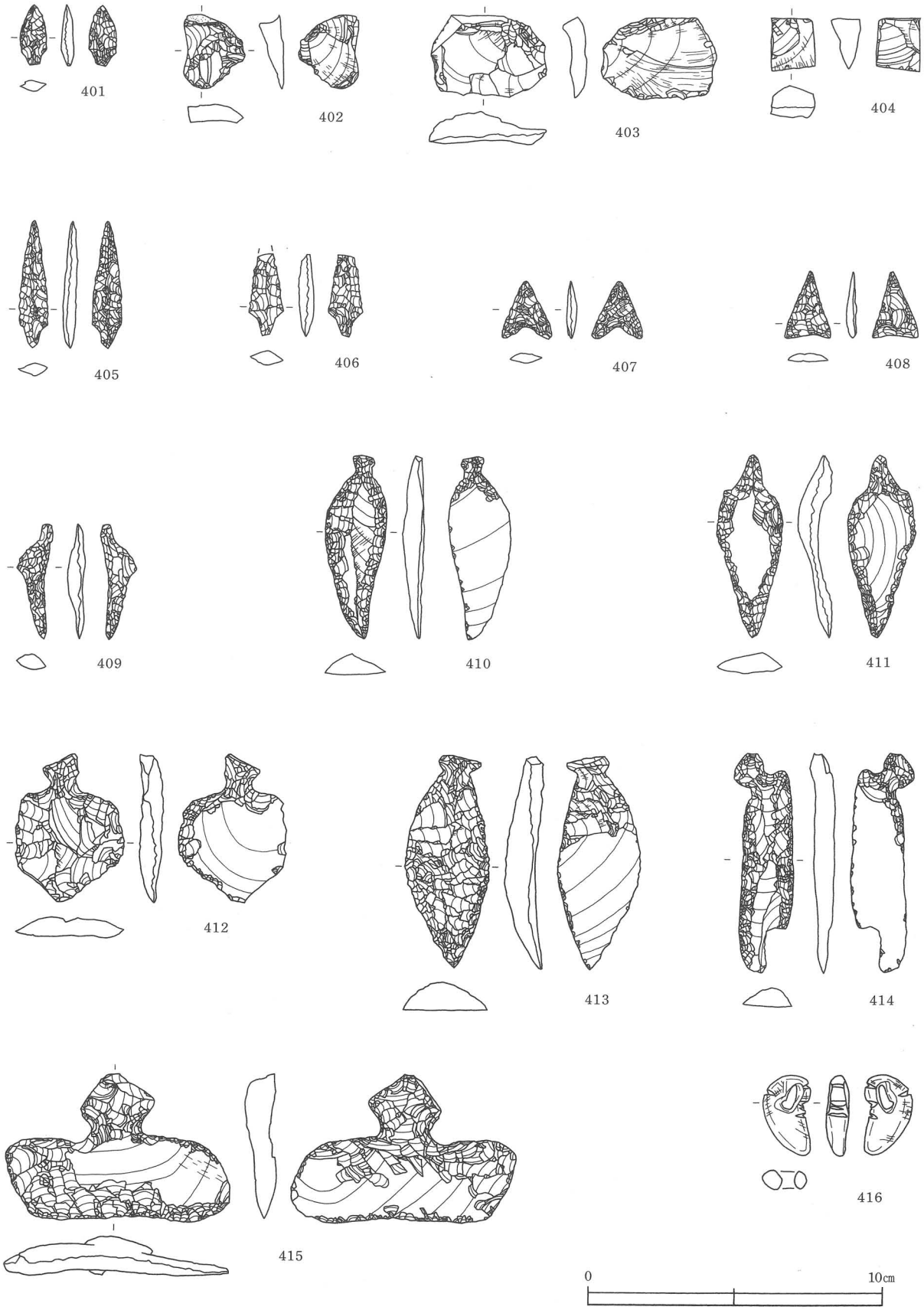


第32図　遺構外出土遺物(土器15)

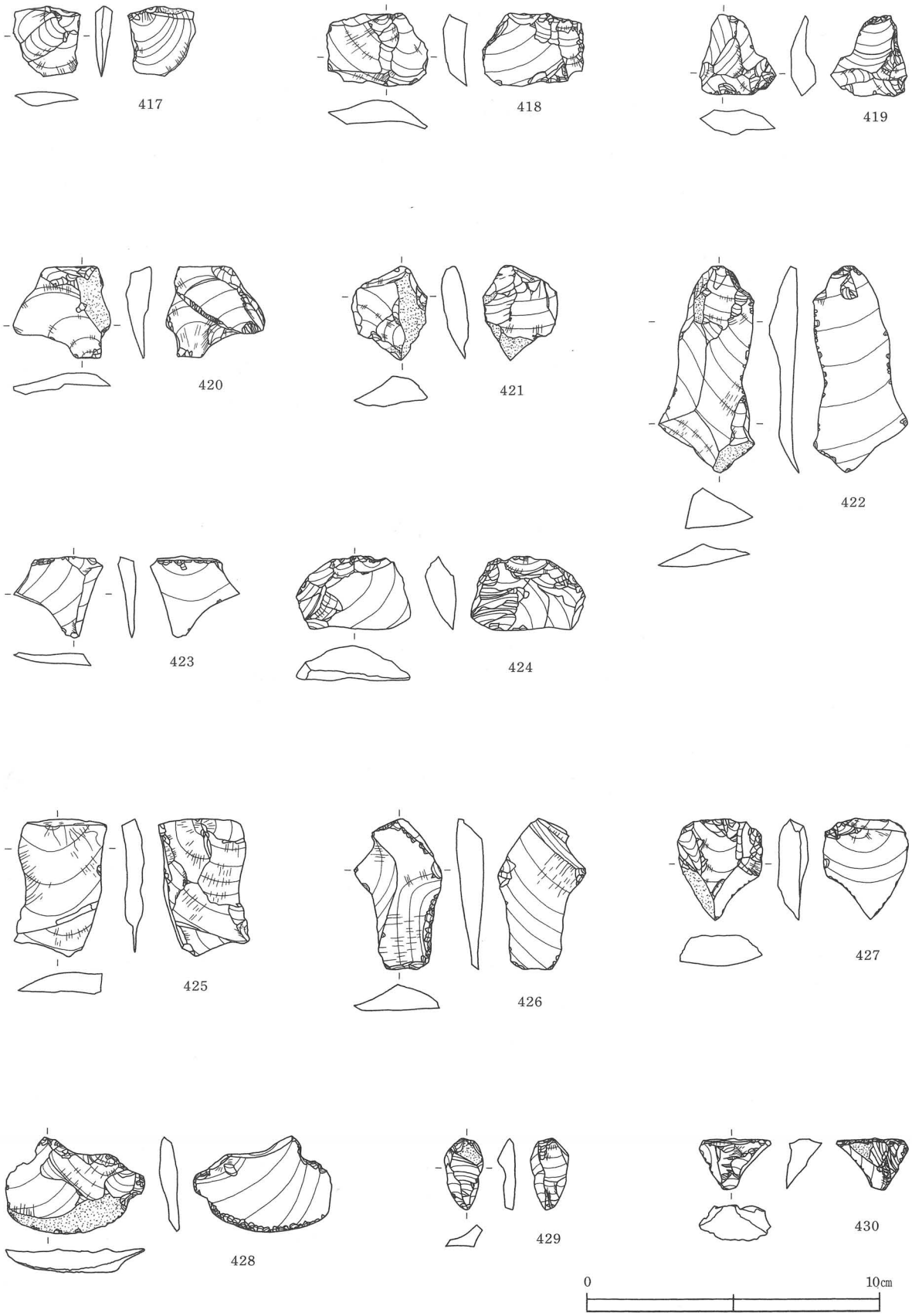
第33図　遺構外出土遺物（土器16）



第34図　遺構外出土遺物（陶磁器）



第35図　遺構外出土遺物(石器類１)



第36図　遺構外出土遺物（石器類２）

第５表　土器観察表

(　　)は推定値、[　　]は残存値

図番	出土位置・層位	器種	部位	法量(cm)			分類	文様の特徴	備考	図版	写版
				口径	器高	底経					
1	ＳＫ01埋土	浅鉢？(ミニチュア)	口縁部～体部下半	－	6.0	－	Ⅵ	無文		18	9
2	ＳＫ02埋土	浅鉢	口縁部	－	[4.3]	－	Ⅰ	口縁無文、沈線		18	9
3	ⅡＡ11ｖ検出面	深鉢	口縁部	－	[1.9]	－	Ⅳ	口縁部沈線(貼瘤)		18	9
4	ⅡＡ11ｖ検出面	深鉢	口縁部	－	[5.9]	－	Ⅳ	口縁部無文、頸部に沈線１条、ＬＲ		18	9
5	ⅡＡ12ｖ検出面	浅鉢	口縁部	－	[2.4]	－	Ⅳ	口縁部沈線		18	9
6	ⅡＡ12ｖ検出面	浅鉢	口縁部	－	[2.2]	－	Ⅳ	口縁部沈線		18	9
7	ⅡＡ12ｖ検出面	浅鉢	口縁部	－	[2.6]	－	Ⅳ	沈線(変形工字文)		18	9
8	ⅡＡ12ｖⅣａ層	浅鉢	口縁部	－	[2.6]	－	Ⅳ	口縁部沈線		18	9
9	ⅡＡ12ｖⅣａ層	浅鉢	口縁部	－	[3.2]	－	Ⅳ	口縁部沈線		18	9
10	ⅡＡ12ｖⅣａ層	注口土器	注口部	－	[2.1]	－	Ⅳ	沈線		18	9
11	ⅡＡ12ｖⅣａ層	浅鉢	口縁部	－	[4.8]	－	Ⅳ	圧痕の山形波状口縁、口縁沈線、変形工字文		18	9
12	ⅡＡ12ｖⅣｂ層	浅鉢	口縁部	－	[3.9]	－	Ⅳ	山形波状口縁、口縁無文、沈線		18	9
13	ⅡＡ12ｖⅣｂ層	浅鉢	口縁部	－	[2.6]	－	Ⅳ	口縁無文、沈線		18	9
14	ⅡＡ12ｖⅣｂ層	深鉢	口縁部	－	[5.0]	－	Ⅱ	連鎖状隆線、沈線、ＬＲ		18	9
15	ⅡＡ12ｖⅣｂ層	浅鉢？(ミニチュア)	口縁部～底部	(6.7)	[2,9]	－	Ⅵ	無文		18	9
16	ⅡＡ12ｖⅣｃ層	浅鉢	口縁部	－	[2.3]	－	Ⅳ	口唇部刻み列、変形工字文		18	9
17	ⅡＡ12ｖⅣｃ層	浅鉢	口縁部	－	[4.0]	－	Ⅳ	口唇部刻み列、変形工字文		18	9
18	ⅡＡ12ｖⅣｃ層	蓋	体部	－	[4.0]	－	Ⅳ	沈線、ＬＲ		18	9
19	ⅡＡ12ｖⅣｃ層	高坏	脚部	－	[3.0]	－	Ⅳ	口縁無文、沈線		18	9
20	ⅡＡ12ｗⅣａ層	浅鉢	口縁部	－	[2.4]	－	Ⅳ	口縁無文、沈線		18	9
21	ⅡＡ12ｗⅣｂ層	浅鉢	口縁部	－	[3.7]	－	Ⅳ	口縁沈線、無文		18	9
22	ⅡＡ12ｗⅣｂ層	浅鉢	口縁部	－	[4.3]	－	Ⅳ	口縁沈線		18	9
23	ⅡＡ12ｘⅣａ層	深鉢	口縁部	－	[4.0]	－	Ⅳ	大波状口縁、口縁上端内面沈線		18	9
24	ⅡＡ12ｘⅣａ層	壺	口縁部	－	[4.0]	－	Ⅳ	口縁部沈線		18	9
25	ⅡＡ12ｘⅣａ層	高坏	脚部	－	[10.2]	－	Ⅳ	平行沈線(３本１組)	ⅡＡ13ｗⅣａ層と接合	18	9
26	ⅡＡ12ｘⅣｂ層	浅鉢	口縁部	－	[3.4]	－	Ⅳ	口縁沈線		18	9
27	ⅡＡ13ｕⅣｂ層	深鉢	口縁部	－	[5.5]	－	Ⅳ	口縁無文、ＬＲ		19	9
28	ⅡＡ13ｕⅣｂ層	高坏	脚部	－	[2.6]	－	Ⅳ	沈線、無文		19	9
29	ⅡＡ13ｕⅣｃ層	深鉢	口縁部	－	[6.6]	－	Ⅳ	ＬＲ		19	9
30	ⅡＡ13ｕⅣｃ層	深鉢	口縁部	－	[3.6]	－	Ⅳ	口縁沈線、ＬＲ		19	9
31	ⅡＡ13ｕⅣｃ層	浅鉢	口縁部	－	[2.6]	－	Ⅳ	変形工字文		19	9
32	ⅡＡ13ｖ検出面	浅鉢	口縁部～体部下半	19.4	[11.9]	－	Ⅳ	口縁沈線、変形工字文(貼瘤)		19	9
33	ⅡＡ13ｖⅣａ層	浅鉢	口縁部	－	[3.1]	－	Ⅳ	口縁沈線		19	9
34	ⅡＡ13ｖⅣａ層	浅鉢	口縁部	－	[3.3]	－	Ⅳ	口縁沈線(変形工字文？)		19	9
35	ⅡＡ13ｖⅣｂ層	深鉢	口縁部	－	[3.9]	－	Ⅴ	ＲＬ		19	9
36	ⅡＡ13ｖⅣｂ層	深鉢	口縁部	－	[4.5]	－	Ⅴ	ＲＬ		19	9

図番	出土位置・層位	器種	部位	法量(cm)			分類	文様の特徴	備考	図版	写版
				口径	器高	底経					
37	ⅡA13vⅣb層	深鉢	口縁部	(21.4)	[11.3]	－	Ⅴ	山形波状口縁、ＲＬ	ⅡＡＴ13表土と接合	19	9
38	ⅡA13vⅣb層	深鉢	口縁部～体部下半	(21.2)	[30.4]	－	Ⅴ	ＲＬ	62と接合	19	9
39	ⅡA13vⅣb層	深鉢	口縁部～体部下半	(13.9)	[13.4]	－	Ⅳ	口縁沈線、ＬＲ		19	10
40	ⅡA13vⅣb層	高坏	体部下半～脚部	－	[2.7]	－	Ⅳ	沈線	旧河道23層、324と接合	19	10
41	ⅡA13vⅣb層	鉢？	口縁部	－	[2.3]	－	Ⅱ？	口縁内外面刺突		19	10
42	ⅡA13vⅣb層	深鉢	口縁部	－	[2.3]	－	Ⅳ	口縁沈線		19	10
43	ⅡA13vⅣb層	深鉢	口縁部	－	[2.1]	－	Ⅳ	口縁沈線、変形工字文(貼瘤)		19	10
44	ⅡA13vⅣb層	深鉢	口縁部	－	[3.4]	－	Ⅳ	口縁沈線、変形工字文(貼瘤)		19	10
45	ⅡA13vⅣb層	浅鉢？	体部	－	[4.2]	－	Ⅳ	口縁沈線	ⅡA13wⅣb層と接合	19	10
46	ⅡA13vⅣb層	浅鉢	体部	－	[2.7]	－	Ⅳ	口縁沈線		19	10
47	ⅡA13vⅣc層	深鉢	口縁部	－	[7.3]	－	Ⅱ	連鎖状隆線		20	10
48	ⅡA13vⅣc層	深鉢	口縁部	－	[4.6]	－	Ⅱ	連鎖状隆線		20	10
49	ⅡA13vⅣc層	深鉢	口縁部	－	[2.5]	－	Ⅳ	沈線		20	10
50	ⅡA13w検出面	壺？	頸部	－	[1.6]	－	Ⅳ	ＬＲの後ナデ調整が施されている		20	10
51	ⅡA13w検出面	深鉢	口縁部	－	[6.8]	－	Ⅴ	細く深い条線		20	10
52	ⅡA13w検出面	壺？	口縁部	－	[3.3]	－	Ⅳ	口縁沈線		20	10
53	ⅡA13w検出面	浅鉢	体部	－	[4.2]	－	Ⅳ	沈線		20	10
54	ⅡA13w検出面	浅鉢	口縁部	－	[2.4]	－	Ⅳ	口縁沈線		20	10
55	ⅡA13w検出面	浅鉢	口縁部	－	[2.5]	－	Ⅳ	口縁沈線		20	10
56	ⅡA13w検出面	高坏	脚部	－	[4.6]	－	Ⅳ	沈線		20	10
57	ⅡA13wⅣa層	壺？	体部	－	[13.0]	－	Ⅳ	無文	旧河道１黒色土と接合	20	10
58	ⅡA13wⅣb層	鉢	体部	－	[3.7]	－	Ⅴ	細く深い条線		20	10
59	ⅡA13wⅣb層	浅鉢	口縁部～体部下半	(16.6)	[5.9]	－	Ⅱ	口縁突起に刻み。磨消縄文	ⅡA13wⅣb層(ａ、ｃ)と接合	20	10
60	ⅡA13wⅣb層	浅鉢	口縁部～体部下半	(14.9)	[6.6]	－	Ⅳ	ＬＲ	ⅡA13wⅣc層と接合	20	10
61	ⅡA13wⅣb層	深鉢	口縁部	－	[3.7]	－	Ⅳ	刻みの山形波状口縁		20	10
62	ⅡA13wⅣb層	浅鉢	口縁部	－	[3.1]	－	Ⅳ	沈線		20	10
63	ⅡA13wⅣb層	鉢	体部	－	[4.4]	－	Ⅳ	沈線。変形工字文		20	10
64	ⅡA13wⅣc層	高坏	脚部	－	[4.1]	－	Ⅳ	平行沈線(３本１組)		20	10
65	ⅡA13xⅣa層	壺？	口縁部	－	[1.7]	－	Ⅳ	沈線		20	10
66	ⅡA13xⅣb層	浅鉢	口縁部～底部	(10.2)	[4.9]	－	Ⅳ	沈線。ＬＲ		20	10
67	ⅡA13xⅣb層	鉢？	口縁部	－	[4.4]	－	Ⅳ	刻みの山形波状口縁。変形工字文(貼瘤)		20	10
68	ⅡA13xⅣc層	深鉢	口縁部	－	[3.5]	－	Ⅴ	ＲＬ		20	10
69	ⅡA13yⅣa層	壺	口縁部	－	[3.3]	－	Ⅳ	沈線		20	10
70	ⅡA14uⅣa層	深鉢	口縁部	－	[3.6]	－	Ⅴ	細く深い条線		20	10
71	ⅡA14uⅣb層	深鉢	体部	－	[9.4]	－	Ⅴ	ＬＲ・ＲＬ？		20	10
72	ⅡA14uⅣb層	深鉢	口縁部	－	[8.1]	－	Ⅴ	ＬＲ		20	10

図番	出土位置・層位	器種	部位	法量(cm)			分類	文様の特徴	備考	図版	写版
				口径	器高	底経					
73	ⅡA14uⅣc層	深鉢	体部	－	[13.5]	－	Ⅴ	LR	ⅡA14vⅣb層と接合	21	10
74	ⅡA14uⅣc層	深鉢	口縁部	－	[6.0]	－	Ⅴ	LR		21	10
75	ⅡA14uⅣc層	高坏	脚部	－	[4.1]	－	Ⅳ	波状工字文(3本1組沈線)		21	10
76	ⅡA14uⅣc層	壺？	口縁部	－	[3.4]	－	Ⅳ	沈線		21	10
77	ⅡA14vⅣa層	浅鉢	口縁部	－	[1.8]	－	Ⅳ	沈線		21	10
78	ⅡA14vⅣa層	浅鉢	口縁部	－	[3.6]	－	Ⅳ	変形工字文		21	10
79	ⅡA14vⅣb層	深鉢	体部	－	[3.0]	－	Ⅰ			21	10
80	ⅡA14vⅣb層	深鉢	体部	－	[4.7]	－	Ⅱ	刺突文		21	10
81	ⅡA14vⅣb層	深鉢	体部	－	[3.4]	－	Ⅱ	刺突文		21	10
82	ⅡA14vⅣb層	深鉢	口縁部	－	[9.8]	－	Ⅴ	LR		21	10
83	ⅡA14vⅣb層	深鉢	体部	－	[11.3]	－	Ⅴ	RL	ⅡA14vⅣc層(a、b)と接合	21	11
84	ⅡA14vⅣb層	深鉢	体部	－	[3.5]	－	Ⅴ	細く深い条線		21	11
85	ⅡA14vⅣb層	深鉢	口縁部	－	[2.5]	－	Ⅳ	刻みのある山形波状口縁		21	11
86	ⅡA14vⅣb層	深鉢	口縁部	－	[4.7]	－	Ⅴ	RL		21	11
87	ⅡA14vⅣb層	深鉢	体部	－	[6.5]	－	Ⅴ	LR		21	11
88	ⅡA14vⅣb層	浅鉢	口縁部～体部下半	(12.6)	5.55	5.2	Ⅱ	平行沈線		21	11
89	ⅡA14vⅣb層	浅鉢	口縁部	－	[3.1]	－	Ⅱ	沈線。変形工字文		21	11
90	ⅡA14vⅣb層	浅鉢	口縁部	－	[1.9]	－	Ⅱ	沈線		21	11
91	ⅡA14vⅣb層	浅鉢	口縁部	－	[3.4]	－	Ⅱ	沈線		21	11
92	ⅡA14vⅣb層	浅鉢	口縁部	－	[3.8]	－	Ⅱ	沈線		21	11
93	ⅡA14vⅣb層	高坏	脚部	－	[5.0]	－	Ⅱ	波状工字文(3本1組沈線)		21	11
94	ⅡA14vⅣb層	高坏	脚部	－	[4.3]	－	Ⅱ	波状工字文(3本1組沈線)		21	11
95	ⅡA14vⅣb層	浅鉢	口縁部	－	[3.3]	－	Ⅱ	沈線		21	11
96	ⅡA14vⅣc層	深鉢？	口縁部	－	[4.9]	－	Ⅱ	無文		21	11
97	ⅡA14wⅣa層	深鉢？	口縁部	－	[2.6]	－	Ⅳ	刻みのある山形波状口縁		21	11
98	ⅡA14wⅣa層	台付鉢	口縁部	－	[1.6]	－	Ⅳ	変形工字文(沈線)		21	11
99	ⅡA14wⅣb層	浅鉢	体部	－	[2.3]	－	Ⅳ	沈線		21	11
100	ⅡA14xⅣc層	深鉢	口縁部	－	[4.4]	－	Ⅳ	沈線		21	11
101	ⅡA15vⅣa層	深鉢	底部	－	[9.6]	(14.2)	Ⅳ	LR	112と接合	22	11
102	ⅡA15vⅣa層	深鉢	口縁部	－	[2.8]	－	Ⅳ	沈線		22	11
103	ⅡA15vⅣa層	深鉢	口縁部	－	[3.9]	－	Ⅳ	刻みのある山形波状口縁。沈線		22	11
104	ⅡA15vⅣb層	深鉢	底部	－	[2.6]	7.8	Ⅳ	無文		22	11
105	ⅡA15vⅣc層	深鉢	口縁部	－	[2.3]	－	Ⅳ	沈線		22	11
106	ⅡA15vⅣb層	高坏	脚部	－	[6.3]	－	Ⅳ	波状工字文(3本1組沈線)		22	11
107	ⅡA15vⅣc層	深鉢	口縁部	－	[5.1]	－	Ⅴ	RL		22	11
108	ⅡA15vⅣc層	浅鉢	口縁部	－	[3.5]	－	Ⅳ	沈線		22	11

図番	出土位置・層位	器種	部位	法量(cm)			分類	文様の特徴	備考	図版	写版
				口径	器高	底経					
109	ⅡA15yⅣa層	深鉢	口縁部	－	[3.7]	－	Ⅳ	刻みの山形波状口縁。口縁部無文。ＬＲ		22	11
110	ⅡA16wⅣa層	深鉢	体部	－	[3.1]	－	Ⅴ	ＲＬ		22	11
111	ⅡA16wⅣa層	深鉢	体部	－	[6.7]	－	Ⅴ	ＲＬ		22	11
112	ⅡA17wⅣa層	深鉢	体部	－	[5.5]	－	Ⅴ	ＲＬ		22	11
113	ⅡA17xⅣa層	壺	体部	－	[4.0]	－	Ⅳ	沈線		22	11
114	ⅡA17xⅣa層	浅鉢	口縁部	－	[4.3]	－	Ⅳ	沈線		22	11
115	ⅡA18xⅣa層	深鉢	口縁部～体部下半	11.0	[14.05]	－	Ⅳ	刻みの山形波状口縁。口縁部無文。沈線。ＬＲ		22	11
116	ⅡA18xⅣa層	深鉢	口縁部	－	[6.0]	－	Ⅴ	細く深い条線		22	11
117	ⅡA18xⅣa層	深鉢	体部	－	[5.3]	－	Ⅴ	ＲＬ		22	11
118	旧河道１砂層	深鉢	口縁部	－	[14.3]	－	Ⅳ	口縁無文。ＬＲ		23	11
119	旧河道１黒色土	深鉢	口縁部	－	[9.1]	－	Ⅳ	ＲＬ？		23	11
120	旧河道１砂層	深鉢	口縁部	－	[9.6]	－	Ⅳ	ＬＲ		23	11
121	Ｔ13表土	深鉢	口縁部	－	[6.3]	－	Ⅴ	ＬＲ		23	11
122	旧河道２黒色土	深鉢	口縁部	－	[6.9]	－	Ⅴ	ＬＲ		23	11
123	旧河道１砂層	深鉢	体部	－	[7.5]	－	Ⅱ	中空突起。ＬＲ。		23	11
124	Ｔ13表土	深鉢	体部	－	[15.6]	－	Ⅴ	ＬＲ		23	12
125	Ｔ13表土	深鉢	口縁部	－	[8.5]	－	Ⅴ	ＬＲ		23	12
126	旧河道１砂層	浅鉢	体部	－	[2.8]	－	Ⅰ	沈線による区画(内部は磨消)。ＲＬ		23	12
127	旧河道１砂層	深鉢	体部	－	[3.6]	－	Ⅰ			23	12
128	旧河道1ⅡA11pグリッド	深鉢	体部	－	[6.8]	－	Ⅰ	沈線による区画(内部は磨消)。ＲＬ		23	12
129	旧河道１黒色土	深鉢	体部	－	[6.4]	－	Ⅰ	沈線による区画(内部は磨消)。ＲＬ		23	12
130	旧河道２黒色土	深鉢	口縁部	－	[5.1]	－	Ⅰ	口縁無文。沈線による区画(内部は磨消)。ＲＬ		23	12
132	旧河道１黒色土	深鉢	体部	－	[3.9]	－	Ⅴ	ＲＬ		23	12
133	Ｔ13表土	深鉢	口縁部	－	[4.6]	－	Ⅱ	沈線。ＬＲ		23	12
134	Ｔ13表土	深鉢	体部	－	[4.5]	－				23	12
135	Ｔ13表土	深鉢	体部	－	[3.7]	－	Ⅴ	ＲＬ		23	12
136	Ｔ13表土	深鉢	口縁部	－	[5.4]	－	Ⅱ	連鎖状隆起。ＲＬ		23	12
137	旧河道１黒色土	深鉢	口縁部	－	[4.6]	－	Ⅱ	口縁無文。刺突		23	12
138	Ｔ13表土	深鉢	体部	－	[4.7]	－	Ⅱ	ＲＬ		23	12
139	旧河道１砂層	深鉢	口縁部	－	[5.3]	－	Ⅱ	中空突起		23	12
140	旧河道１砂層	深鉢	体部	－	[4.2]	－	Ⅱ	連鎖状隆起。ＲＬ		24	12
141	旧河道１砂層	深鉢	体部	－	[4.4]	－	Ⅱ	連鎖状隆起。ＲＬ		24	12
142	旧河道1ⅡＡ３ｒ付近砂層	深鉢	体部	－	[3.6]	－	Ⅱ	連鎖状隆起。ＲＬ		24	12
143	旧河道１砂層	深鉢	口縁部	－	[5.1]	－	Ⅱ	連鎖状隆起		24	12
144	旧河道１砂層	深鉢	体部	－	[3.8]	－	Ⅱ	連鎖状隆起。ＲＬ		24	12
145	旧河道１底面	深鉢	体部	－	[3.8]	－	Ⅱ	連鎖状隆起		24	12

図番	出土位置・層位	器種	部位	法量(cm)			分類	文様の特徴	備考	図版	写版
				口径	器高	底経					
146	旧河道２黒色土	深鉢	口縁部	－	[5.4]	－	Ⅱ	刺突。ＬＲ		24	12
147	旧河道２黒色土	深鉢	口縁部	－	[4.7]	－	Ⅱ	刺突。ＬＲ		24	12
148	Ｔ13表土	深鉢	口縁部	－	[6.6]	－	Ⅱ	刺突。ＬＲ		24	12
149	旧河道２黒色土	深鉢	口縁部	－	[3.6]	－	Ⅱ	連鎖状隆起		24	12
150	旧河道２黒色土	深鉢	口縁部	－	[4.6]	－	Ⅱ	刺突		24	12
151	旧河道１北側検出面	深鉢	口縁部	－	[4.4]	－	Ⅱ	刺突		24	12
152	旧河道１砂層	深鉢	口縁部	－	[3.8]	－	Ⅱ	刺突		24	12
153	旧河道１砂層	深鉢	体部	－	[3.6]	－	Ⅱ	刺突		24	12
154	旧河道１砂層	深鉢	口縁部	－	[3.2]	－	Ⅱ	沈線。刺突		24	12
155	旧河道１砂層	深鉢	口縁部	－	[2.7]	－	Ⅱ	口唇に刻み		24	12
156	旧河道２黒色土層	深鉢	口縁部	－	[3.1]	－	Ⅱ	刺突		24	12
157	Ｔ16西側	深鉢	口縁部？	－	[3.5]	－	Ⅱ	中空突起		24	12
158	旧河道１砂層	深鉢	口縁部	－	[5.1]	－				24	12
159	Ｔ16西側	深鉢	口縁部	－	[6.5]	－	Ⅱ	刻みの台状突起、異方向回転羽状縄文		24	12
160	旧河道１砂層	深鉢	体部	－	[4.5]	－	Ⅳ？	沈線		24	12
161	旧河道１砂層	深鉢	体部	－	[5.0]	－	Ⅴ	細く深い条線		24	12
162	旧河道１黒色土	壺	口縁部	(10.7)	[4.6]	－	Ⅳ	変形工字文。刺突		24	12
164	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[3.5]	－	Ⅳ	山形波状口縁、沈線		24	12
165	旧河道１検出面	浅鉢	口縁部	－	[3.0]	－	Ⅳ			24	12
166	旧河道１砂層	深鉢	口縁部～体部	(23.6)	[8.5]	－	Ⅳ	口縁無文。ＬＲ		25	12
167	旧河道１砂層	深鉢	口縁部～体部	(17.7)	[10.4]	－	Ⅳ	口縁無文。沈線。ＬＲ		25	12
168	旧河道１黒色土	深鉢	口縁部～体部	(29.3)	[8.9]	－	Ⅳ	口縁無文。沈線。ＬＲ		25	13
169	旧河道１④ベルト東	深鉢	口縁部～体部	(21.0)	[9.8]	－	Ⅳ	口縁無文。沈線。ＬＲ		25	13
170	旧河道１砂層	深鉢	口縁部～体部下半	(25.6)	[23.4]	－	Ⅳ	口縁無文。ＬＲ	ⅡＡ３ｇ付近と接合	25	13
171	旧河道１砂層	深鉢	口縁部～体部	(25.6)	[11.6]	－	Ⅳ	口縁無文。ＬＲ		25	13
172	旧河道１砂層	深鉢	底部	－	[0.6]	(11.4)	Ⅳ	ＬＲ		25	13
173	旧河道１砂層	深鉢	体部下半～底部	－	[15.4]	10.0	Ⅳ	ＬＲ		25	13
174	旧河道１砂層	深鉢	底部	－	[4.2]	－	Ⅳ	ＬＲ		26	13
175	旧河道１砂層	深鉢	底部	－	[3.9]	(6.4)	Ⅳ	ＬＲ		26	13
176	旧河道１砂層	深鉢	底部	－	[5.6]	(11.6)	Ⅳ	無文		26	13
177	旧河道１④ベルト東底面	深鉢	底部	－	[6.9]	(6.6)	Ⅳ	無文		26	13
178	Ｔ14東側検出面	深鉢	底部	－	[2.5]	(10.0)	Ⅳ	無文。底部に網代痕		26	13
179	Ｔ13東側検出面	深鉢	底部	－	[3.2]	(12.8)	Ⅳ	無文。底部に木葉痕	ⅡＡ13ｘⅣｃ層と接合	26	13
180	旧河道１砂層	深鉢	底部	－	[2.2]	－	Ⅳ	無文。底部に網代痕	旧河道13層と接合	26	13
181	旧河道１砂層	深鉢	底部	－	[2.0]	5.8	Ⅳ	沈線		26	13
182	旧河道２黒色土	深鉢	底部	－	[4.1]	(7.8)	Ⅳ	ＲＬ		26	13

図番	出土位置・層位	器種	部位	法量(cm)			分類	文様の特徴	備考	図版	写版
				口径	器高	底経					
183	旧河道２黒色土	深鉢	底部	－	[3.6]	(9.6)	Ⅳ	ＲＬ		26	13
184	旧河道１④ベルト東	深鉢	底部	－	[4.0]	(8.2)	Ⅳ	ＬＲ。底部に網代痕		26	13
185	旧河道１砂層	深鉢	口縁部	－	[6.1]	－	Ⅳ	口縁無文。ＬＲ		26	13
186	旧河道１砂層	深鉢	口縁部	－	[7.3]	－	Ⅳ	口縁無文。ＬＲ		26	13
187	旧河道１砂層	深鉢	口縁部	－	[5.7]	－	Ⅳ	口縁無文。ＬＲ		26	13
188	旧河道１検出面	深鉢	口縁部	－	[9.8]	－	Ⅳ	口縁無文。ＬＲ		26	14
189	旧河道１砂層	深鉢	口縁部	－	[8.3]	－	Ⅳ	口縁無文。ＬＲ		26	14
190	旧河道１砂層	深鉢	口縁部	－	[7.0]	－	Ⅳ	口縁無文。ＬＲ		26	14
191	旧河道１砂層	深鉢	口縁部	－	[7.7]	－	Ⅳ	口縁無文。ＬＲ		26	14
192	旧河道１砂層	深鉢	口縁部	－	[7.0]	－	Ⅳ	口縁無文。沈線。ＬＲ		26	14
193	旧河道１砂層	深鉢	口縁部	－	[10.5]	－	Ⅳ	ＬＲ		27	14
194	旧河道１検出面	深鉢	口縁部	－	[7.8]	－	Ⅳ	ＬＲ		27	14
195	Ｔ13表土	深鉢	口縁部	－	[6.0]	－	Ⅳ	口縁無文。ＬＲ		27	14
196	旧河道１砂層	深鉢	口縁部	－	[4.7]	－	Ⅳ	口縁無文。ＬＲ		27	14
197	旧河道１北側検出面	深鉢	口縁部	－	[4.5]	－	Ⅳ	口縁無文		27	14
198	旧河道１砂層	深鉢	口縁部	－	[7.2]	－	Ⅳ	口縁無文。ＬＲ		27	14
199	旧河道１ⅡＡ11ｐグリッド	深鉢	口縁部	－	[5.6]	－	Ⅳ	刻みの山形波状口縁。口縁部無文。ＬＲ		27	14
200	旧河道１砂層	深鉢	口縁部	－	[5.1]	－	Ⅳ	刻みの山形波状口縁。口縁部無文。ＬＲ		27	14
201	旧河道１底面	深鉢	口縁部	－	[6.1]	－	Ⅳ	刻みの山形波状口縁。口縁部無文。ＬＲ		27	14
202	旧河道１砂層	深鉢	口縁部	－	[5.0]	－	Ⅳ	口縁無文。沈線。ＬＲ		27	14
203	旧河道１ⅡＡ11ｐグリッド	深鉢	口縁部	－	[4.7]	－	Ⅳ	刻みの山形波状口縁。口縁部無文。ＬＲ		27	14
204	旧河道１検出面	深鉢	口縁部	－	[7.1]	－	Ⅳ	山形波状口縁。口縁部無文。ＬＲ		27	14
205	旧河道１ⅡＡ11ｐグリッド	深鉢	口縁部	－	[5.4]	－	Ⅳ	刻みの山形波状口縁。口縁部無文。ＬＲ		27	14
206	旧河道１砂層	深鉢	口縁部	－	[4.1]	－	Ⅳ	刻みの山形波状口縁。口縁部無文		27	14
207	旧河道１砂層	深鉢	口縁部	－	[4.8]	－	Ⅳ	刻みの山形波状口縁。口縁部無文。ＬＲ		27	14
208	旧河道１砂層	深鉢	口縁部	－	[5.1]	－	Ⅳ	刻みの山形波状口縁。口縁部無文		27	14
209	旧河道１砂層	深鉢	口縁部	－	[4.1]	－	Ⅳ	刻みの山形波状口縁。口縁部無文。ＬＲ		27	14
210	旧河道１検出面	深鉢	口縁部	－	[3.7]	－	Ⅳ	刻みの山形波状口縁。口縁部無文		27	14
211	旧河道１砂層	深鉢	口縁部	－	[6.0]	－	Ⅳ	ＬＲ		27	14
212	旧河道１砂層	深鉢	口縁部	－	[5.6]	－	Ⅳ	無文		27	14
213	旧河道１砂層	深鉢	口縁部	－	[6.8]	－	Ⅳ	ＬＲ		27	14
214	旧河道１砂層	深鉢	口縁部	－	[5.8]	－	Ⅳ	ＬＲ		27	14
215	旧河道１砂層	深鉢	口縁部	－	[5.0]	－	Ⅳ	ＬＲ		27	14
216	旧河道１砂層	深鉢	口縁部	－	[6.0]	－	Ⅳ	ＬＲ		27	14
217	旧河道１砂層	深鉢	体部	－	[26.5]	－	Ⅳ	ＬＲ		28	14
218	Ｔ13表土	深鉢	体部	－	[13.8]	－	Ⅳ	ＬＲ		28	15

図番	出土位置・層位	器種	部位	法量(cm)			分類	文様の特徴	備考	図版	写版
				口径	器高	底経					
219	旧河道１砂層	深鉢	体部	－	[3.1]	－	Ⅳ	ＬＲ		28	15
220	旧河道２黒色土	深鉢	体部	－	[5.6]	－	Ⅳ	ＬＲ		28	15
221	旧河道１砂層	深鉢	体部	－	[5.0]	－	Ⅳ	口縁無文、ＬＲ		28	15
222	旧河道１砂層	深鉢	体部	－	[7.8]	－	Ⅳ	ＬＲ		28	15
223	旧河道２黒色土	深鉢	体部	－	[7.6]	－	Ⅳ	頸部沈線、ＲＬ		28	15
224	旧河道２黒色土	深鉢	体部	－	[5.1]	－	Ⅳ	頸部沈線、ＲＬ		28	15
225	旧河道１砂層	深鉢	口縁部～体部下半	(19.2)	[15.8]	－	Ⅳ	刻みの山形波状口縁。口縁部無文。頸部沈線。ＬＲ	黒色土層と接合	28	15
226	旧河道１砂層	深鉢	口縁部～体部上半	(22.0)	[5.6]	－	Ⅳ		旧河道１検出面と接合	28	15
227	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部～体部下半	33.9	[14.9]	－	Ⅳ	刻みの山形波状口縁。変形工字文(貼瘤)	ⅡＡ３ｑ・３ｓ砂層・137と接合	28	15
228	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部～体部下半	(26.0)	[7.8]	－	Ⅳ	変形工字文(貼瘤)。ＬＲ		28	15
229	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部～体部下半	(15.7)	[4.25]	－	Ⅳ	変形工字文(貼瘤)		28	15
230	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部～体部下半	(24.6)	[8.2]	－	Ⅳ	変形工字文(貼瘤)。沈線。ＬＲ	旧河道13層・301と接合	28	15
231	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部～体部下半	(23.7)	[39.5]	－	Ⅳ	変形工字文(貼瘤)		29	15
232	旧河道１黒色土層	浅鉢	口縁部～体部下半	(16.9)	[4.3]	－	Ⅳ	変形工字文(貼瘤)		29	15
233	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部～体部下半	(21.0)	[2.7]	－	Ⅳ	変形工字文		29	15
234	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部～体部下半	(19.7)	[5.4]	－	Ⅳ	変形工字文(貼瘤)。ＬＲ	旧河道13層と接合	29	15
235	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部～体部下半	(15.5)	[4.0]	－	Ⅳ	変形工字文		29	15
236	旧河道１黒色土層	浅鉢	口縁部～体部下半	(18.1)	[2.8]	－	Ⅳ	変形工字文		29	15
237	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部～体部下半	(12.3)	[4.8]	－	Ⅳ	変形工字文		29	15
238	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[3.8]	－	Ⅳ	山形波状口縁、口縁部無文、変形工字文(貼瘤)		29	15
239	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[3.5]	－	Ⅳ	山形波状口縁、口縁部無文		29	16
240	旧河道１黒色土	浅鉢	口縁部	－	[6.2]	－	Ⅳ	刻みの山形波状口縁。口縁部無文。変形工字文。		29	16
241	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[4.7]	－	Ⅳ	山形波状口縁。口縁部無文。変形工字文。		29	16
242	旧河道２黒色土	浅鉢	口縁部	－	[5.2]	－	Ⅳ	変形工字文		29	16
243	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[5.4]	－	Ⅳ	口縁無文、変形工字文		29	16
244	旧河道２黒色土	浅鉢	口縁部	－	[4.0]	－	Ⅳ	変形工字文		29	16
245	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[3.5]	－	Ⅳ	沈線		29	16
246	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[4.7]	－	Ⅳ	刻みの山形波状口縁。沈線		29	16
247	旧河道１黒色土	浅鉢	口縁部	－	[5.2]	－	Ⅳ	沈線		29	16
248	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[4.0]	－	Ⅳ	変形工字文		29	16
249	旧河道１検出面	浅鉢	口縁部	－	[3.8]	－	Ⅳ	変形工字文		29	16
250	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[3.3]	－	Ⅳ	沈線		29	16
251	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[2.8]	－	Ⅳ	沈線		29	16
252	Ｔ13表土	浅鉢	口縁部	－	[2.6]	－	Ⅳ	沈線		29	16
253	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[5.9]	－	Ⅳ	刻みの山形波状口縁。口縁無文。変形工字文。ＬＲ		30	16
254	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[4.3]	－	Ⅳ	変形工字文(貼瘤)		30	16

図番	出土位置・層位	器種	部位	法量(cm)			分類	文様の特徴	備考	図版	写版
				口径	器高	底経					
255	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[2.7]	－	Ⅳ	変形工字文(貼瘤)		30	16
256	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[2.3]	－	Ⅳ	変形工字文(貼瘤)		30	16
257	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[3.4]	－	Ⅳ	変形工字文(貼瘤)		30	16
258	旧河道23層	浅鉢	口縁部	－	[2.5]	－	Ⅳ	変形工字文(貼瘤)		30	16
259	旧河道１ⅡＡ３ｒ付近砂層	浅鉢	口縁部	－	[4.6]	－	Ⅳ	刻みの山形波状口縁。口縁部無文。変形工字文。		30	16
260	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[3.2]	－	Ⅳ	山形波状口縁。口縁部無文。変形工字文。		30	16
261	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[3.2]	－	Ⅳ	変形工字文。		30	16
262	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[3.2]	－	Ⅳ	刻みの山形波状口縁。口縁部無文。変形工字文。		30	16
263	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[3.5]	－	Ⅳ	刻みの山形波状口縁。口縁部無文。変形工字文。		30	16
264	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[3.0]	－	Ⅳ	山形波状口縁。変形工字文。		30	16
265	旧河道１底面	浅鉢	口縁部	－	[4.4]	－	Ⅳ	変形工字文。ＬＲ		30	16
266	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[6.0]	－	Ⅳ	変形工字文。無文		30	16
267	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[5.5]	－	Ⅳ	変形工字文		30	16
268	旧河道１黒色土	浅鉢	口縁部	－	[2.5]	－	Ⅳ	変形工字文		30	16
269	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[5.3]	－	Ⅳ	２対１個の突起をもつ山形波状口縁、口縁無文、沈線、変形工字文		30	16
270	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[2.5]	－	Ⅳ	変形工字文		30	16
271	旧河道１底面	浅鉢	口縁部	－	[4.1]	－	Ⅳ	山形波状口縁、沈線、変形工字文		30	16
272	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[5.5]	－	Ⅳ	刻みの山形波状口縁、変形工字文		30	16
273	旧河道１底面	浅鉢	体部	－	[4.1]	－	Ⅳ	変形工字文、ＬＲ		30	16
274	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[2.7]	－	Ⅳ	変形工字文		30	16
275	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[3.1]	－	Ⅳ	刻みの山形波状口縁、変形工字文？		30	16
276	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[3.0]	－	Ⅳ	刻みの山形波状口縁、変形工字文		30	16
277	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[4.6]	－	Ⅳ	２対１個の突起をもつ山形波状口縁、沈線		31	16
278	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[4.4]	－	Ⅳ	沈線、ＬＲ		31	16
279	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[3.2]	－	Ⅳ	山形波状口縁、沈線		31	16
280	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[3.6]	－	Ⅳ	沈線		31	16
281	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[3.7]	－	Ⅳ	変形工字文、ＬＲ		31	16
282	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[5.2]	－	Ⅳ	沈線、変形工字文		31	16
283	Ｔ16西側	浅鉢	口縁部	－	[3.2]	－	Ⅳ	変形工字文		31	16
284	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[3.2]	－	Ⅳ	沈線		31	16
285	旧河道２黒色土	浅鉢	口縁部	－	[2.5]	－	Ⅳ	変形工字文？		31	16
286	Ｔ13西側検出面３ａ層	浅鉢	口縁部	－	[4.1]	－	Ⅳ	山形波状口縁、口縁無文		31	16
287	Ｔ13西側検出面３ａ層	浅鉢	口縁部	－	[3.0]	－	Ⅳ	刻みの山形波状口縁？		31	16
288	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[4.1]	－	Ⅳ	頂部の平らにした山形波状口縁		31	16
289	旧河道１④ベルト東	浅鉢	口縁部	－	[2.7]	－	Ⅳ	山形波状口縁		31	16

図番	出土位置・層位	器種	部位	法量(cm)			分類	文様の特徴	備考	図版	写版
				口径	器高	底経					
290	旧河道２黒色土	浅鉢	口縁部	－	[2.6]	－	Ⅳ	口縁を区画するかのような沈線		31	16
291	旧河道１黒色土	浅鉢	口縁部	－	[4.2]	－	Ⅳ	変形工字文、ＬＲ		31	16
292	旧河道１北側検出面	浅鉢	口縁部	－	[4.7]	－	Ⅳ	山形波状口縁、沈線		31	17
293	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[3.2]	－	Ⅳ	ＬＲ		31	17
294	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[4.0]	－	Ⅳ	変形工字文		31	17
295	旧河道１ⅡA11pグリッド	浅鉢	口縁部	－	[4.8]	－	Ⅳ	沈線		31	17
296	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[6.5]	－	Ⅳ	ＲＬ		31	17
297	旧河道１ⅡＡ３ｒ付近砂層	浅鉢	体部	－	[4.4]	－	Ⅳ	変形工字文		31	17
298	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部	－	[5.6]	－	Ⅳ	変形工字文		31	17
299	旧河道１黒色土	浅鉢	体部	－	[5.7]	－	Ⅳ	沈線、ＬＲ		31	17
300	旧河道１ⅡA11pグリッド	浅鉢	体部	－	[7.3]	－	Ⅳ	変形工字文、ＬＲ・ＲＬ		32	17
301	旧河道１ⅡA11pグリッド	浅鉢	体部	－	[6.6]	－	Ⅳ	変形工字文		32	17
302	Ｔ13表土	高坏	体部下半～脚部	－	[4.5]	－	Ⅳ	沈線		32	17
303	旧河道１北側検出面	高坏	体部下半～脚部	－	[4.1]	－	Ⅳ	沈線、ＬＲ		32	17
304	Ｔ16表土層	高坏	体部下半～脚部	－	[5.7]	－	Ⅳ	無文		32	17
305	旧河道２黒色土	高坏	脚部	－	[2.4]	－	Ⅳ	無文		32	17
306	旧河道１検出面	高坏	脚部	－	[3.2]	台(11.4)	Ⅳ	沈線		32	17
307	旧河道１砂層	高坏	脚部	－	[4.1]	－	Ⅳ	沈線		32	17
308	旧河道１砂層	高坏	脚部	－	[2.4]	－	Ⅳ	沈線		32	17
309	旧河道１砂層	高坏	脚部	－	[3.2]	－	Ⅳ	沈線		32	17
310	旧河道１検出面	高坏	脚部	－	[3.15]	－	Ⅳ	無文		32	17
311	旧河道１検出面	高坏	脚部	－	[2.7]	－	Ⅳ	無文		32	17
312	旧河道１砂層	高坏	脚部		[1.5]		Ⅳ	沈線		32	17
313	旧河道１砂層	高坏	脚部	－	[5.3]	－	Ⅳ			32	17
314	旧河道１砂層	高坏	脚部	－	[6.6]	－	Ⅳ	波状工字文(３本１組沈線)		32	17
315	旧河道１砂層	高坏	脚部	－	[4.1]	－	Ⅳ	波状工字文(３本１組沈線)		32	17
316	旧河道１底面	高坏	脚部	－	[7.2]	－	Ⅳ	波状工字文(３本１組沈線)		32	17
317	旧河道１砂層	高坏	脚部	－	[7.5]	－	Ⅳ	波状工字文(３本１組沈線)	ⅡA14vⅣb層と接合	32	17
318	旧河道１底面	高坏	脚部	－	[6.3]	－	Ⅳ	３本１組沈線		32	17
319	旧河道１砂層	高坏	脚部	－	[6.4]	－	Ⅳ	３本１組沈線		32	17
320	旧河道１砂層	高坏	脚部	－	[4.9]	－	Ⅳ	３本１組沈線		32	17
321	旧河道２黒色土	高坏	脚部	－	[6.1]	－	Ⅳ	３本１組沈線		32	17
322	Ｔ13表土	浅鉢	口縁部～底部	(9.6)	4.0	－	Ⅳ	小波状口縁、変形工字文	ⅡA12vⅣa層と接合	32	17
323	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部～底部	－	[3.8]	(9.4)	Ⅳ	沈線		32	17
324	旧河道１砂層	浅鉢	口縁部～底部	(9.2)	4.45	－	Ⅳ	沈線、ＬＲ		32	17
325	旧河道１砂層	壺	口縁部～頸部	－	[5.8]	－	Ⅳ	沈線		33	17

図番	出土位置・層位	器種	部位	法量(cm)			分類	文様の特徴	備考	図版	写版
				口径	器高	底経					
326	旧河道１砂層	壺	口縁部～頸部	(9.2)	[5.4]	－	Ⅳ	沈線(貼瘤)		33	17
327	旧河道１砂層	壺	口縁部～頸部	(9.4)	[5.9]	－	Ⅳ	沈線、ＲＬ		33	17
328	旧河道１ⅡＡ３ｒ付近砂層	壺	口縁部～頸部	(8.0)	[2.7]	－	Ⅳ	沈線		33	17
329	旧河道１黒色土	壺	口縁部～頸部	(13.2)	[4.5]	－	Ⅳ	沈線		33	17
330	旧河道１砂層	壺	口縁部	－	[1.6]	－	Ⅳ	沈線(貼瘤)		33	17
331	旧河道１ⅡＡ11ｐグリッド	壺	口縁部	－	[4.0]	－	Ⅳ	沈線(貼瘤)		33	17
332	旧河道１砂層	壺	口縁部	－	[3.7]	－	Ⅳ	沈線(貼瘤)		33	17
333	旧河道１ⅡＡ11ｐグリッド	壺	口縁部	－	[5.0]	－	Ⅳ	沈線(貼瘤)		33	17
334	旧河道１砂層	壺	口縁部	－	[4.7]	－	Ⅳ	沈線(貼瘤)		33	17
335	旧河道２黒色土	壺	口縁部	－	[3.7]	－	Ⅳ	沈線		33	17
336	旧河道２黒色土	壺	口縁部	－	[4.6]	－	Ⅳ	沈線(貼瘤)		33	17
337	旧河道２黒色土	壺	口縁部	－	[3.2]	－	Ⅳ	沈線		33	17
338	旧河道１砂層	壺	口縁部	－	[3.5]	－	Ⅳ	沈線(貼瘤)		33	18
339	旧河道２黒色土	壺	口縁部	－	[3.7]	－	Ⅳ	沈線		33	18
340	旧河道１砂層	壺	口縁部	－	[4.5]	－	Ⅳ	沈線		33	18
341	旧河道１砂層	壺	口縁部	－	[3.4]	－	Ⅳ	無文		33	18
342	旧河道１黒色土	壺	口縁部	－	[5.6]	－	Ⅱ	異方向回転羽状縄文		33	18
343	旧河道１砂層	壺	体部	－	[4.3]	－	Ⅲ	変形工字文		33	18
344	旧河道１砂層	壺	体部～底部	－	[6.7]	(4.8)	Ⅵ	無文		33	18
345	Ｔ13表土	壺	体部	－	[4.9]	－	Ⅵ	無文		33	18
346	旧河道１砂層	壺	体部	－	[3.1]	－	Ⅳ	ＬＲ		33	18
347	旧河道１黒色土	壺	体部	－	[4.7]	－	Ⅳ	沈線、ＬＲ		33	18
348	旧河道２黒色土	壺	体部	－	[4.1]	－	Ⅳ	ＬＲ		33	18

第６表　円盤状土製品観察表

（　　）は推定値、［　　］は残存値

図番	出土位置・層位	器種	部位	法量(cm)			周縁加工	文様	備考	図版	写版
				長径	短径	厚さ					
349	ⅡA14wⅣa層	円盤状土製品	ほぼ完形	4.0	3.9	0.5	打欠	ＲＬ		33	18
350	旧河道１砂層	円盤状土製品	ほぼ完形	4.0	3.8	0.8	打欠	ＬＲ		33	18

第７表　土偶観察表

図版	出土位置・層位	器種	部位	つくり	文様等	図版	写版
131	旧河道１砂層	土偶	右肩	中空	刺突文	23	12
163	旧河道１砂層	土偶	顔	中実	粘土貼付の上に刺突文	24	12
351	旧河道１黒色土	土偶	体部～腕	中実	無文	33	18
352	旧河道１黒色土	土偶	体部～腕	中実	胸粘土粒貼	33	18
353	旧河道１砂層	土偶の足	脚部	中空	無文	33	18
354	ⅡA12wⅣa層	土偶の手	手	中実	刺突文	33	18

第８表　陶磁器観察表

図番	出土位置・層位	器種	産地	時期	釉調	胎土	法量(cm)			図版	写版
							口径	器高	底径		
1001	旧河道１・底面	胎土目碗	唐津	16C	褐釉	灰白色	(11.1)	2.75	3.9	34	18
1002	旧河道１・底面	碗	肥前	18C	褐釉	褐灰色	－	[1.9]	(4.2)	34	18
1003	旧河道１・埋土上位	碗？	肥前	18C？	染付	明緑灰色	－	[1.5]	－	34	18

第９表　石器観察表

図番	遺構名・出土位置・層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石質・産地	図版	写版
401	ⅡA13w13層	石　鏃	2.1	0.95	0.45	0.71	頁岩 北上山地	35	18
402	ⅡA12w13層	不定形	2.1	2.55	0.85	4.06	頁岩 北上山地	35	18
403	ⅡA12w13層	不定形	2.8	4.0	1.1	9.64	頁岩 北上山地	35	18
404	ＳK02埋土	不定形	1.85	1.5	1.15	2.93	頁岩 北上山地	35	18
405	旧河道13層	不定形	4.4	1.0	0.5	1.51	頁岩 北上山地	35	18
406	遺構外T13Ⅱ層	石　鏃	[2.85]	1.2	0.55	1.23	頁岩 北上山地	35	18
407	遺構外T13検出面	石　鏃	2.0	1.7	0.35	0.62	黒曜石 北上山地	35	18
408	遺構外表採	石　鏃	2.35	1.6	0.35	0.76	頁岩 北上山地	35	18
409	旧河道１Ⅲ層	石　錐	4.0	1.25	0.6	1.52	頁岩 北上山地	35	18
410	旧河道１底面	石　匙	6.4	2.1	0.75	6.85	頁岩 北上山地	35	18
411	旧河道１砂層ⅡＡ３ｒ付近	石　匙	6.3	2.25	1.15	8.08	頁岩 北上山地	35	18
412	旧河道１西側検出面	石　匙	5.2	3.7	0.8	12.47	頁岩 北上山地	35	18
413	遺構外T16東検出面	石　匙	7.45	2.85	1.3	20.58	頁岩 北上山地	35	18
414	旧河道１検出面	石　匙	7.6	2.1	0.85	8.84	頁岩 北上山地	35	18
415	旧河道２黒色土	石　匙	5.15	7.75	1.35	30.63	頁岩 北上山地	35	18
416	遺構外T13西側検出面	耳飾り	2.8	1.65	0.8	3.94	滑石 北上山地	35	18
417	旧河道１黒色土	不定形	2.24	2.2	0.5	2.99	頁岩 北上山地	36	18
418	旧河道１黒色土	不定形	2.5	3.45	1.0	8.60	頁岩 北上山地	36	18
419	旧河道１黒色土	不定形	2.75	2.6	0.85	4.56	赤色頁岩 北上山地	36	19
420	旧河道１黒色土	不定形	3.1	3.4	0.8	7.06	頁岩 北上山地	36	19
421	旧河道１黒色土	不定形	3.2	2.1	1.0	6.77	頁岩 北上山地	36	19
422	旧河道１黒色土	不定形	7.1	3.3	1.4	16.48	頁岩 北上山地	36	19
423	旧河道１砂層（底面）ⅡＡ２ｒ付	不定形	2.8	3.05	0.6	2.52	頁岩 北上山地	36	19
424	遺構外T16北	不定形	2.5	3.95	1.1	10.30	頁岩 北上山地	36	19
425	遺構外T16西側Ⅱ層	不定形	4.75	3.15	0.75	13.43	頁岩 北上山地	36	19
426	遺構外表採	不定形	5.2	3.0	0.95	10.48	頁岩 北上山地	36	19
427	遺構外T16西側Ⅱ層下位	不定形	3.4	2.8	1.0	10.73	頁岩 北上山地	36	19
428	遺構外T16表土層	不定形	3.3	4.8	0.85	9.82	頁岩 北上山地	36	19
429	遺構外T16西側Ⅱ層	不定形	2.45	1.35	0.75	1.83	頁岩 北上山地	36	19
430	遺構外表採	不定形	1.75	2.45	1.2	3.26	赤色頁岩 北上山地	36	19
431	ⅡA13vⅣa層	不定形	－	－	－	4.91	メノウ 北上山地	－	19
432	旧河道１黒色土	不定形	－	－	－	5.69	頁岩 北上山地	－	19
433	旧河道１黒色土	不定形	－	－	－	5.16	赤色頁岩 北上山地	－	19
434	旧河道１黒色土	不定形	－	－	－	7.73	頁岩 北上山地	－	19
435	旧河道１砂層	不定形	－	－	－	19.30	頁岩 北上山地	－	19
436	旧河道２黒色土	不定形	－	－	－	4.07	赤色頁岩 北上山地	－	19
437	遺構外T12西側検出面	不定形	－	－	－	3.16	メノウ 北上山地	－	19
438	遺構外T13表土	不定形	－	－	－	3.77	赤色頁岩 北上山地	－	19
439	遺構外T13東側検出面	不定形	－	－	－	1.99	赤色頁岩 北上山地	－	19
440	遺構外T16西側Ⅱ層下位	不定形	－	－	－	6.69	安山岩 北上山地	－	19
441	遺構外表採	不定形	－	－	－	6.86	頁岩 北上山地	－	19

第Ⅴ章　まとめ

1．遺構・遺物

今回の調査で検出した遺構は土坑７基、柱穴状土坑154基、遺物包含層１箇所である。

〈土坑〉調査区北側～中央から７基検出したが、前回のほ場整備時による削平により残存状況は不良である。平面形は円形ないし楕円形を呈している。土坑一覧表を第10表に示したが、はっきりとした傾向は見いだせなかった。また、埋土中より縄文土器ないし弥生土器が出土している土坑があるが、埋土の状況から見て確実に遺構に伴う遺物であるかは疑問が残る（特にＳＫ02）。

第10表　土坑一覧表

遺構名	径(m)	深さ(cm)	長軸方向	平面形	埋土色調	出土遺物	備考
ＳＫ01	2.39×1.57	16.0	W－25°－N	楕円形	黒褐・にぶい黄褐色	弥生土器	
ＳＫ02	1.68×1.39	33.0	－	円　形	黒色	縄文土器	
ＳＫ05	1.40×0.87	19.0	N－38°－W	楕円形	褐灰色	－	
ＳＫ06	3.60×2.80	65.0	W－１°－N	楕円形	黒色・褐色系	弥生土器	
ＳＫ07	1.37×0.87	40.0	W－44°－N	楕円形	にぶい黄褐・灰黄褐色	－	
ＳＫ08	2.03×1.31	39.0	W－21°－N	楕円形	にぶい黄褐色	－	
ＳＫ09	1.63×1.60	19.0	－	円　形		－	

〈柱穴状土坑〉調査区中央を中心に154基検出したが、掘立柱建物跡を構成する柱穴は検出されなかった。遺物は出土していないことから時期は不明である。

〈遺物包含層〉調査区中央南側より約400㎡を検出した。最大厚は50cmを測る。大きく３層に細分され主に弥生時代前期の遺物が出土しているが、出土量が少ないということと残存率が悪いことなどが重なり、層位的な遺物の取り上げはしたものの、残念ながら層位的に言えることはほとんどない状況である。また、包含層中からは遺構は検出されていない。

2．まとめ－要約－

今回の調査では弥生時代の遺物包含層と時期不明の土坑・柱穴状土坑・旧河道が検出された。遺物包含層は洞状の緩斜面に斜面上位から遺物が流入して形成され、その底の部分が開田時に削平を受けずに残ったものであると思われる。調査区内からは弥生時代の遺構は検出されていないことから、開田時に削平されたか、調査区周辺、特に調査区北側の斜面上位面に該期の集落があった可能性が想定されるが、推測の域を出ない。今回の調査で出土した主に弥生時代前期の遺物は当該地域においては類例の少ない資料であるが、層位的に取り上げはしたものの旧河道より出土した遺物が大半で、プライマリーな出土を示した遺物包含層出土遺物の出土量が少ない上に残りが悪かったため、層位的に言えることはほとんどなく、有意義な分析が出来たとは言い難い。今後の調査成果に期待しつつ、資料の蓄積を待って再度検討し直したい。

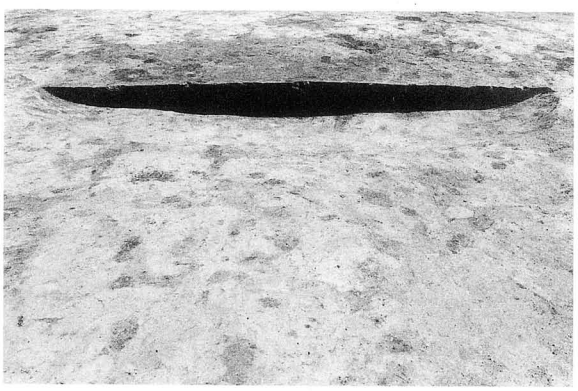
写真図版

調査前風景

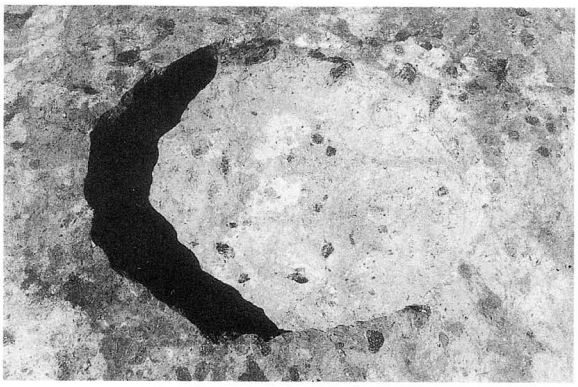
調査終了全景

写真図版１　調査前風景・調査終了全景

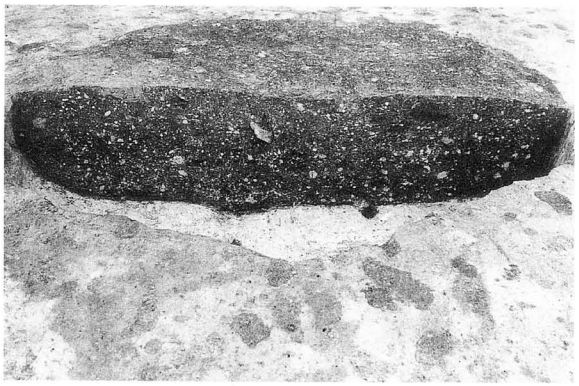
ＳＫ01　完掘（Ｓ→）



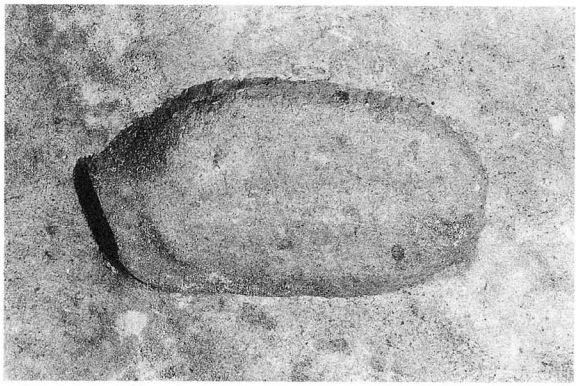
ＳＫ01　断面（Ｓ→）



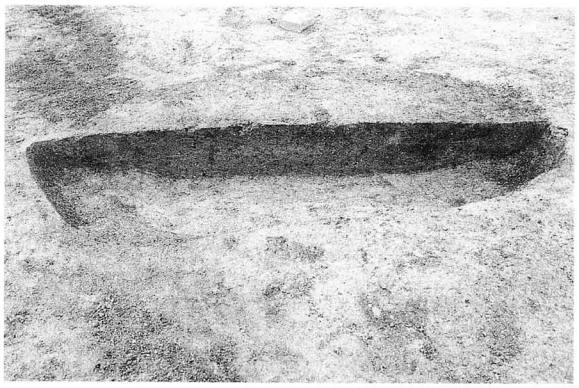
ＳＫ02　完掘（Ｓ→）



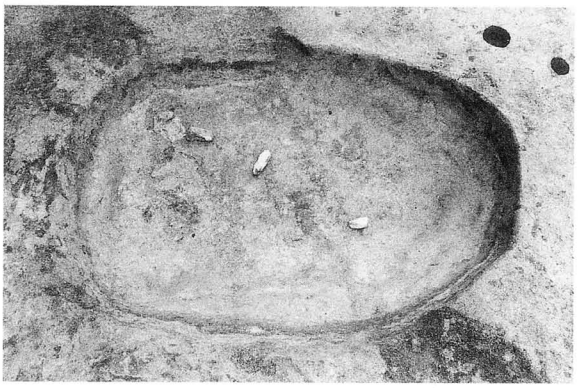
ＳＫ02　断面（Ｓ→）



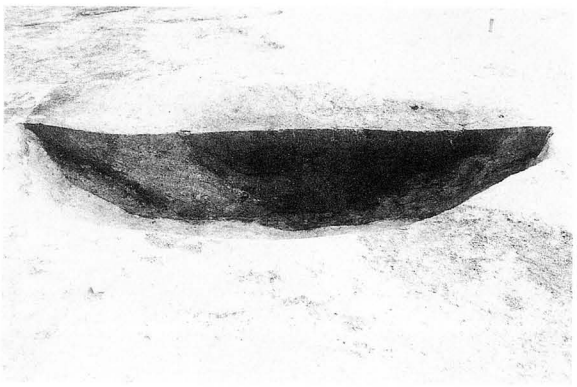
ＳＫ05　完掘（Ｓ→）



ＳＫ05　断面（Ｓ→）

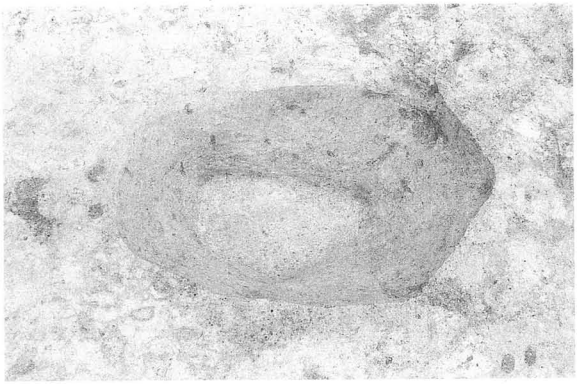


ＳＫ06　完掘（Ｓ→）

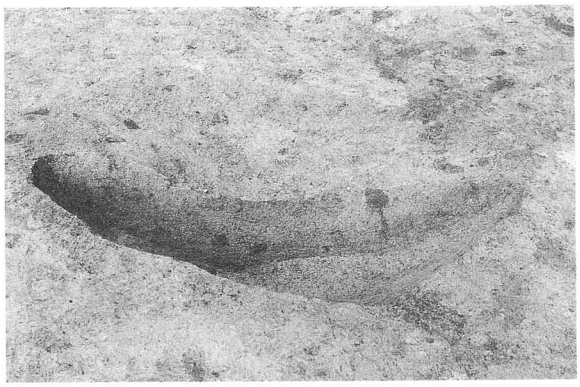


ＳＫ06　断面（Ｓ→）

写真図版２　土坑（１）

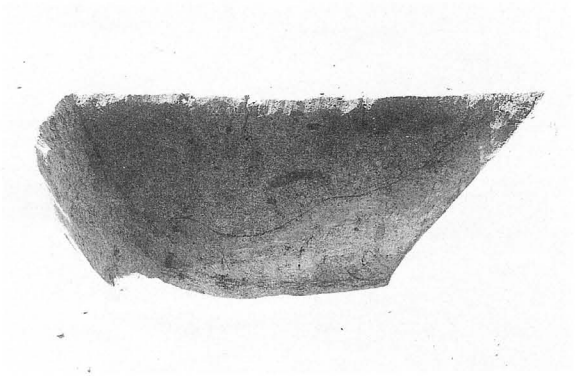


ＳＫ07　完掘（Ｓ→）



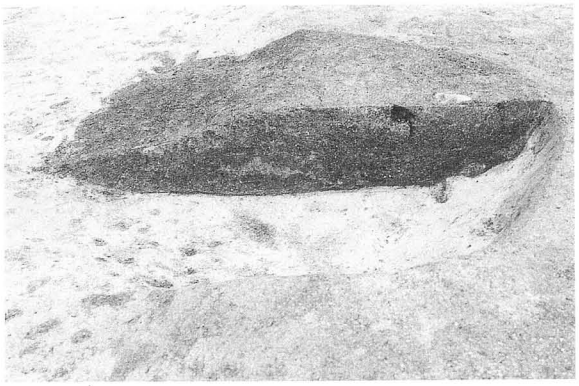
ＳＫ07　断面（Ｓ→）

ＳＫ08　完掘（Ｓ→）



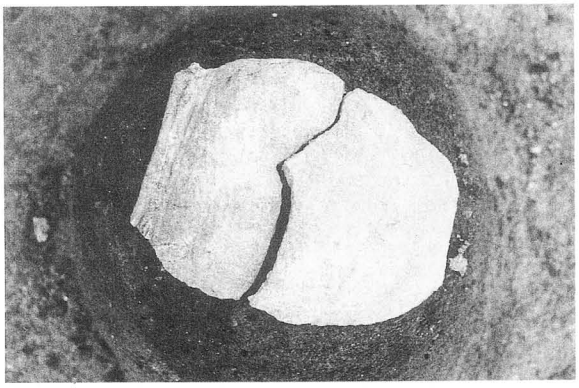
ＳＫ08　断面（ＮＥ→）

ＳＫ09　完掘（Ｅ→）



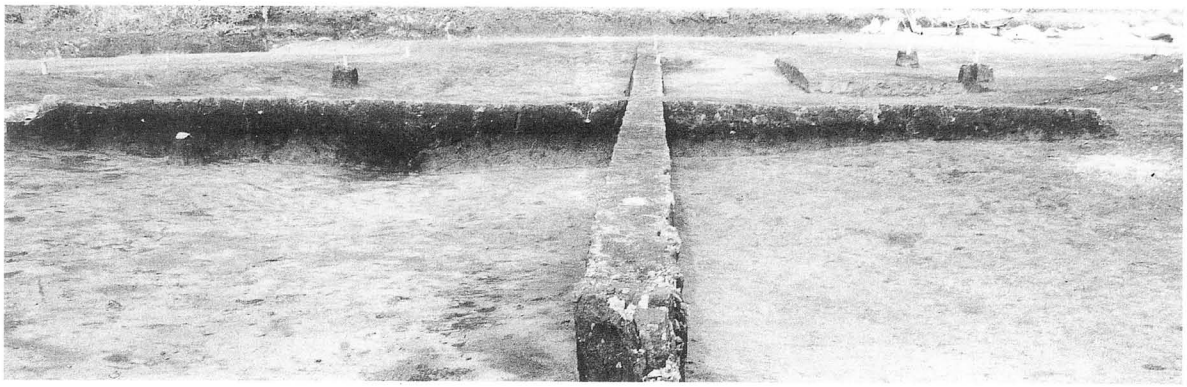
ＳＫ09　断面（Ｓ→）

遺物包含層遺物出土状況

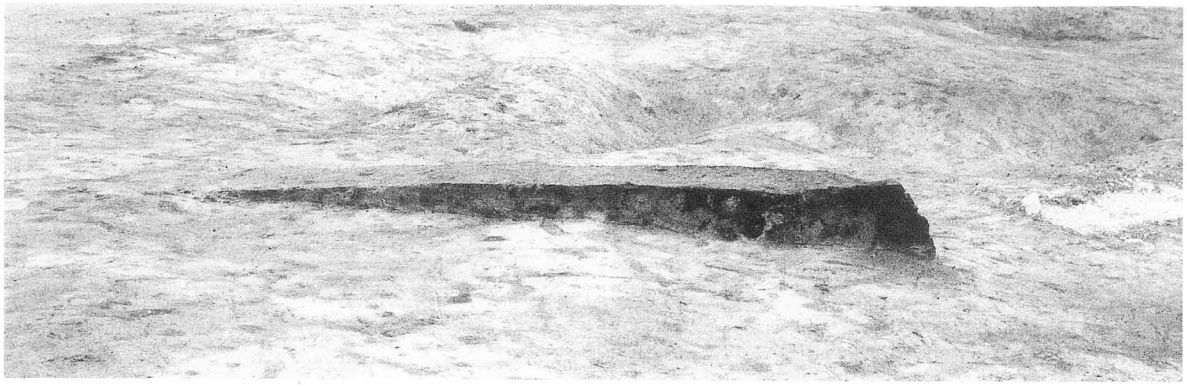


遺物包含層遺物出土状況

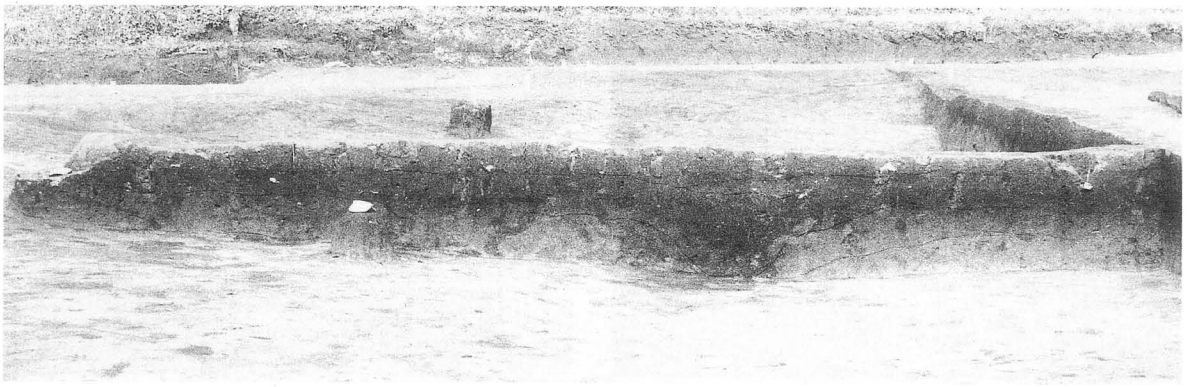
写真図版３　土坑（２）・遺物包含層



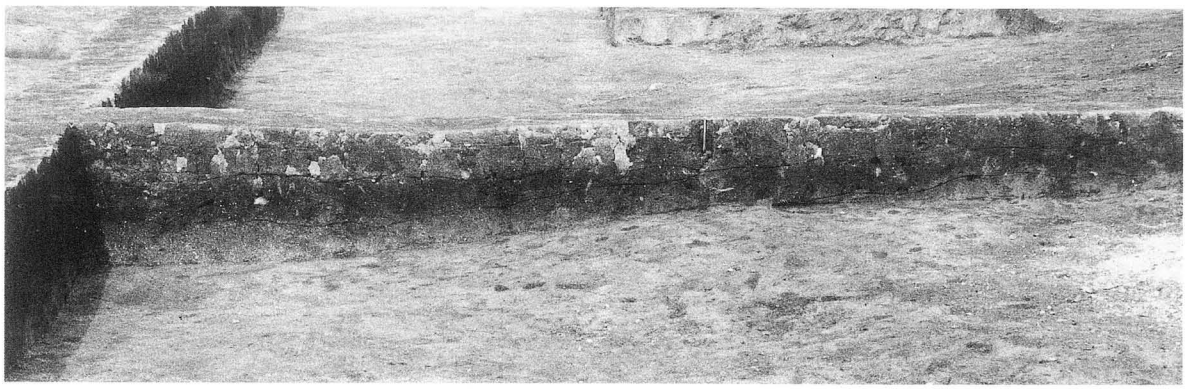
全体（W→）



ⅡA12wグリッド付近（W→）



ⅡA13wグリッド付近（W→）

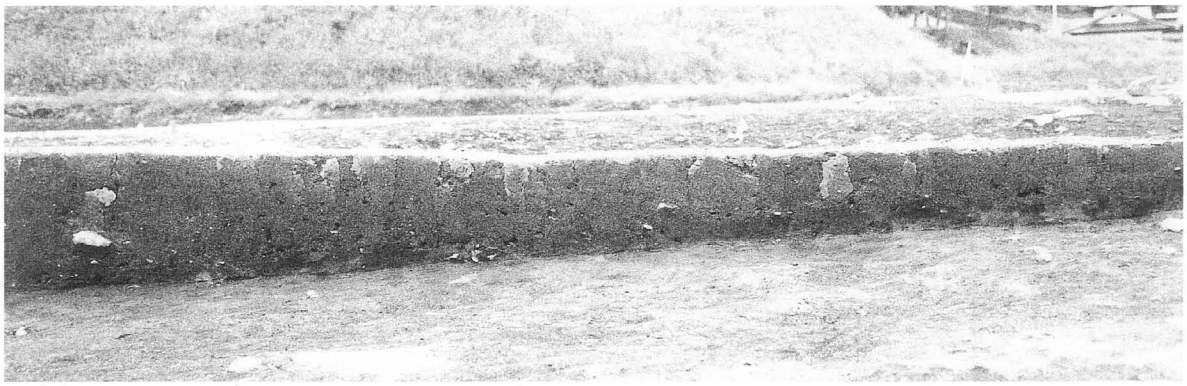


ⅡA14wグリッド付近（W→）

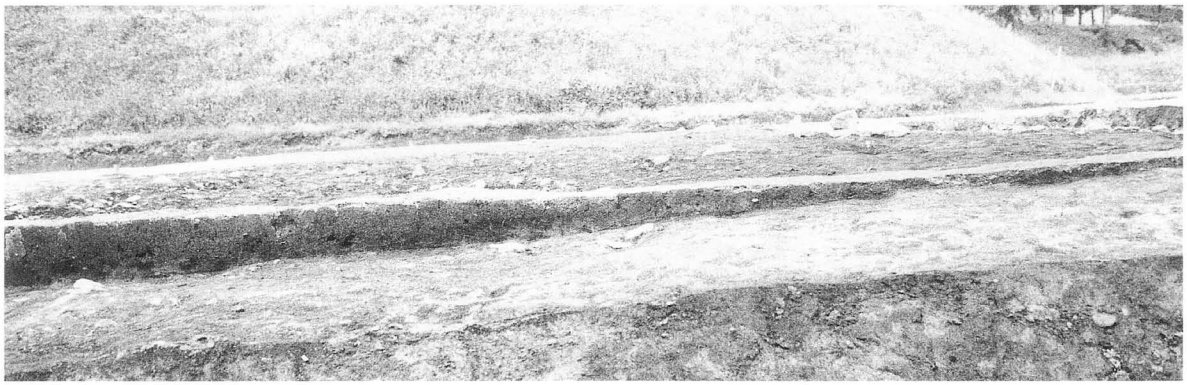
写真図版４　遺物包含層南北ベルト断面（１）

ⅡA15wグリッド付近（W→）

ⅡA16wグリッド付近（W→）

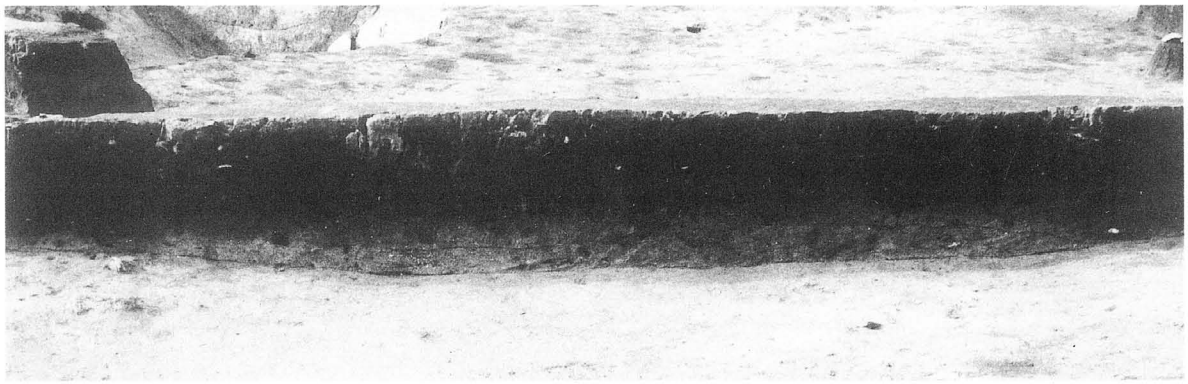


ⅡA17wグリッド付近（W→）

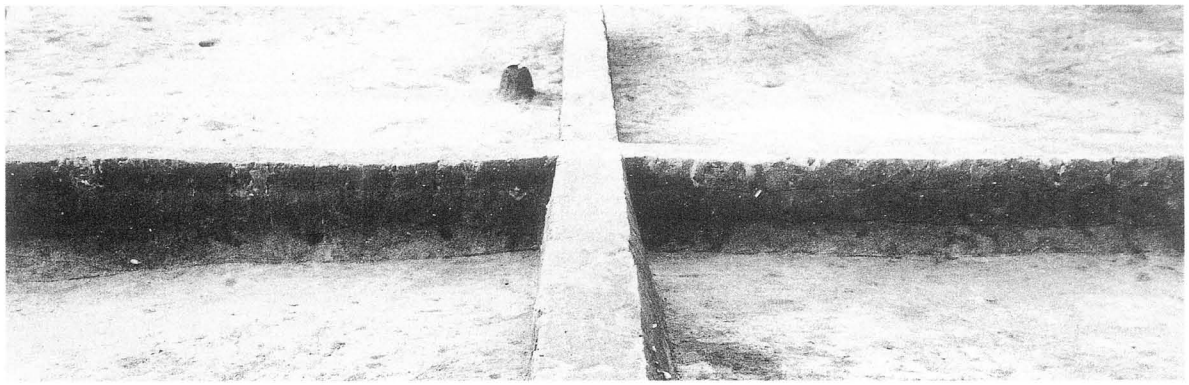


ⅡA18wグリッド付近（W→）

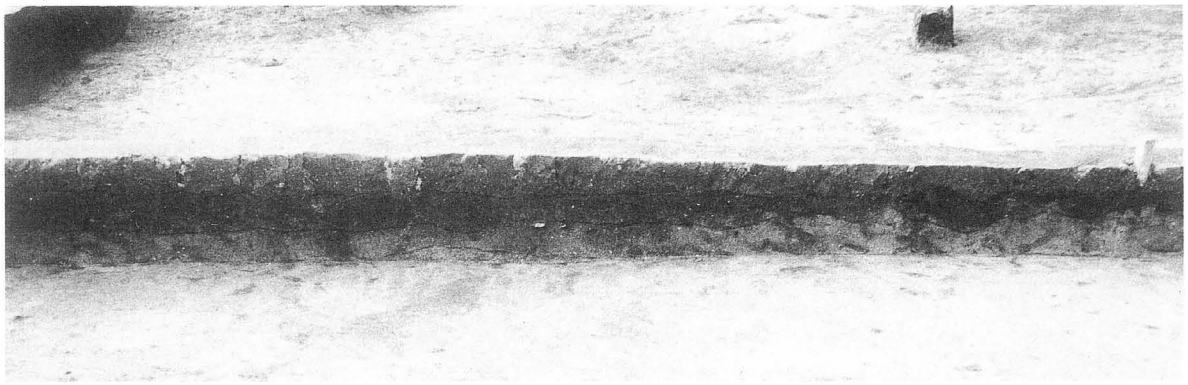
写真図版５　遺物包含層南北ベルト断面（２）



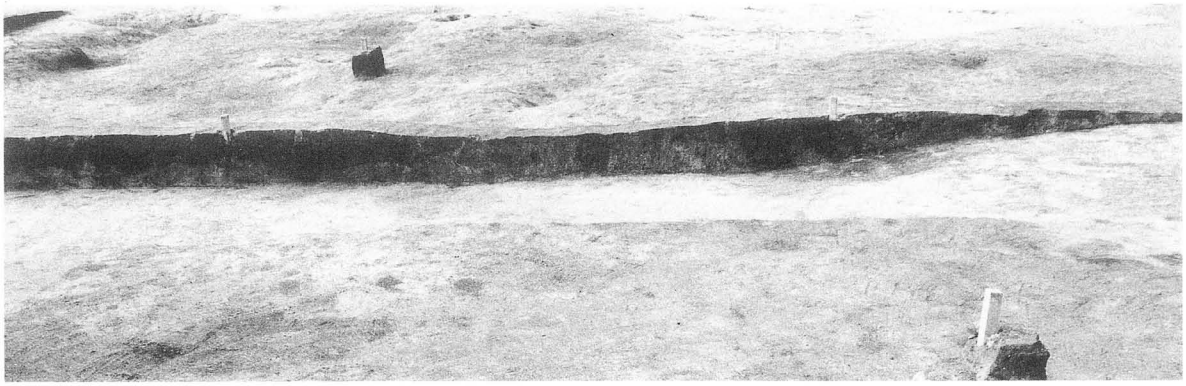
ⅡA13wグリッド付近（S→）



ⅡA13w・xグリッド付近（S→）



ⅡA13xグリッド付近（S→）



ⅡA13yグリッド付近（S→）

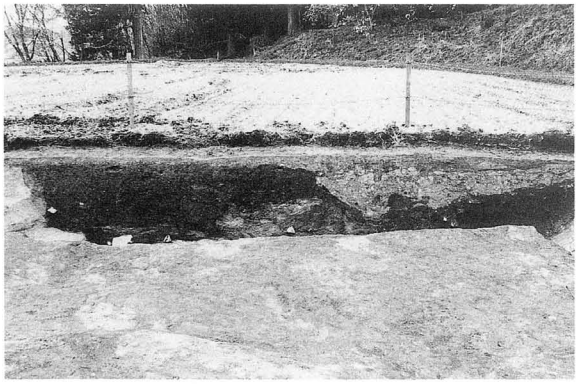
写真図版６　遺物包含層東西ベルト断面

柱穴状土坑①（S→）

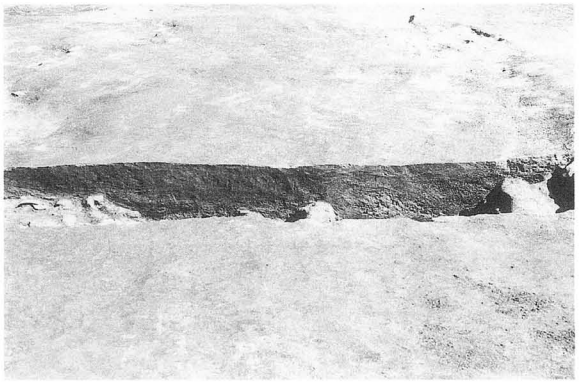
柱穴状土坑②（S→）

写真図版７　柱穴状土坑

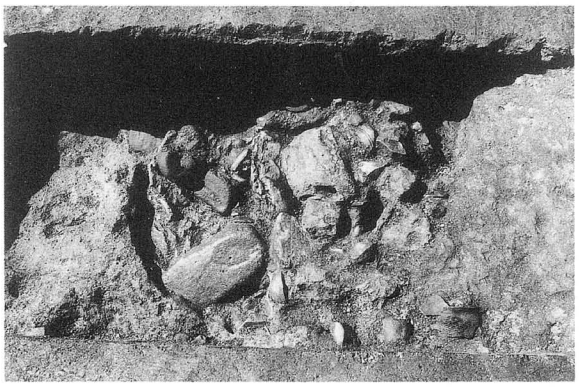
旧河道１　全景（ＮＥ→）



旧河道１　断面（ＳＥ→）

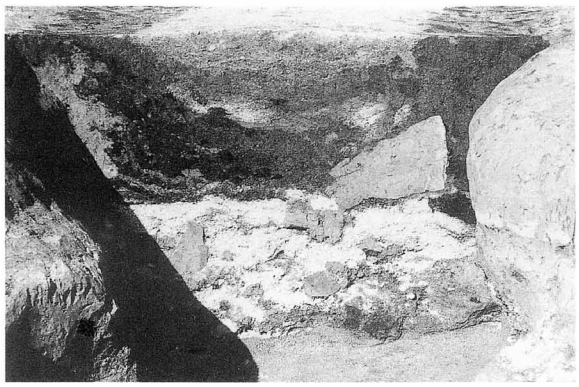


旧河道１　断面（Ｗ→）

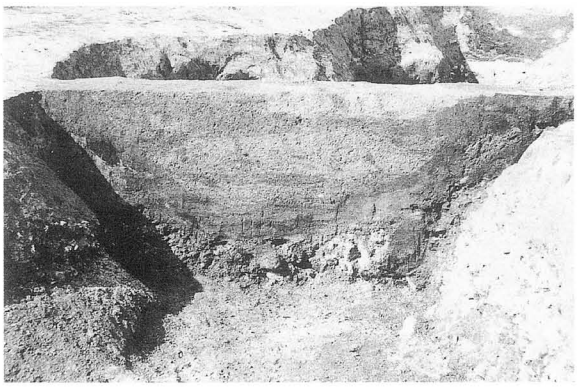


旧河道１　遺物出土状況

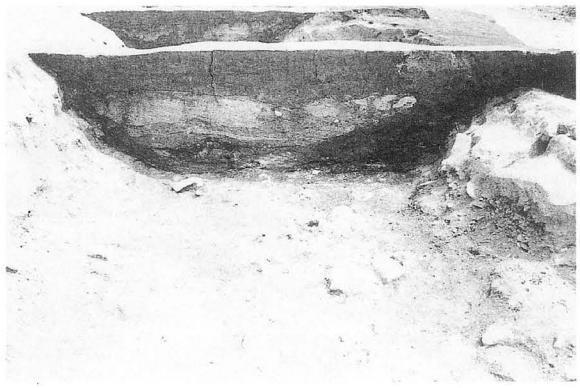
旧河道２　全景（Ｓ→）



旧河道２　断面①（Ｓ→）

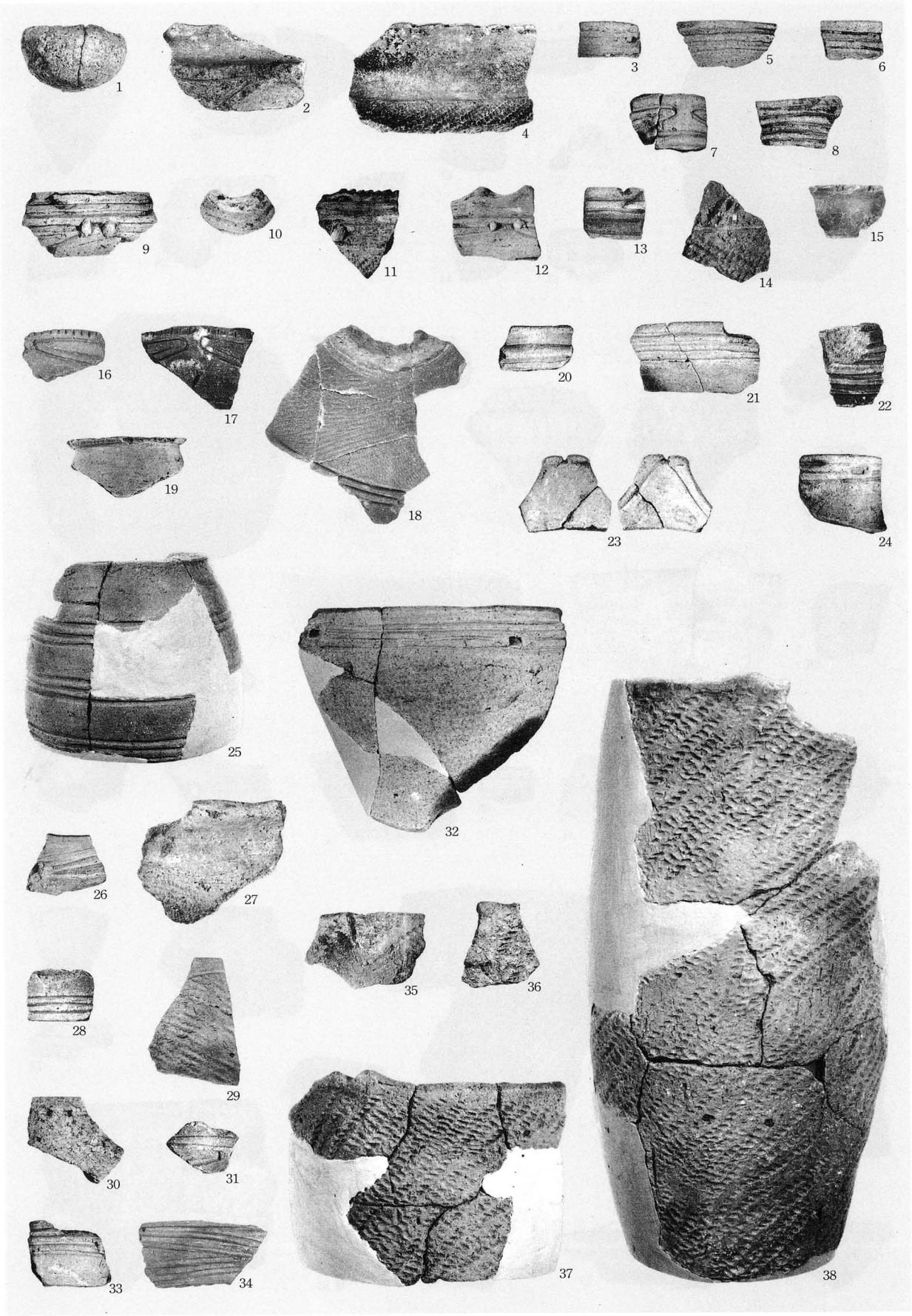


旧河道２　断面②（Ｓ→）

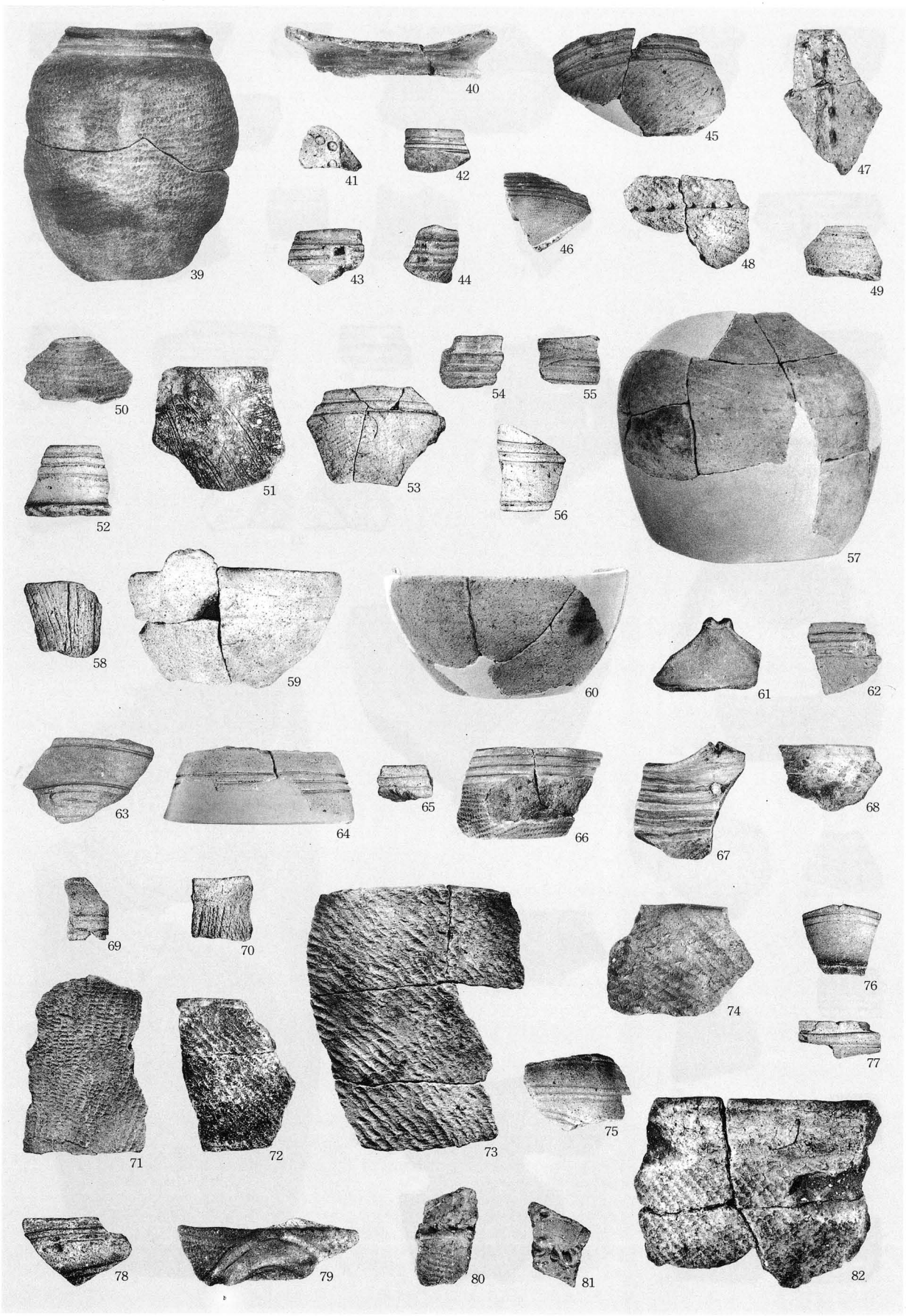


旧河道２　断面③（Ｓ→）

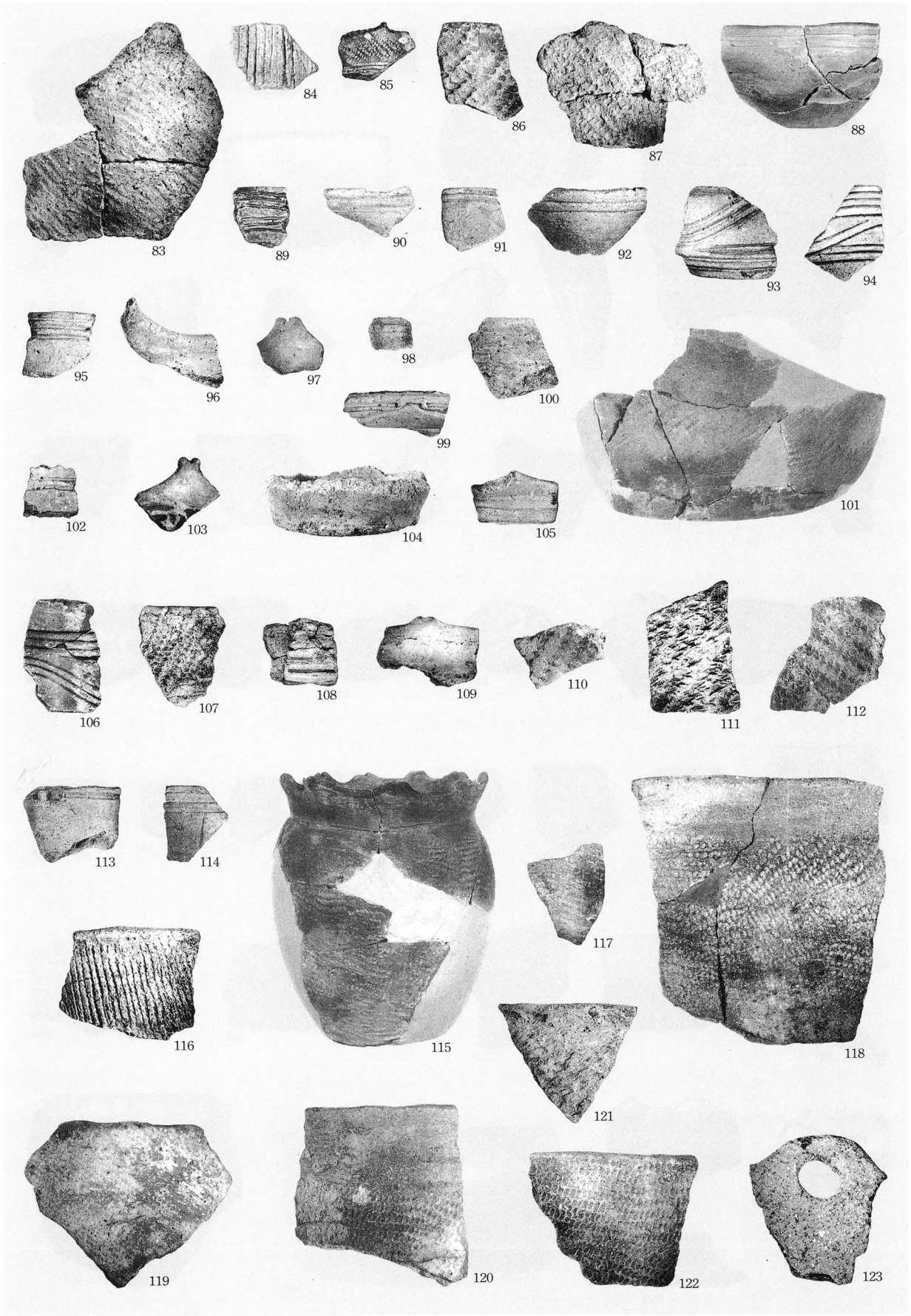
写真図版８　旧河道



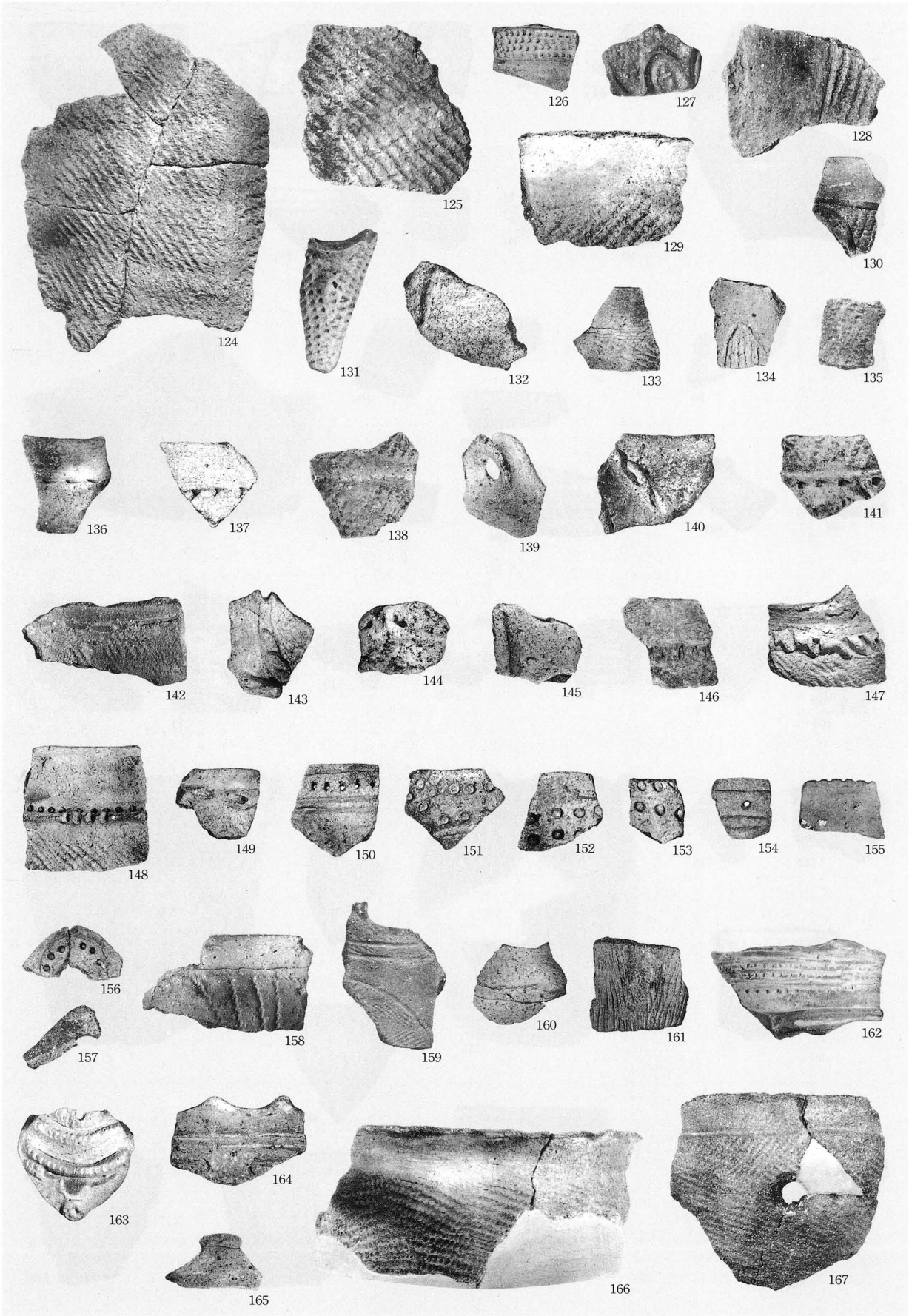
写真図版９　遺構内外出土遺物（土器１）



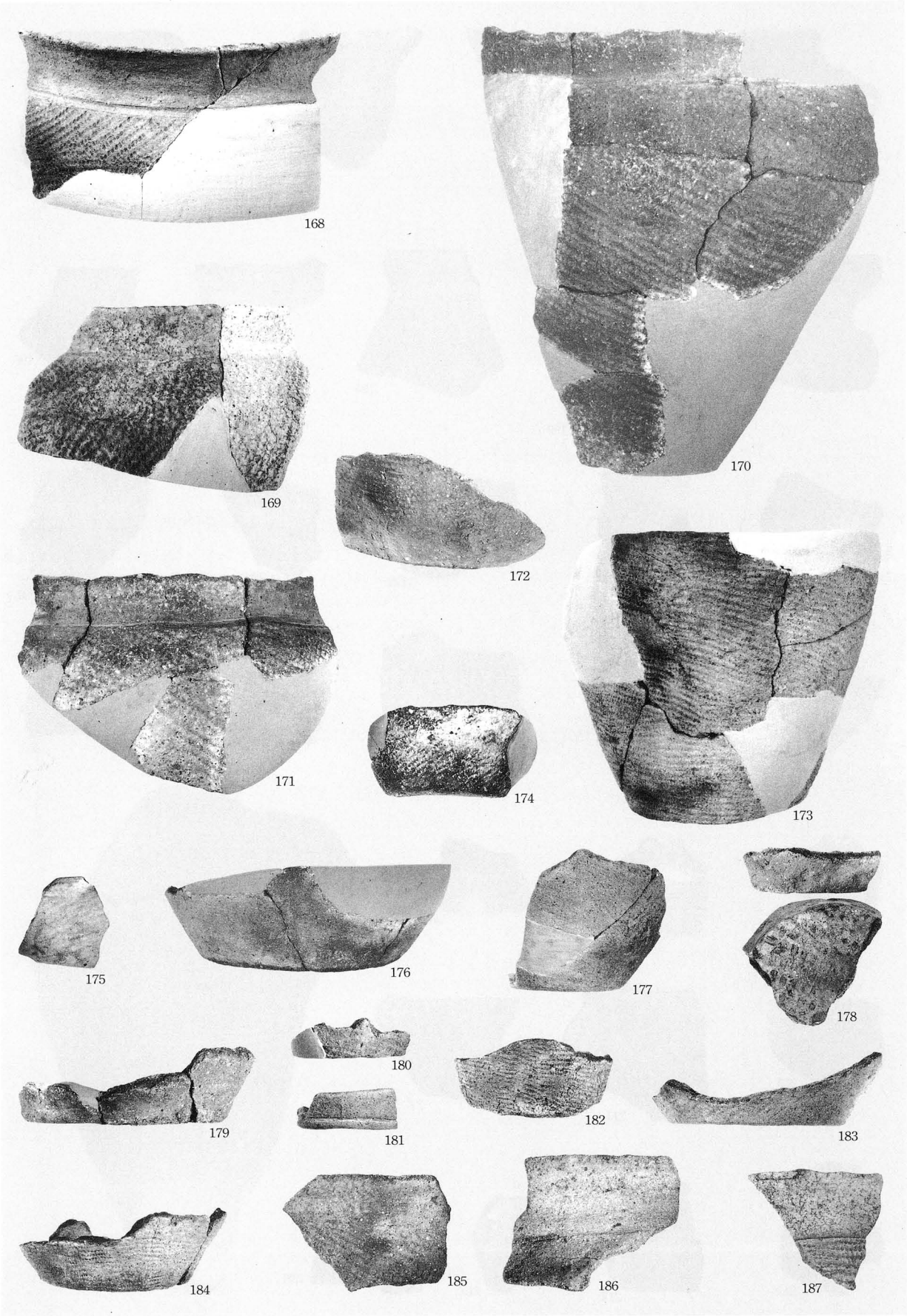
写真図版10　遺構外出土遺物(土器２)



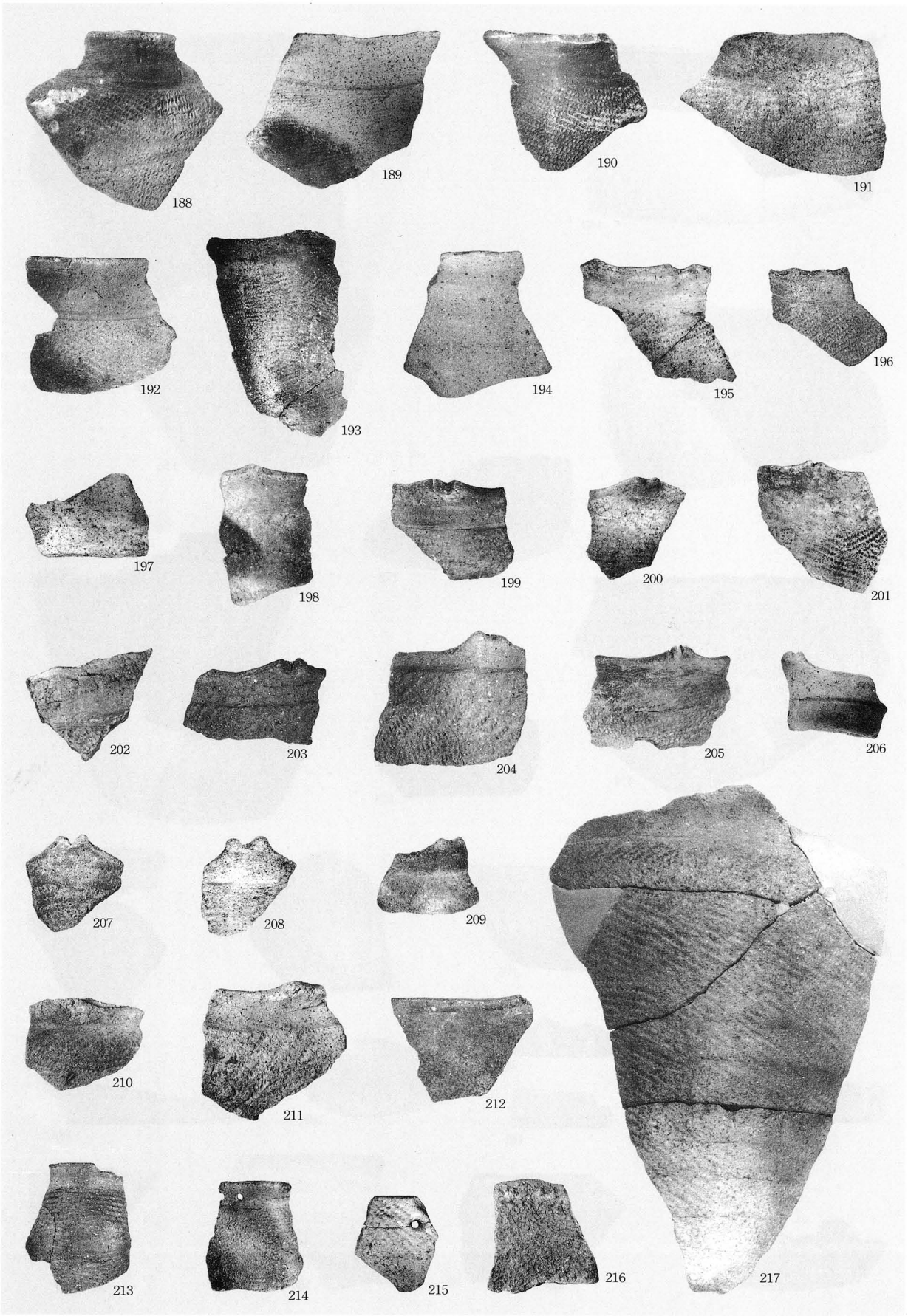
写真図版11　遺構外出土遺物（土器３）



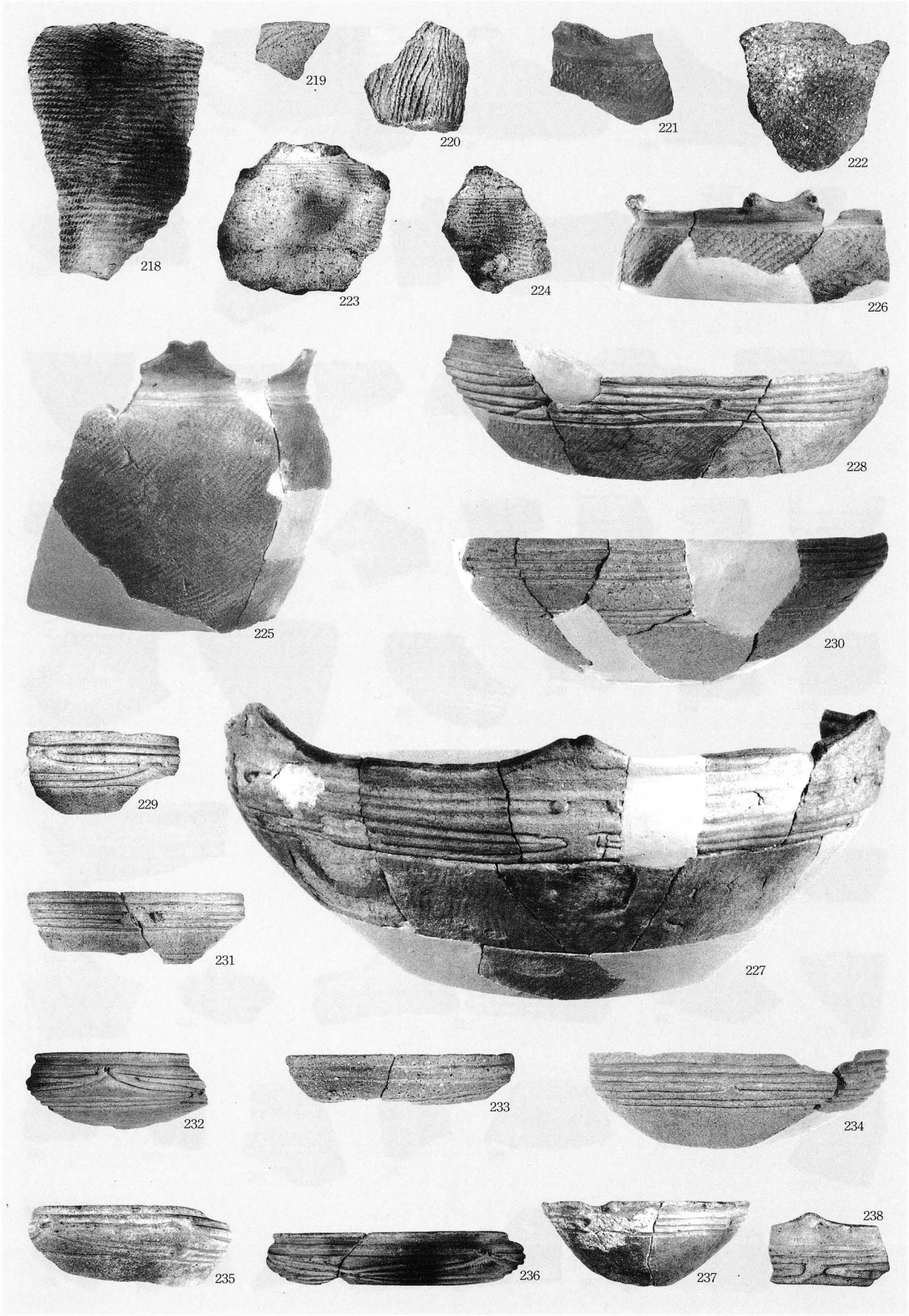
写真図版12　遺構外出土遺物(土器４)



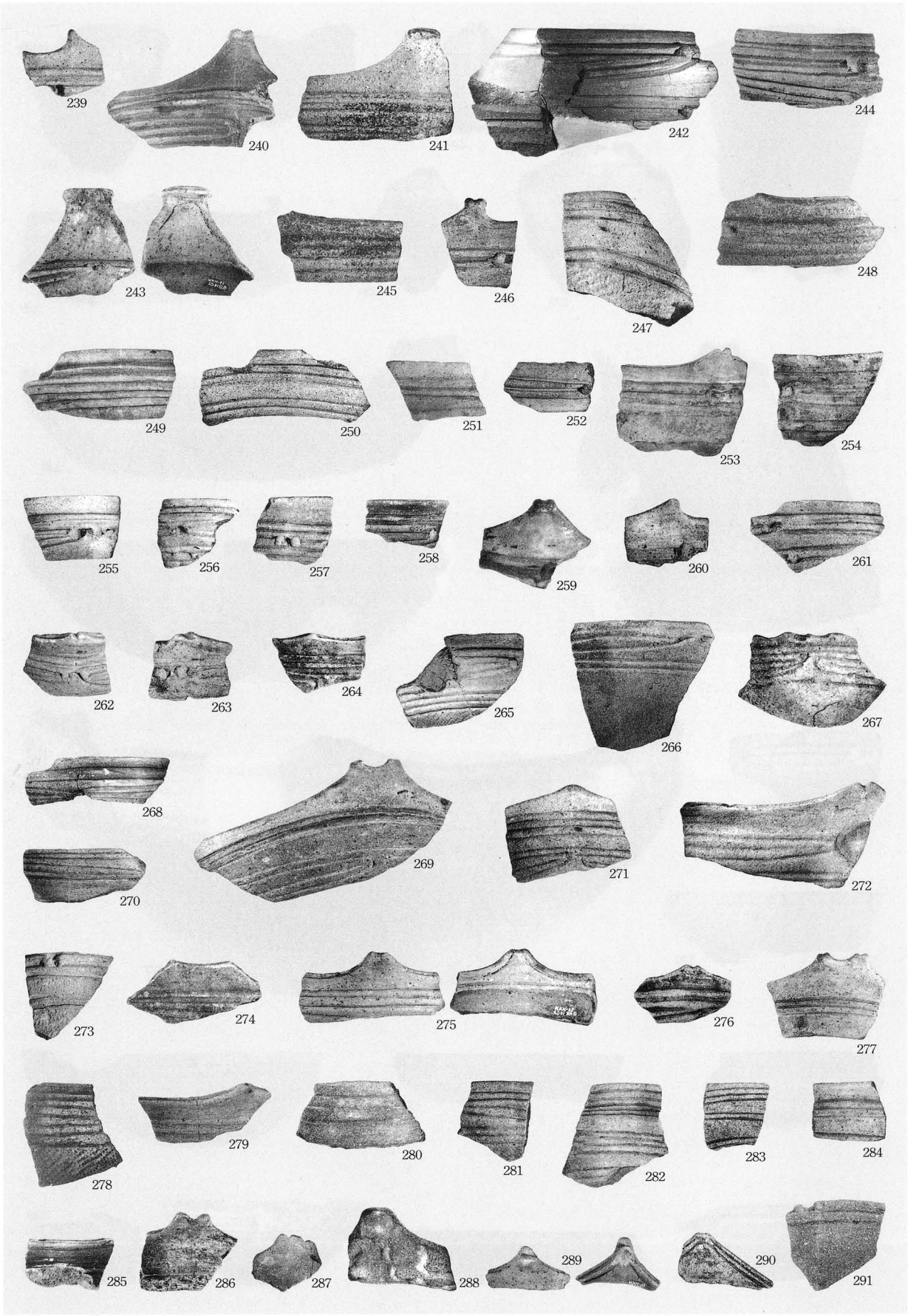
写真図版13　遺構外出土遺物（土器５）



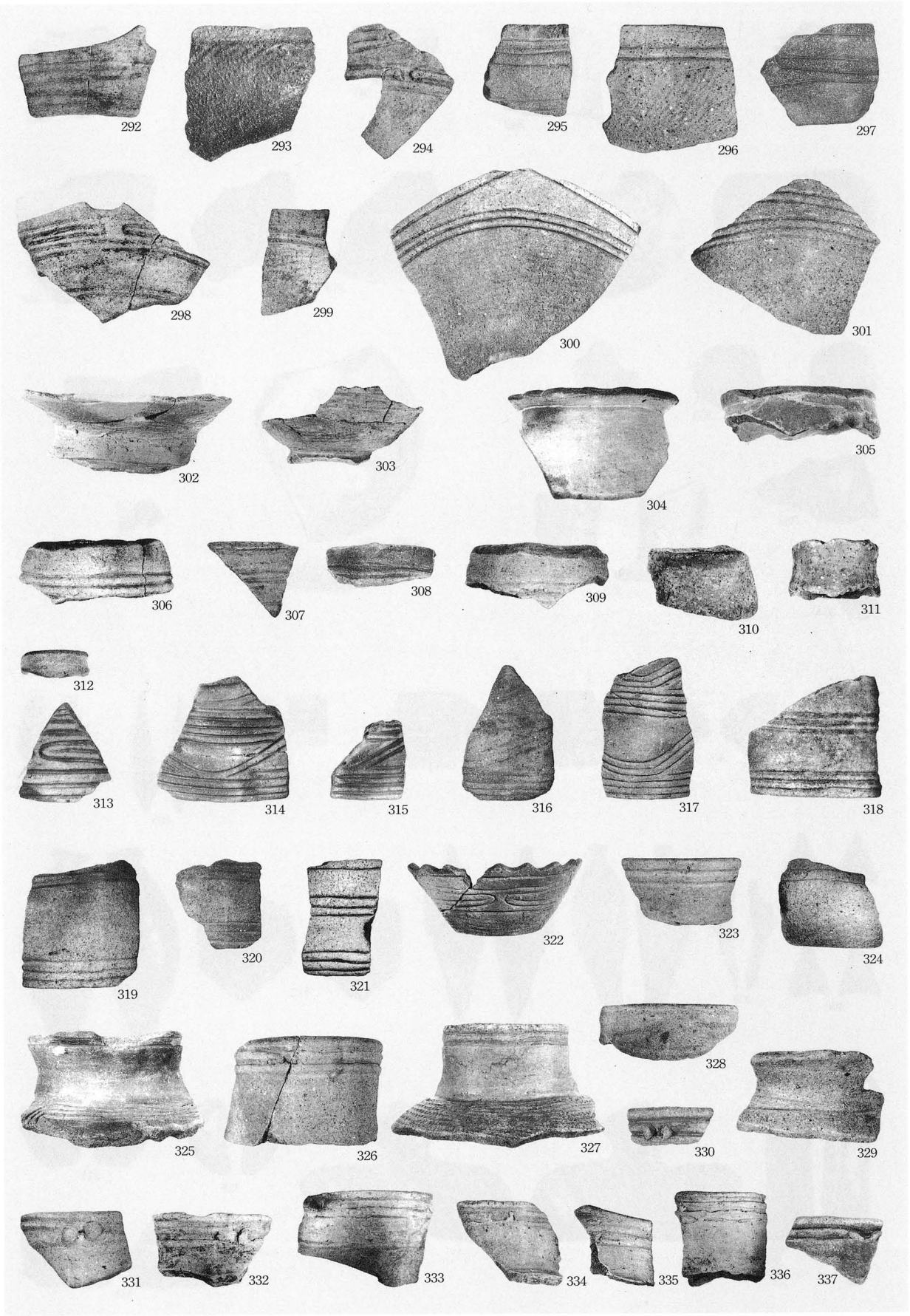
写真図版14　遺構外出土遺物(土器６)



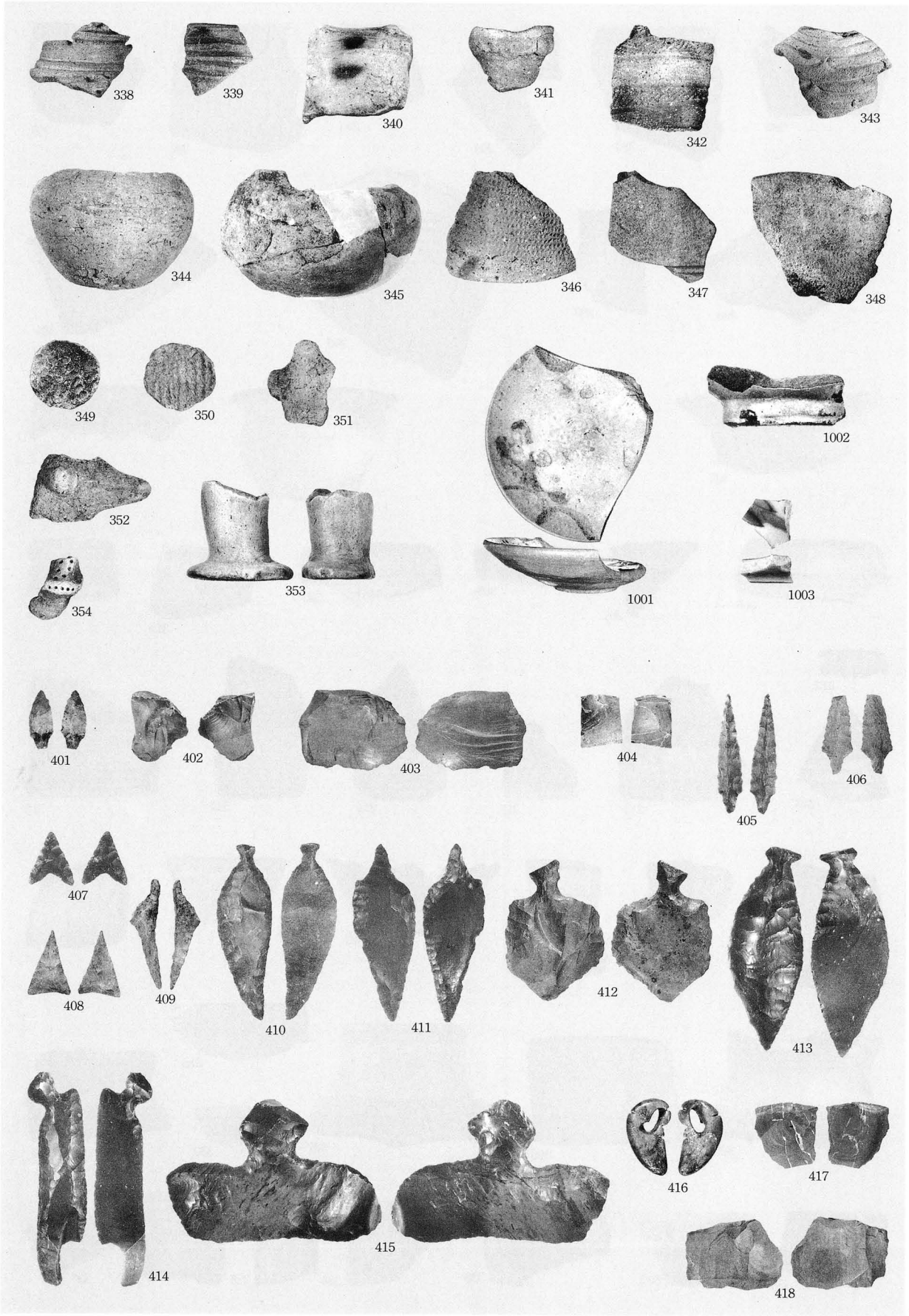
写真図版15　遺構外出土遺物（土器７）



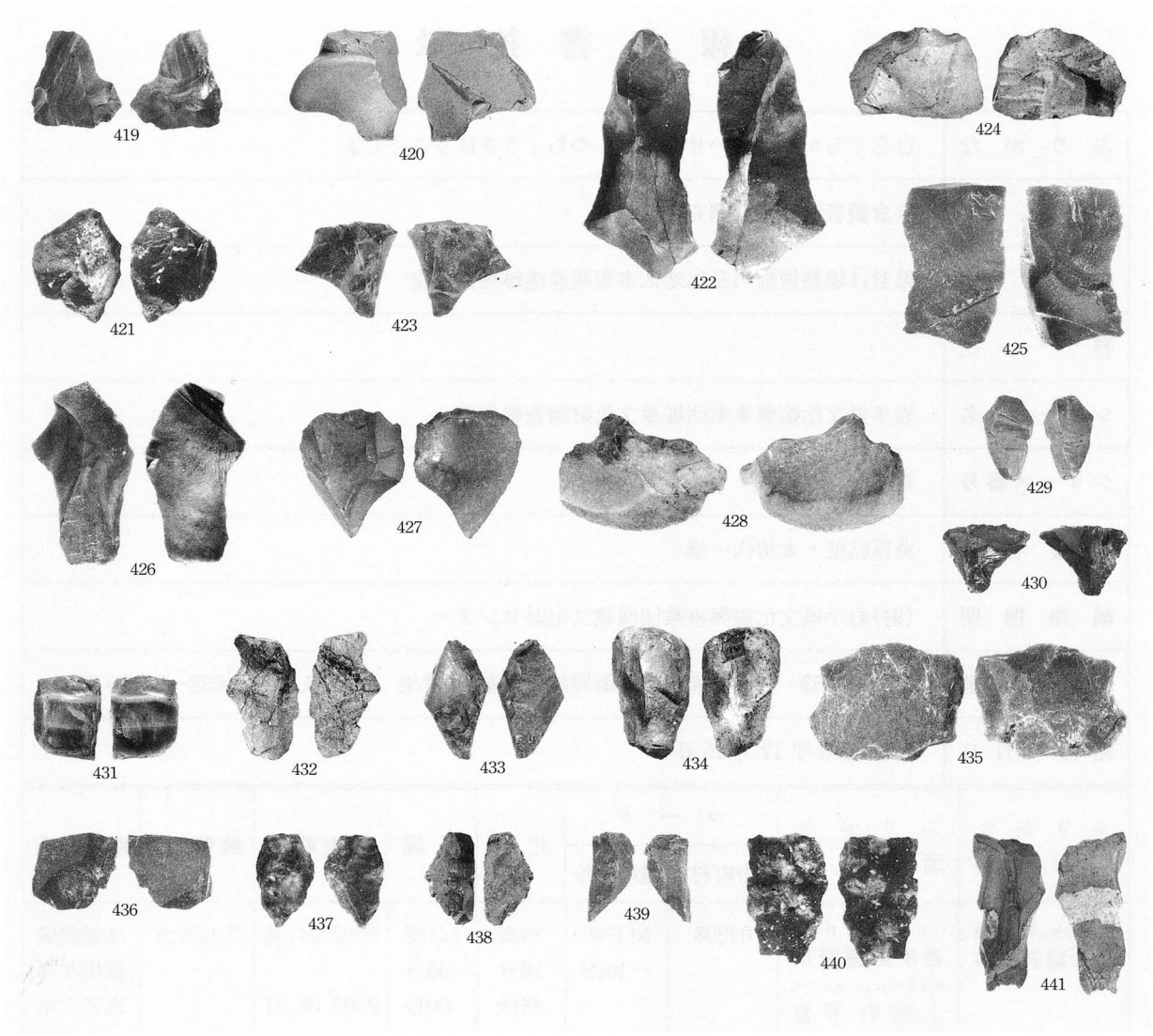
写真図版16　遺構外出土遺物（土器８）



写真図版17　遺構外出土遺物（土器９）



写真図版18　遺構外出土遺物(土器10・陶磁器・石器)



写真図版19　遺構外出土遺物（石器２）

報 告 書 抄 録

ふりがな	ひらくらかんのんいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	平倉観音遺跡発掘調査報告書
副書名	県営ほ場整備猫川左岸地区事業関連遺跡発掘調査
巻次	
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第448集
編著者名	島原弘征・太田代一彦
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡第11地割185番地 TEL 019－638－9001・9002
発行年月日	西暦2003年12月25日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ひらくらかんのんいせき 平倉観音遺跡	いわてけんとおのし 岩手県遠野市 かみごうちょうひらくら 上郷町平倉 だい ちわりあざ 第47地割字 かんのん ばんち 観音21番地ほか	03208	MF66 －1099	39度 16分 46秒	141度 35分 00秒	2002.04.08 ～ 2002.05.31	2,600㎡	ほ場整備猫川左岸地区工事に伴う緊急発掘調査
				世界測地系				

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平倉観音遺跡	集落跡	縄文時代		縄文土器 石鏃・石匙	
		弥生時代	遺物包含層 1箇所	弥生土器	
		時期不明	土坑 7基 柱穴状土坑 154基	陶磁器破片 鉄製品	

平成15年度（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター職員名簿

所　　長　木村　昇

副所長　平野允苗

〔管理課〕

課長	韮沢正吾
課長補佐	山岸直美
主査	中嶋賢一
主事	猿橋幸子
嘱託	高橋照雄
〃	湯沢邦子
〃	沼田テル子
〃	伊藤滋子

〔調査第一課〕

課長	佐々木勝
課長補佐	佐々木清文
文化財専門員	金子昭彦
文化財調査員	吉田充
〃	亀大二郎
〃	野中真盛
〃	新妻伸也
〃	阿部勝則
〃	杉沢昭太郎
〃	西澤正晴
〃	村木敬
文化財調査員	北村忠昭
〃	八木勝枝
〃	丸山浩治
〃	北田勲
〃	島原弘征
期限付調査員	坂部恵造
〃	小林弘卓
〃	小針大志
〃	藤原大輔
〃	太田代一彦
〃	新井田えり子

〔調査第二課〕

課長	三浦謙一
課長補佐	中川重紀
〃	高橋義介
文化財専門員	小山内透
〃	金子佐知子
〃	濱田宏
文化財調査員	赤石登
〃	阿部眞澄
〃	水上明博
〃	阿部憲
〃	早坂淳
〃	小松則也
〃	阿部徳幸
〃	窓岩伸吾
〃	亀澤盛行
〃	飯坂一重
〃	鈴木裕明
〃	林勲
〃	阿部孝明
〃	羽柴直人
文化財調査員	星雅之
〃	佐藤淳一
〃	星幸文
〃	溜浩二郎
〃	本多準一郎
〃	丸山直美
〃	福島正和
〃	米田寛
〃	須原拓
〃	川又晋
〃	中村絵美
〃	村田淳
〃	（村上拓）
期限付調査員	齋藤麻紀子
〃	石崎高臣
〃	吉田里和
〃	立花裕
〃	江藤敦
〃	駒木野智寛

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第448集

平倉観音遺跡発掘調査報告書

県営ほ場整備猫川左岸地区工事関連遺跡発掘調査

印刷　平成15年12月17日
発行　平成15年12月25日

発　行　(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853　岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
TEL　(019) 638－9001・9002
FAX　(019) 638－8563

印　刷　有限会社　内　海　印　刷
盛岡営業所　〒020-0875 岩手県盛岡市清水町８－８－108
TEL　(019) 622－0288
本　　社　〒026-0041 岩手県釜石市上中島町４－２－４
TEL　(0193) 23－5511

© (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2003